

千葉県匝瑳郡光町
夏台遺跡

—ひかり工業団地埋蔵文化財調査—

2000

千葉県企業庁
財団法人 東総文化財センター

ち　ば　けん　そ　う　き　ぐ　ん　ひ　か　り　ま　ち
千葉県匝瑳郡光町

な　つ　だ　い　い　せ　き
夏台遺跡

—ひかり工業団地埋蔵文化財調査—

2000

千葉県企業庁
財団法人 東総文化財センター

序 文

千葉県北東部に位置する海匝郡市は、温暖な気候に恵まれて古くから文化の栄えた地域で、数多くの遺跡があります。

このたび、財団法人東總文化財センター発掘調査報告書第20集として千葉県企業庁のひかり工業団地造成事業に伴って実施した光町夏台遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

調査の結果、縄文時代から近世にかけての遺物が出土し、当地域の歴史を解明する手がかりを得る事ができました。この報告書が研究者のみならず、より多くの方々に活用されることを願ってやみません。

最後に、御指導、御協力を頂いた諸氏・諸機関に対してお礼を申し上げるとともに、発掘調査から整理作業まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成12年3月

財団法人 東總文化財センター
理事長 清 古 正 士

例　　言

1. 本書は千葉県企業庁によるひかり工業団地造成事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
2. 本書に収録した遺跡は、千葉県匝瑳郡光町鈴木字夏台4784番地外に所在する夏台遺跡（遺跡コードH-24）である。
3. 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県企業庁の委託を受け、財団法人東総文化財センターが実施した。
4. 発掘調査及び整理作業は、調査課長 川島利通（平成8年度）、同横山仁（平成9年度～）の指導のもとに、主任調査研究員 道澤明、同鈴木美成、同實川理、調査研究員 小林弘美が下記の期間実施した。
発掘調査 平成7年12月1日～平成8年3月15日、平成8年5月7日～平成9年3月31日、平成9年6月27日～平成10年2月6日。
整理作業 平成10年4月1日～平成10年5月7日、平成10年6月23日～平成10年9月9日、平成10年10月1日～平成11年4月30日。
5. 出土遺物、実測原図、写真等は光町教育委員会が保管している。
6. 本書の執筆、編集は調査課長 横山仁の指導のもとに、主任調査研究員 道澤明が第2章第1節を担当し、主任調査研究員 鈴木美成がその他を担当した。
7. 報告書作成に当っては、下記の諸機関・諸氏の御指導、御教授を賜った。（敬称略・順不同）
国立歴史民俗博物館 教授 西本豊弘、（財）千葉市文化財調査協会 山下亮介、千葉県立匝瑳高等学校教諭 加瀬靖之、（財）千葉県文化財センター 研究員 笹生衛
8. 発掘調査から報告書刊行に至るまで、千葉県教育厅生涯学習部文化課、千葉県企業庁、光町教育委員会の御指導、御協力を得た。
9. 本書で使用した地形図は下記のとおりである。
第1図 千葉県企業庁東総建設事務所発行1/1,000地形図
第4図 千葉県企業庁東総建設事務所発行1/2,500地形図

目 次

序文

例言

第1章 調査の概要	1
第1節 調査方法及び調査経過	1
第2章 遺構と遺物	5
第1節 旧石器	5
第2節 陶穴・炉穴	7
第3節 住居跡	13
第4節 古墳	20
第5節 墳	29
第3章 その他の遺構	32
第1節 粘土探掘坑	32
第2節 粘土貼り土坑	32
第3節 土壙墓	35
第4節 土 坑	46
第5節 火葬遺構	56
第6節 溝	58
第7節 グリッド出土の遺物	58
第4章 まとめ	65

挿図目次

第1図 グリッド設定図	1	第17図 4号住居跡出土遺物実測図	15
第2図 遺構全測図	2	第18図 5号住居跡・出土遺物実測図・拓影図	16
第3図 溝全測図	3	第19図 6号住居跡・出土遺物実測図	17
第4図 ひかり工業団地内調査区域追跡地図	4	第20図 7号、8号住居跡・出土遺物実測図・拓影図	
第5図 層序と出土位置図	5		18
第6図 旧石器時代遺物実測図	6	第21図 9号住居跡出土遺物実測図・拓影図	19
第7図 陶穴出土遺物拓影図	7	第22図 1号古墳埋葬施設実測図	20
第8図 1号～4号陶穴実測図（1）	8	第23図 1号古墳実測図	21
第9図 5号～7号陶穴実測図（2）	9	第24図 2号古墳実測図	23
第10図 8号～11号陶穴実測図（3）	10	第25図 2号古墳埋葬施設実測図	23
第11図 炉穴出土遺物拓影図	11	第26図 2号古墳周溝出土遺物実測図	25
第12図 炉穴実測図	12	第27図 3号古墳実測図	25
第13図 1号住居跡・出土遺物実測図	13	第28図 1号～3号古墳埋葬施設出土遺物実測図	
第14図 1号住跡出土遺物実測図	14		26
第15図 2号住居跡実測図	14	第29図 3号古墳埋葬施設実測図	26
第16図 3号、4号住居跡実測図	15	第30図 3号古墳周溝出土遺物拓影図	27

第31図	4号古墳・埋葬施設実測図	27	第50図	1号土坑・出土遺物実測図・拓影図	46
第32図	5号古墳埋葬施設実測図	28	第51図	2号～15号土坑実測図	47
第33図	塚墳丘実測図	29	第52図	21号土坑出土遺物拓影図	48
第34図	塚遺物実測図	29	第53図	16号～26号土坑実測図	48
第35図	塚基壇実測図	30	第54図	27号～35号土坑実測図	49
第36図	塚墳丘土層断面実測図	31	第55図	36号～44号土坑実測図	50
第37図	1号粘土探掘坑実測図	33	第56図	45号～52号土坑実測図	51
第38図	1号～3号粘土貼り土坑	33	第57図	53号～62号土坑実測図	52
第39図	2号粘土探掘坑・出土遺物実測図	34	第58図	2号土坑出土遺物実測図・拓影図	55
第40図	1号土壤墓・出土遺物実測図	35	第59図	6号、9号～11号、28号、36号～38号、 58号土坑出土遺物実測図・拓影図	55
第41図	2号土壤墓・出土遺物、3号土壤墓実測図	36	第60図	火葬遺構出土遺物拓影図	56
第42図	4号～9号土壤墓実測図	37	第61図	火葬遺構実測図	57
第43図	10号～14号土壤墓実測図	38	第62図	溝出土遺物実測図・拓影図	59
第44図	15号～22号土壤墓実測図	39	第63図	グリッド出土遺物実測図(1)	60
第45図	23号～29号土壤墓実測図	40	第64図	グリッド出土遺物拓影図(2)	61
第46図	30号～39号土壤墓実測図	41	第65図	グリッド出土遺物拓影図(3)	62
第47図	40号～47号土壤墓実測図	42	第66図	グリッド出土遺物実測図・拓影図(4)	63
第48図	48号～52号土壤墓実測図	43	第67図	グリッド出土遺物実測図・拓影図(5)	64
第49図	11号、16号、18号、24号、30号、43号土壤墓 出土遺物実測図・拓影図	44	第68図	グリッド出土遺物実測図(6)	65

表目次

第1表	陥穴計測表	7	第5表	火葬遺構計測表	56
第2表	炉穴計測表	11	第6表	溝計測表	67
第3表	土壤墓計測表	44	第7表	古錢觀察表	69
第4表	土坑計測表	53	第8表	土器觀察表	70

図版目次

図版1	調査前全景、調査後全景	図版9	3号～5号住居跡
図版2	調査後空撮	図版10	5号住居跡遺物出土状況、6号住居跡
図版3	1号～8号陥穴	図版11	6号、7号住居跡
図版4	9号～11号陥穴、炉穴出土遺物、陥穴出土 遺物	図版12	6号住居跡竈・遺物出土状況、7号住居跡 竈遺物出土状況、8号住居跡
図版5	3号～5号、9号～12号炉穴	図版13	9号住居跡・掘り方
図版6	13号、16号～19号、21号～23号炉穴	図版14	1号住居跡出土遺物
図版7	1号住居跡・遺物出土状況	図版15	5号～9号住居跡出土遺物
図版8	1号住居跡遺物出土状況、2号住居跡	図版16	8号住居跡竈遺物出土状況、1号古墳・理

葬施設遺物出土状況、2号古墳・埋葬施設遺物出土状況	図版29	1号～4号火葬遺構、1号、3号火葬遺構遺物出土状況、3号火葬遺構土層断面、4号火葬遺構検出状況
図版17 2号古墳・遺物出土状況(周溝確認面)・埋葬施設土層断面・埋葬施設	図版30	5号火葬遺構、5号～6号火葬遺構遺物出土状況
図版18 3号古墳・埋葬施設・埋葬施設(掘り方)、4号、5号古墳埋葬施設	図版31	6号～8号火葬遺構、7号火葬遺構土層断面・遺物出土状況、8号火葬遺構土層断面・検出状況・遺物出土状況
図版19 塚調査前・調査後	図版32	2号、43号土壤墓出土遺物、火葬遺構出土古鉢、2号粘土探掘坑出土遺物
図版20 塚空掘・土層断面・調査風景	図版33	1号～3号土坑、10号、11号、21号、22号、24号、26号土坑
図版21 1号～3号古墳埋葬施設出土遺物、3号古墳周溝出土遺物、塚出土遺物、1号、11号、16号、18号、24号、30号、43号土壤墓出土遺物	図版34	27号～31号、33号～37号土坑
図版22 1号粘土探掘坑・土層断面、2号粘土探掘坑・土層断面、1号、2号粘土貼り土坑、1号土壤墓・遺物出土状況	図版35	38号～41号、43号、45号～47号土坑
図版23 1号、2号、4号、7号、9号、11号、12号土壤墓、2号土壤墓遺物出土状況	図版36	48号～50号、56号、57号土坑、1号土坑出土遺物
図版24 13号～16号、18号～21号土壤墓	図版37	1号、2号、6号、9号～11号、21号、28号、36号～38号、58号土坑墓出土遺物
図版25 22～25号、27号土壤、22号土壤墓ウマの歯出土状況、24号土壤墓遺物出土状況	図版38	14号、28号、33号、42号、43号、46号、47号溝、48号溝ウマの歯出土状況
図版26 28号、29号、32号～35号、37号、40号土壤墓	図版39	溝出土遺物、グリッド出土遺物(1)
図版27 42号～47号土壤墓、43号土壤墓遺物出土状況・頭蓋骨出土状況	図版40	グリッド出土遺物(2)
図版28 48号、50号～52号土壤墓、1号火葬遺構遺物出土状況	図版41	グリッド出土遺物(3)
	図版42	グリッド出土遺物(4)・表採遺物

第1章 調査の概要

本遺跡は、千葉県匝瑳郡光町篠本字夏台4784番地外に所在している。光町は、海浜都市内でも一番西寄りに位置し、南北に細長い地形を呈する。

本遺跡は、栗山川左岸の標高約37mの洪積台地に立地している。栗山川の周辺は、独木舟を数多く出土する泥炭遺跡が密集している。また、本遺跡から北に直線距離にして1kmの所に寒風城跡と要害台城跡がある。

本遺跡は、ひかり工業団地内遺跡群の西側に位置する。谷を挟んで東側には、新台遺跡・城山遺跡が所在し、さらにその東には、神山谷遺跡がある。その真西には、県道横芝停車場線が通っている。また北西側には、栗山川流域に水田地帯がある。

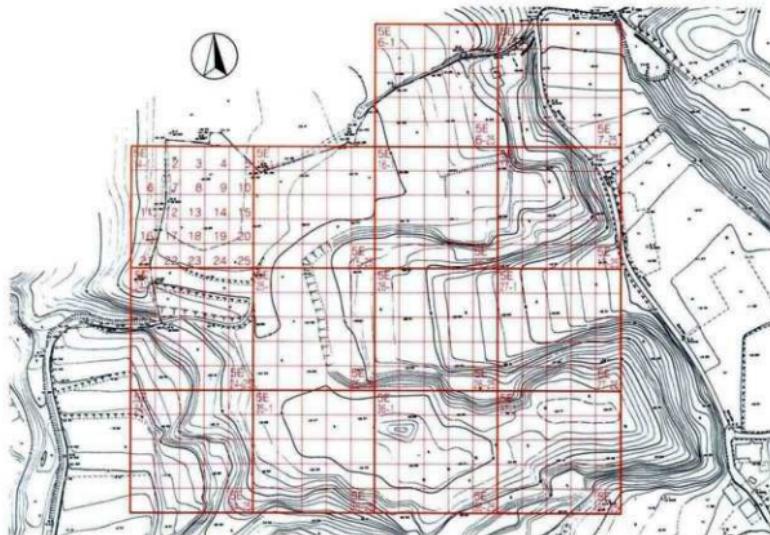
本遺跡の斜面部には、腰曲輪と思われる台地整形面がある。これは、城山遺跡を中心とした篠本城跡に関連するものであろう。

第1節 調査方法及び調査経過（第1図）

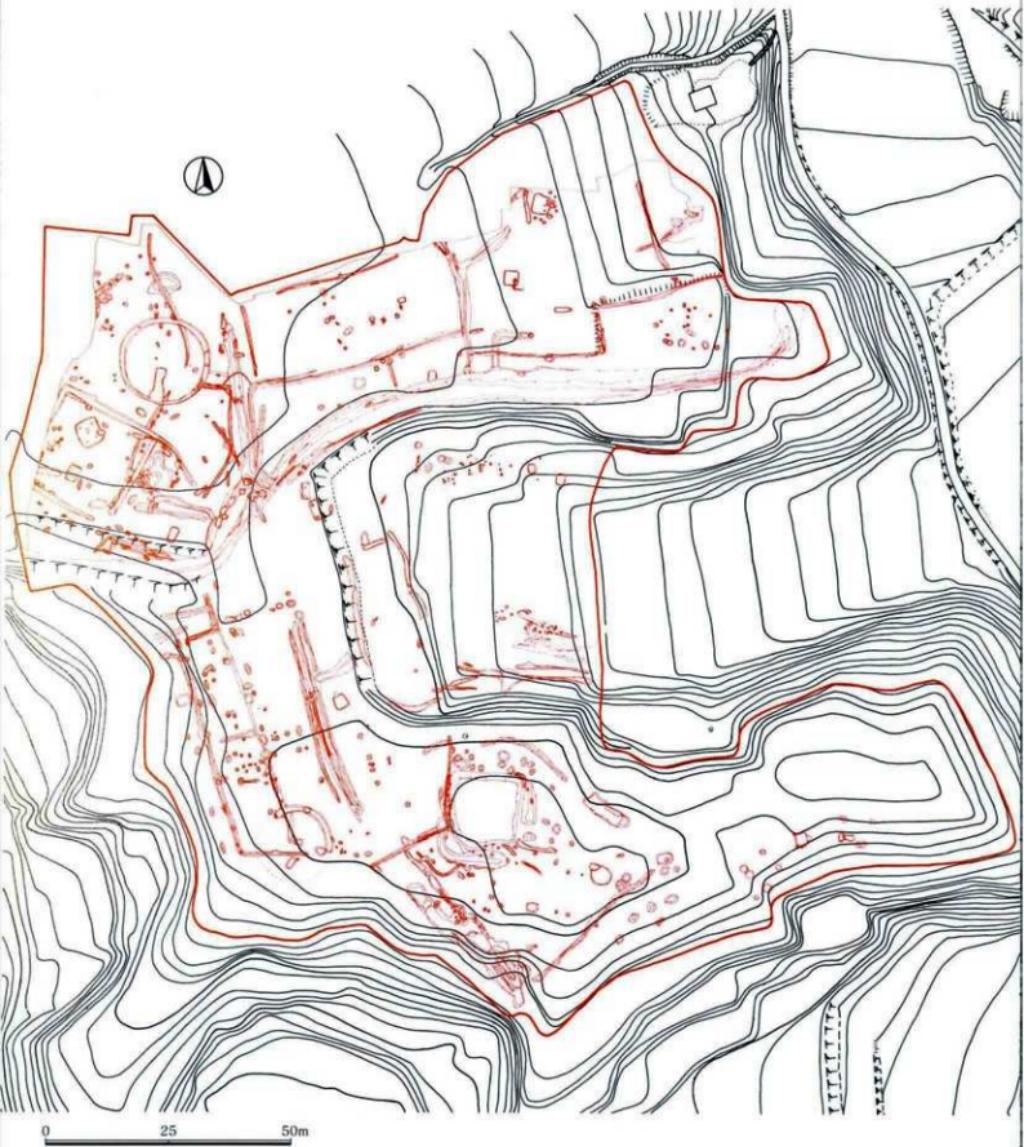
調査を始めるに当たり、調査対象区域を公共座標に合わせて、500m×500mの大グリッドを設定した。そして大グリッド内を50m×50mの中グリッドに分割し、さらに中グリッドを10m×10mに細分し、25個の小グリッドを設定した。大グリッドは北から南へ1, 2, 3、西から東へA, B, Cと記号をつけ、中グリッドは北西隅を起点に1, 2, 3, ..., 99, 100と番号をつけた。小グリッドは中グリッドと同様に、北西隅を起点に1, 2, 3, ..., 24, 25と番号をつけ、これらを組み合わせて呼称することとした。

確認調査は、調査対象面積1,800m²/18,000m²を行った。調査の結果、堅穴住居跡、土坑、溝等の遺構が調査区全域に分布していることが分かった。

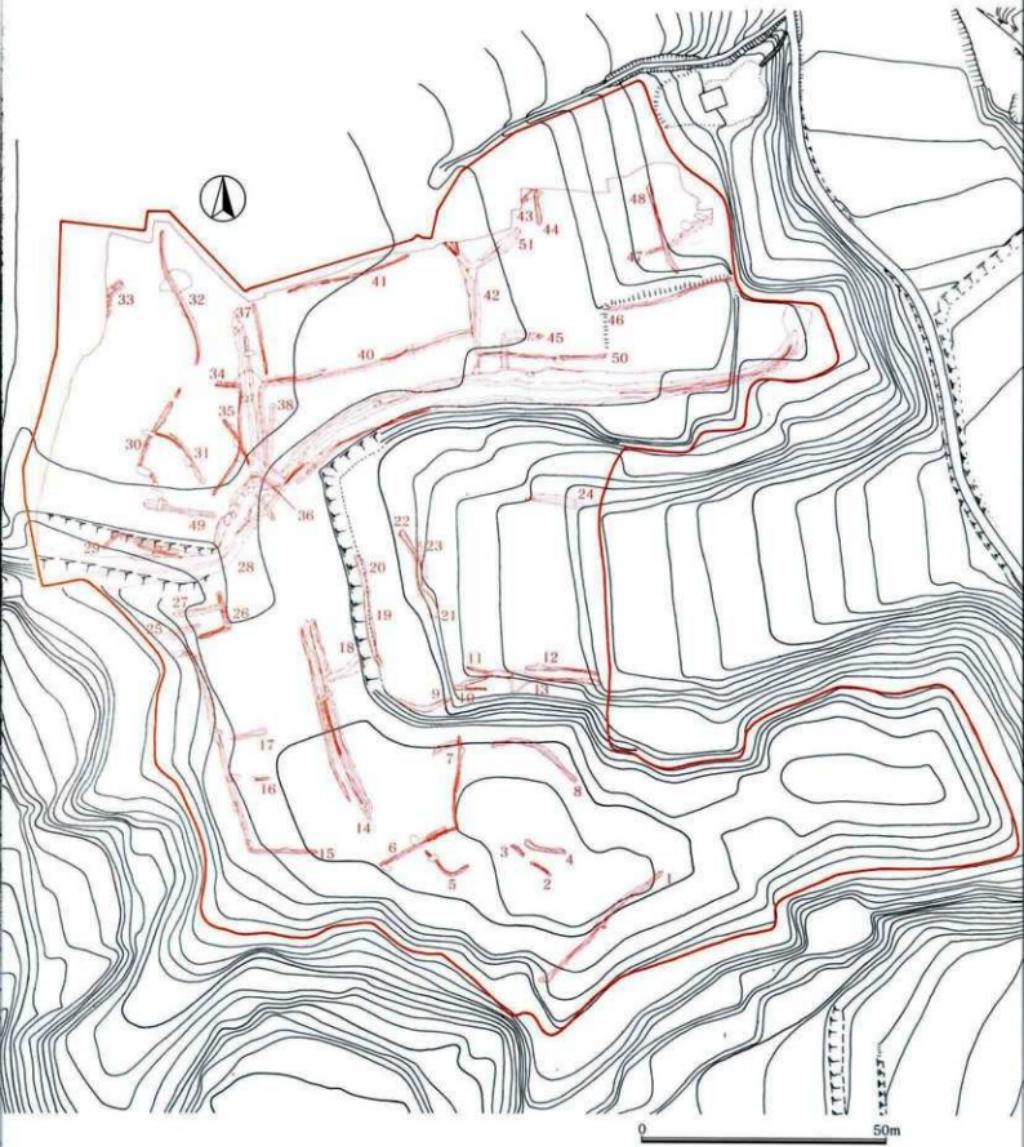
その後、本調査に移行し、遺構や遺物の分布状況を詳細に調査した。



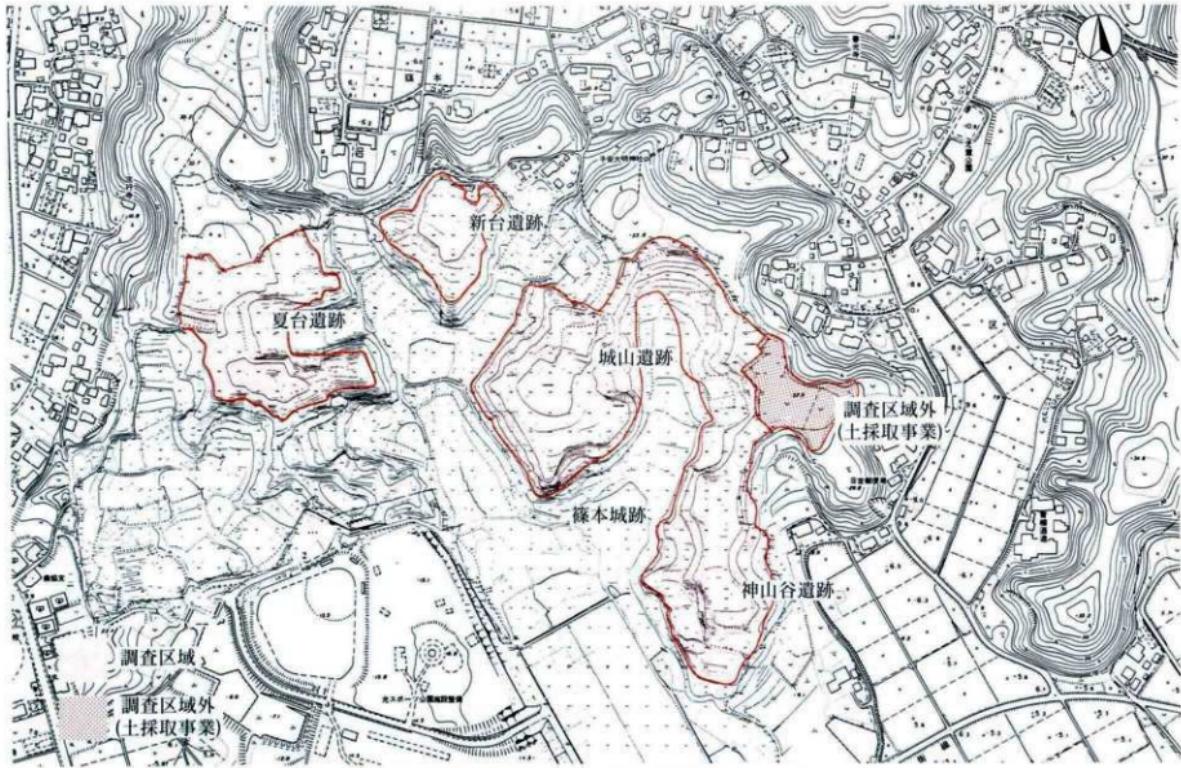
第1図 グリッド設定図 (1/2000)



第2図 遺構全測図 (1/1000)



第3図 溝全測図 (1/1000)



第4図 ひかり工業団地内調査区域遺跡地図 (1/5,000)

第2章 遺構と遺物

第1節 旧石器（第5、6図）

本遺跡では発掘調査によって3点の旧石器時代の遺物が出土し、その内2点の石刃を第6図に示した。

本遺跡の関東ローム層は左図に示したように、Ⅲ層のソフトロームが20cm堆積し、その半分は少し粒状に固結したローム層で、Ⅳ層にあたると考える。その下は凹凸の面を境に硬いローム層となり、おそらくⅤ層になる。Ⅴ層の下は色調が明るくなり、さらに硬くなったⅥ層が10cmほど堆積する。これは、2万年以上前に九州の鹿児島湾にある姶良カルデラが噴火し、飛来して堆積したガラス質火山灰を含んだ層である。さらにその

— 36.00m 下は色調が暗くなり、50cm以上堆積した暗色帶（黒色帶）で、VII～IX層になる。これらを立川ローム層と呼び、主に富士山から噴火した火山灰が堆積したもので、本遺跡では1m以上堆積する。この下には箱根起源の火山灰が主になる、武藏野ローム層が1mほど堆積する。
■出土位置
IIIa
IIIb
VI
V
VII
VIII
IX
— 35.00m 1は、調査区の北側中央部の平坦な所でVII層の上部から出土した。縦長の刃器状剥片であることから、明らかに旧石器時代のものである。単設打面（剥片を作り出すときに打ち割る面を上部に一つ持った面）を持つ石核（原石を剥片が割れるように調整した素材）を間接打法（擊を金づちで打つ要領）で割ったものである。先端部は下方からの石核調整剥離が2面あり、全体として劍状となる。この先端部と両側縁には、微細剥離の使用痕があり、何かを切る、削るのに使われたのであろう。石材は灰色の色調で、硬質
層序と出土位置 図頁岩とチャートの中間的なものである。その産地が問題となろう。

2は塚の覆土中から出土したもので、本来の層位は不明である。これも使用痕を有した刃器状剥片で、1に近いものと考える。表面の剥離面は四方からの剥離であり、初期段階の直接打法による剥片剥離によって得た刃器状剥片である。両側縁には微細剥離の使用痕があり、主に何かを削るのに使われたものであろう。石材はチョコレート色の硬質頁岩で、東北の山形方面を産地とするものである。第6図に記載していないが、残りの1点は黒曜石の小剥片である。

羅本周辺の旧石器時代の遺跡は、西方に光町宝米遺跡、さらに栗山川を越えた西方の台地上に多古町千田台遺跡と西方の低地に同町栗山川流域遺跡群、東方に八日市場市飯倉鉈歌遺跡がある。ひかり工業団地内遺跡群では本遺跡の他に、最も東に位置する神山谷遺跡から石刃が2点出土した。尚、VI層下部から多くの石刃を出土した多古町千田台遺跡は、本遺跡と関連性があるものと考えられる。

(道澤)



下層確認坑と遺物出土状況

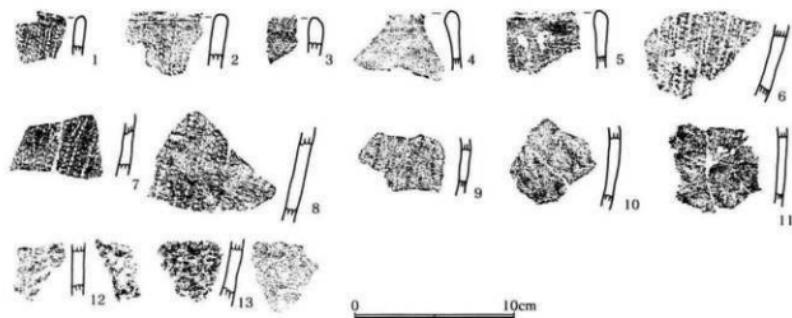


第6図 旧石器時代遺物実測図

第2節 隘穴・炉穴

隙穴出土遺物（第7図、図版4）

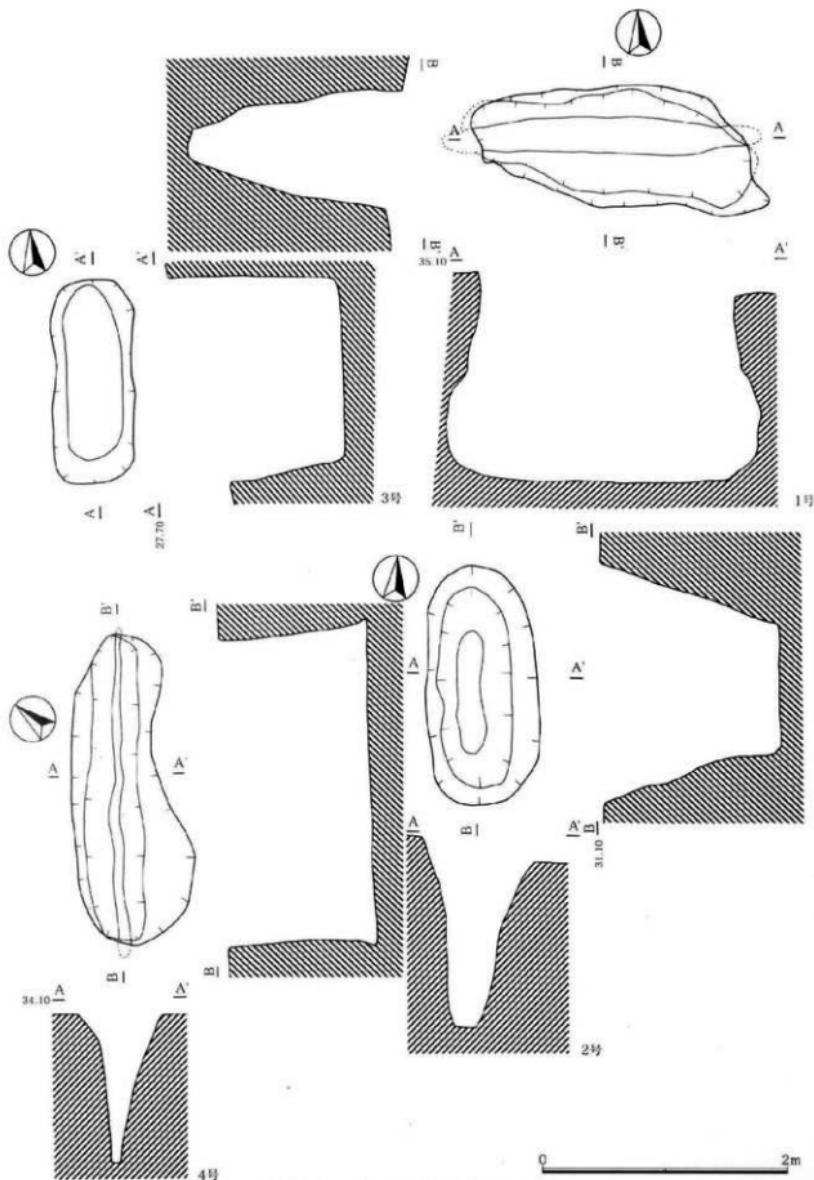
1～11は、1号隙穴から出土した撫糸文系土器である。1～3・6～8は、撫糸文が施されている。撫糸文の原体はRである。4・5は無文で、口唇部が若干尖頭状を呈する。9～11は、無文の胴部片である。12・13は、2号隙穴から出土した条痕文系土器である。



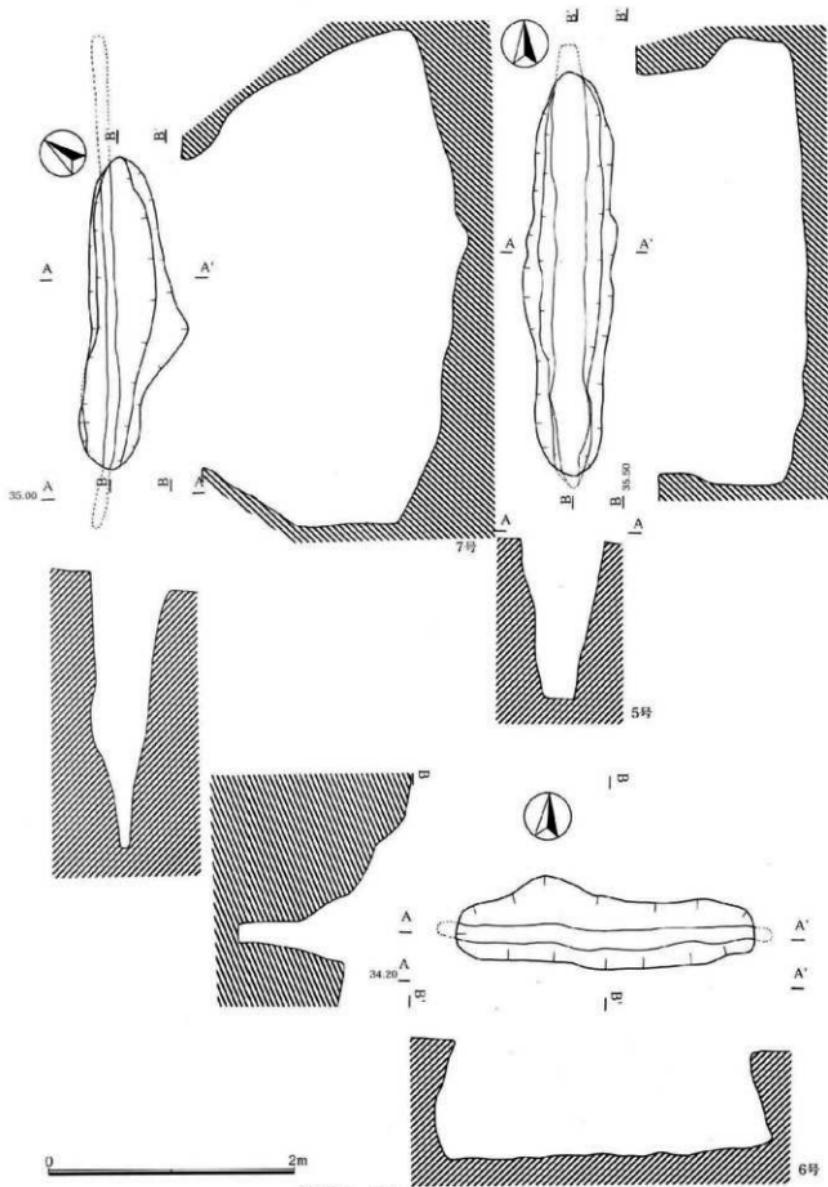
第7図 隘穴出土遺物拓影図

第1表 隘穴計測表 単位m

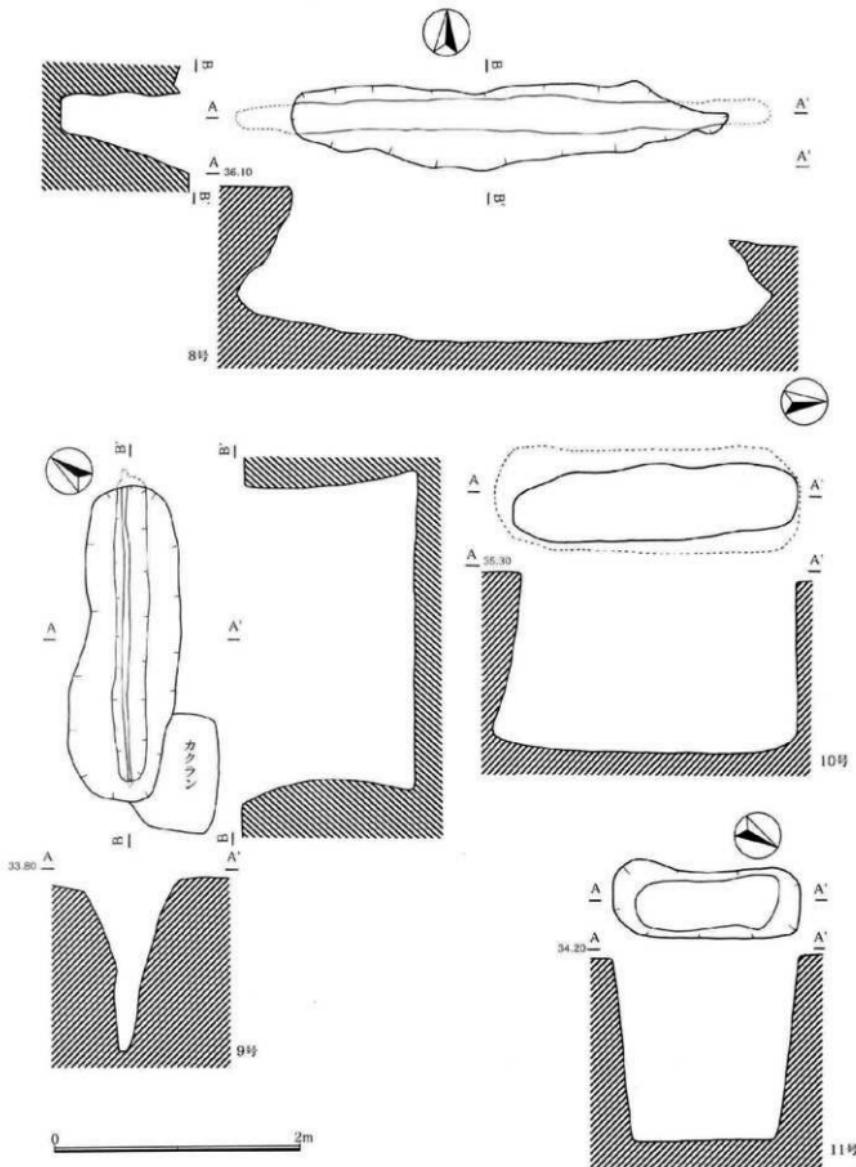
遺構番号	位置(グリッド)	主軸方向	上面(長軸×短軸)	下面(長軸×短軸)	深さ
1	5E15-18	N-90°-W	2.19×0.89	2.55×0.29	1.70
2	5E25-3	N-0°-W	2.00×0.91	1.01×0.18	1.46
3	5E25-15-20	N-0°-W	1.60×0.64	1.43×0.46	1.36
4	5E25-22	N-57°-W	2.56×0.71	2.72×0.05	1.31
5	5E15-21	N-0°-W	3.26×0.70	3.59×0.23	1.31
6	5E15-22	N-35°-W	2.43×0.59	2.71×0.13	0.95
7	5E25-4	N-37°-W	2.46×0.64	4.04×0.06	2.31
8	5E14-14	N-90°-W	3.57×0.60	4.01×0.24	1.13
9	5E24-20	N-60°-W	2.59×0.78	2.60×0.06	1.40
10	5E14-23	N-0°-W	2.32×0.56	2.50×0.85	1.44
11	5E25-22	N-23°-E	1.53×0.54	1.16×0.37	1.49



第8図 1号～4号竪穴実測図(1)



第9図 5号～7号陥穴実測図 (2)



第10図 8号～11号墳穴実測図（3）

炉穴出土遺物 (第11図、図版4)

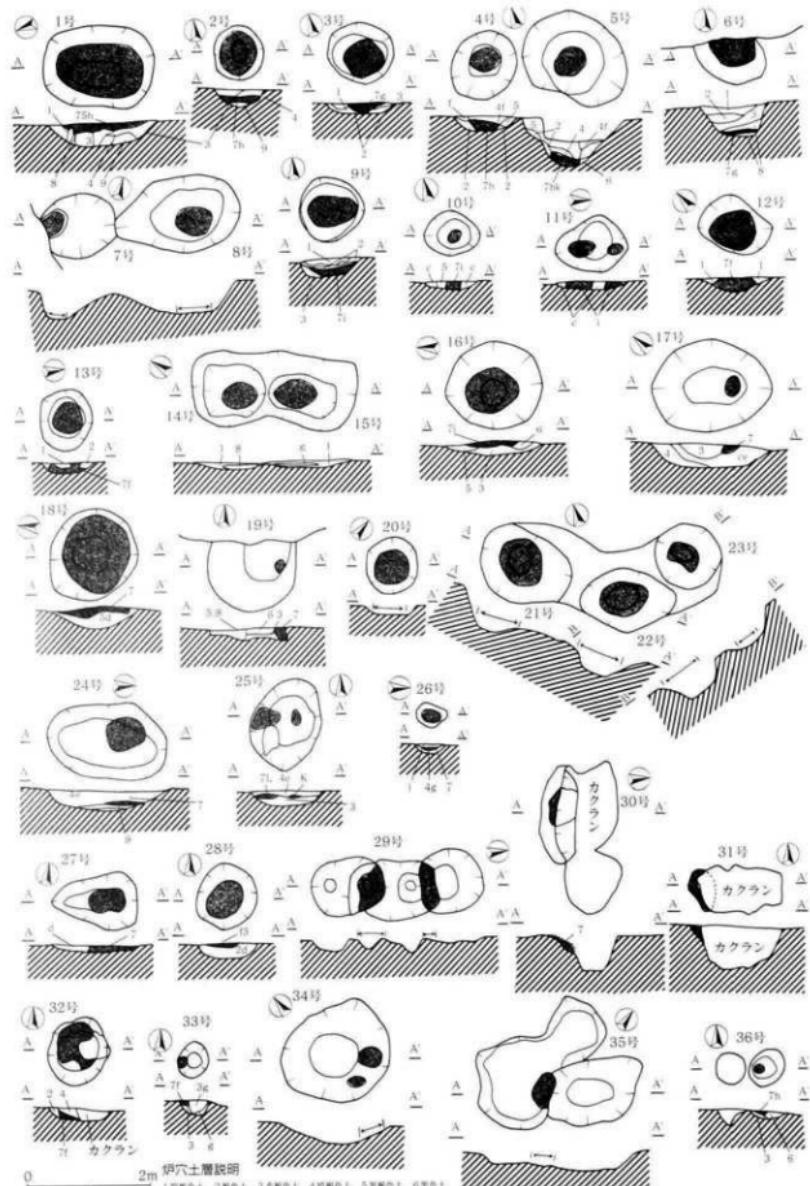
1・2は10号炉穴、3・5は21号炉穴、6・7は26号炉穴、8は29号炉穴から出土した。1～8は、胎土に纖維を比較的多く含む断面片である。1・2は表裏面に条痕文が、その他は擦痕文が施されている。



第11図 炉穴出土遺物拓影図

第2表 炉穴計測表 単位m

遺構番号	位置(グリッド)	主軸方向	規模(長軸×短軸)	火床面規模(長軸×短軸)	遺構番号	位置(グリッド)	主軸方向	規模(長軸×短軸)	火床面規模(長軸×短軸)
1	SE14-18	N-11°-W	0.91×0.65	0.69×0.43	19	SE14-5	N-90°-W	(-)	1.20×0.80
2	SE14-18	N-7°-E	0.44×0.40	0.35×0.29	20	SE15-13	N-34°-E	0.45×0.42	0.29×0.28
3	SE14-17	N-90°-W	0.54×0.48	0.35×0.30	21	SE15-6	N-9°-W	0.77×0.59	0.40×0.34
4	SE14-17	N-15°-W	0.56×0.51	0.25×0.24	22	SE15-6	N-9°-W	0.78×0.50	0.40×0.28
5	SE14-17	N-75°-W	0.90×0.65	0.51×0.50	23	SE15-6	N-13°-E	0.54×0.52	0.26×0.16
6	SE14-17	N-90°-W	(-) × 0.36	(-) × 0.23	24	SE14-14	N-0°-W	0.98×0.59	0.31×0.26
7	SE14-17	N-38°-W	(-) × 0.51	(-) × 0.17	25	SE14-15	N-78°-W	0.78×0.55	0.22×0.14 0.12×0.07
8	SE14-17	N-38°-W	1.05×0.62	0.60×0.40	26	SE14-15	N-5°-W	0.22×0.19	0.17×0.11
9	SE14-14	N-90°-W	0.54×0.50	0.41×0.25	27	SE14-13	N-90°-W	0.70×0.44	0.51×0.17
10	SE14-9	N-65°-E	0.47×0.35	0.12×0.09	28	SE14-13	N-0°-W	0.54×0.49	0.35×0.29 0.12×0.80
11	SE14-9	N-0°-W	0.59×0.45	0.22×0.15 0.11×0.09	29	SE14-15	N-0°-W	1.40×0.47	0.46×0.30 0.40×0.11
12	SE14-13	N-47°-E	0.55×0.40	0.34×0.37	30	SE14-19	N-90°-W	1.19×(-)	0.31×(-)
13	SE14-13	N-90°-W	0.50×0.43	0.26×0.24	31	SE14-20	N-90°-W	0.77×(-)	0.35×(-)
14	SE14-25	N-34°-E	(-) × 0.41	0.30×0.22	32	SE15-11	N-90°-W	0.57×0.46	0.40×0.33
15	SE14-25	N-34°-E	(-) × 0.31	0.35×0.25	33	SE15-17	N-90°-W	0.30×0.25	0.09×0.06
16	SE14-23	N-0°-W	0.80×0.78	0.44×0.38	34	SE14-19	N-53°-E	0.89×0.86	0.20×0.16 0.50×0.09
17	SE24-23	N-40°-E	0.99×0.74	0.18×0.11	35	SE14-18	N-0°-W	1.21×0.46	0.30×0.15
18	SE14-24	N-90°-W	0.81×0.69	0.65×0.55	36	SE15-21	N-90°-W	0.32×0.26	0.09×0.07



第12回 炉穴実験区

第3節 住居跡

1号住居跡 (第13、14図、図版7、8、14)

位置 5E37-7・12グリッドに位置する。

重複関係 なし

規模・平面形 東西2.8m、南北2.9mを測り、正方形を呈する。

壁 壁高は20~50cmを測り、外側にむかって垂直に立ち上がる。

主軸方向 N-90°-W

壁溝 なし

床面 全面的に硬質で、炭化材を出土したが、床面に被熱痕は認められなかった。

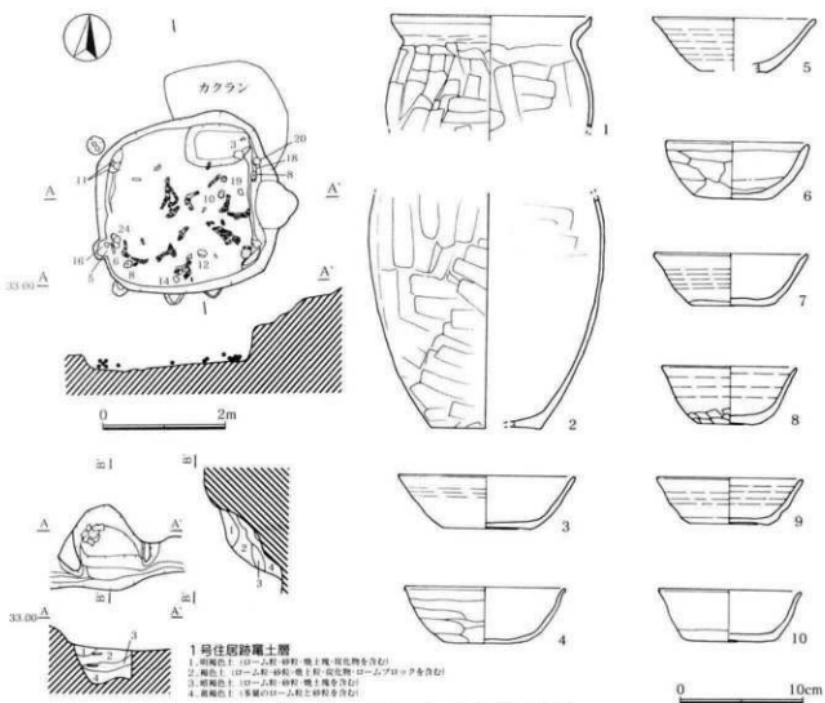
柱穴 なし

竈 東壁中央に位置する。遺存状態は良好で、白色粘土を素材にして構築されている。焚口部は比較的広く、

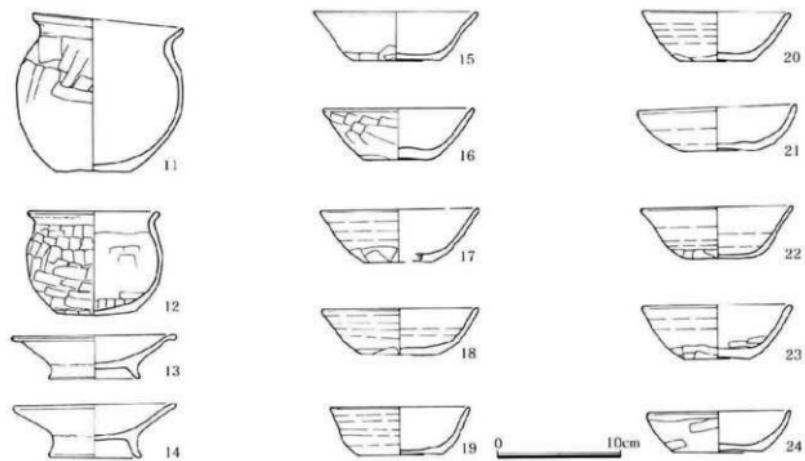
径50cmを測る。竈内から甕の破片が数点出土しており、住居跡廃絶時に混入したものと思われる。

出土遺物 土師器壺、土師器甕、土師器高台付皿が覆上下層及び床直から出土した。

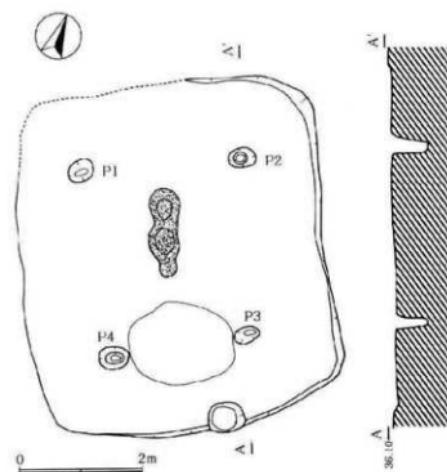
総合所見 一边が3m未満の火災を受けた平安時代の住居跡である。



第13図 1号住居跡・出土遺物実測図



第14図 1号住居跡出土遺物実測図



第15図 2号住居跡実測図

2号住居跡 (第15図、図版8)

位置 5E 14-18グリッドに位置する。

重複関係 なし

規模・平面形 東西4.9m、南北5.7mを測り、長方形を呈する。

壁 壁高は数cm~10cmを測り、垂直に立ち上がる。

主軸方向 N-22°-E

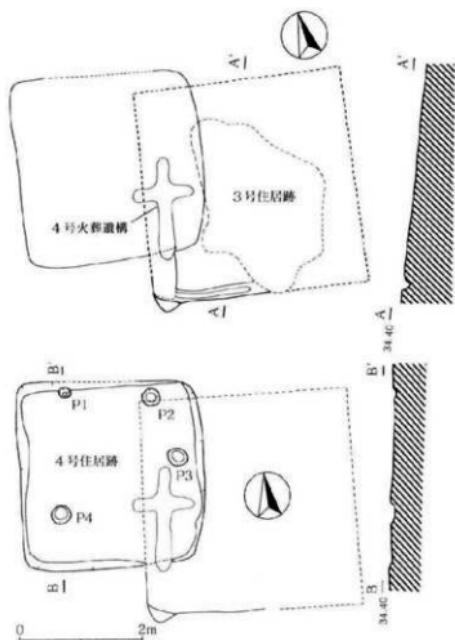
壁溝 なし

床面 柱穴P3とP4の間に、広さ1.7m×1.45mの硬質面がある。

柱穴 P1 - 長軸49cm、短軸40cm、深さ55cm、P2 - 長軸46cm、短軸42cm、深さ59cm、P3 - 長軸47cm、短軸25cm、深さ52cm、P4 - 長軸50cm、短軸37cm、深さ56cm、P5 - 長軸59cm、短軸50cm、深さ15cm。

炉 中央の北寄りに位置する。規模は長軸1.48m、短軸0.5m、深さ5cm~10cmと掘り込みは浅く、瓢箪形を呈する。

出土遺物 なし



第16図 3号、4号住居跡実測図

3号住居跡 (第16図、図版9)

位置 5E 16-1・2グリッドに位置する。

重複関係 4号住居跡及び1号火葬遺構と重複する。新旧関係は、4号住居跡→3号住居跡→1号火葬遺構の順である。

規模・平面形 不明

壁 撹亂により消滅。

主軸方向 不明

壁溝 南西のコーナーに残存し、幅22cm～32cm、深さ10cmを測る。

床面 ほぼ中央部に、広さ2.75m×2.0mの硬化面がある。

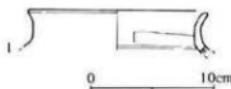
柱穴 なし

竈・炉 なし

出土遺物 なし

4号住居跡 (第16、17図、図版9)

位置 5E 16-1・2グリッドに位置する。



第17図 4号住居跡出土遺物実測図

重複関係 3号住居跡及び1号火葬遺構と重複する。

規模・平面形 南北3.1m、東西3.0mを測り、方形を呈する。

壁 一部撹乱を受けているが、壁高は8cmを測る。

主軸方向 N-7°-E

壁溝 なし

床面 中央部が硬質である。

柱穴 P1-長軸20cm、短軸19cm、深さ3.4cm、P2-径28cm、深さ13cm、P3-長軸35cm、短軸33cm、深さ4.4cm、P4-径30cm、深さ14cm。

竈・炉 なし

出土遺物 土師器甕の口縁部分が、1点出土した。

5号住居跡 (第18図、図版9、10、15)

位置 5E 6-17・18・22・23グリッドに位置する。

重複関係 4号火葬遺構と重複する。

規模・平面形 南北3.65mを測り、方形を呈する。

壁 東壁は撹乱を受けており、壁高は10cm～30cmを測る。

主軸方向 N-10°-E

壁溝 なし

床面 中央部が硬質である。

柱穴 P 1 - 長軸23cm、短軸22cm、深さ50cm、P 2 - 長軸23cm、短軸19cm、深さ52cm、P 3 - 長軸40cm、短軸20cm、深さ43cm、P 4 - 長軸59cm、短軸30cm、深さ62cm、P 5 - 長軸45cm、短軸30cm、深さ30cm、P 6 - 長軸54cm、短軸52cm、深さ30cm（貯蔵穴）。

竈 中央部の北寄りに位置する。規模は長軸62cm、短軸32cm、深さ12cmを測る。

出土遺物 土師器壺台と土師器壠が2点出土した。

総合所見 中央部に炭化材、西側に焼土が認められたことから火災住居である。

6号住居跡 (第19図、図版10~12、15)

位置 5 E 15-22グリッドに位置する。

重複関係 なし

規模・平面形 東側半分は削平されているが、平面形は方形である。

壁 37cm~50cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。

主軸方向 N-90° - W

壁溝 北西コーナーと南西コーナーに巡り、幅8cm~20cm、深さ5cm~10cmを測る。

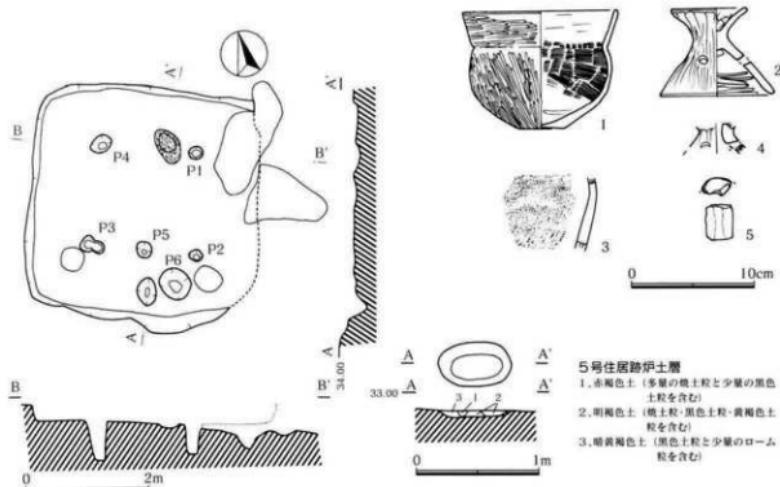
床面 全面が硬質である。

柱穴 P 1 - 長軸60cm、短軸55cm、深さ140cm。

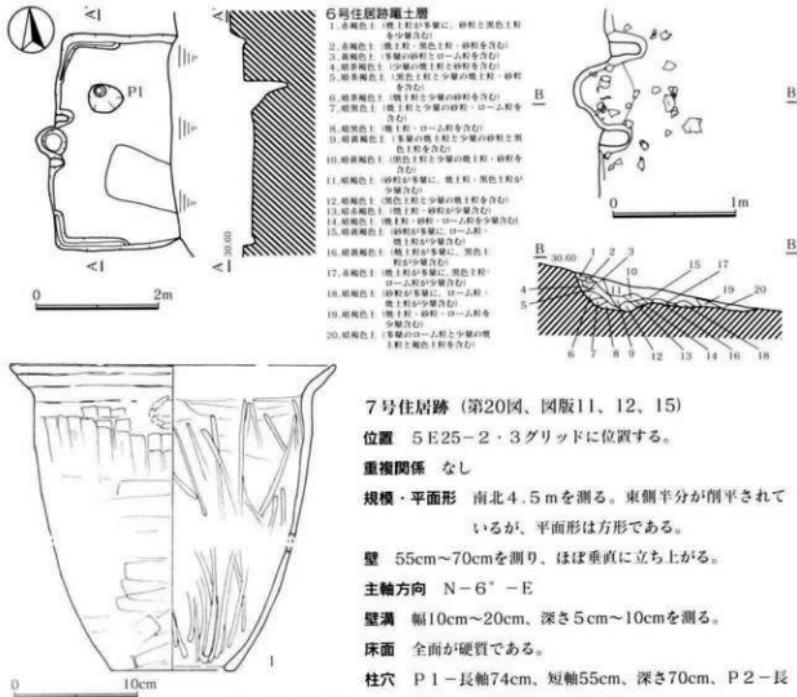
竈 西壁中央部をU字形に掘り込んでいる。規模は長さ50cm、幅100cmを測り、長さ25cm~30cmの袖が造り付けられている。燃焼部は、奥行45cm、幅50cmを測る。煙道部が50°の角度で立ち上がる。竈内から、土師器壺や土師器壺の破片がたくさん出土した。

出土遺物 図示できる遺物は、1の土師器壺である。

総合所見 住居跡の東側半分は、中世に削平されたものと思われる。



第18図 5号住居跡・出土遺物実測図・拓影図



第19図 6号住居跡・出土遺物実測図

竈 北壁中央部に位置し、東側半分は消滅してしまっている。壁への掘り込みは浅く、西側の袖部が残っている。焚口部の規模は長軸60cm、短軸52cm、深さ28cmを測る。

出土遺物 土師器壺の破片が数点出土した。

8号住居跡 (第20図、図版12、15、16)

位置 5 E25-2・3グリッドに位置する。

重複関係 なし

規模・平面形 東西2.9m、南北3.0mを測り、方形を呈する。

壁 30~60cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。

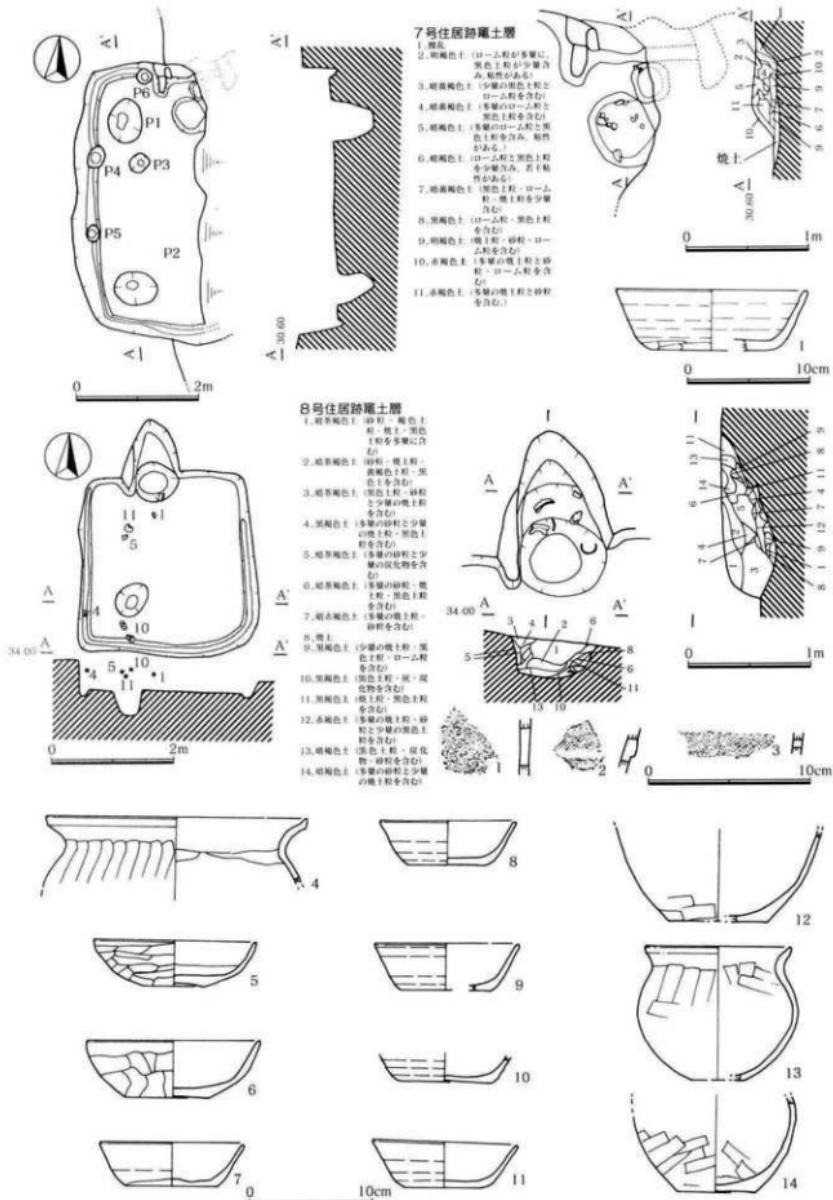
主軸方向 N-29°-E

壁溝 北壁を除いて全周する。規模は幅15cm~35cm、深さ10cm~15cmを測る。

床面 全面的に硬質であるが、特に中央部が踏み固められている。

柱穴 なし

竈 北壁中央のやや西寄りに位置する。壁をV字形に掘り込んでいる。西側の袖部が残存し、規模は20cm×25cmを測る。焚口部は70cm×65cmと稍円形を呈し、深さが11cmを測る。火床部は被熱により赤化している。



第20図 7号、8号住居跡、出土遺物実測図・拓影図

出土遺物 1～3は弥生土器、4、12～14は土師器甕、5～11は土師器壺である。

9号住居跡 (第21図、図版13、15)

位置 5E15-11グリッドに位置する。

重複関係 溝と重複する。

規模・平面形 東西5.2mを測る。複雑がひどく、平面形態は不明である。

壁 10～20cmを測る。

主軸方向 N-35°-E

壁溝 なし

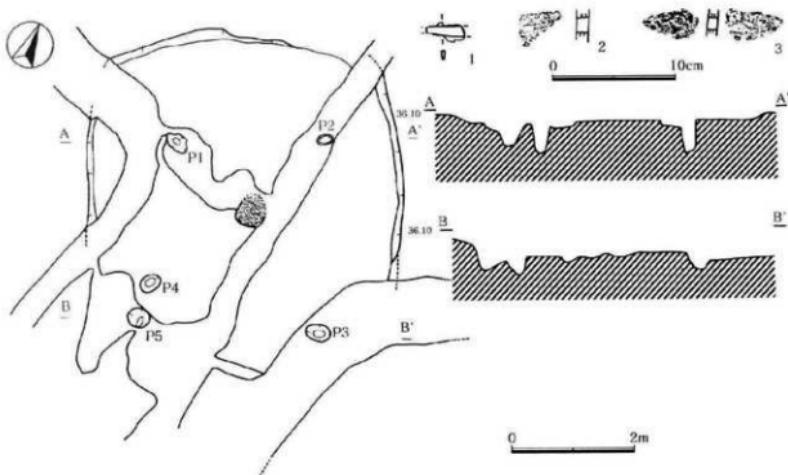
床面 溝によって搅乱されているが、残存部は硬質である。

柱穴 P 1 - 長軸28cm、短軸16cm、深さ40cm。P 2 - 長軸40cm、短軸26cm、深さ13cm。P 3 - 長軸38cm、短軸25cm、深さ15cm。P 4 - 長軸40cm、短軸25cm、深さ46cm。P 5 - 長軸39cm、短軸30cm、深さ30cm。

炉 中央部に位置し、溝によって半分ほど破壊されている。

出土遺物 刀子、弥生土器、縄文時代早期の条痕文系土器が出土した。

総合所見 P 5は、貯蔵穴になる可能性がある。



第21図 9号住居跡出土遺物実測図・拓影図

第4節 古墳

1号古墳 (第22、23、28図、図版16、21)

位置 5E35-7・8・12・13グリッドに位置する。

規模 周溝の内径で、13.6m~14mと推定できる。

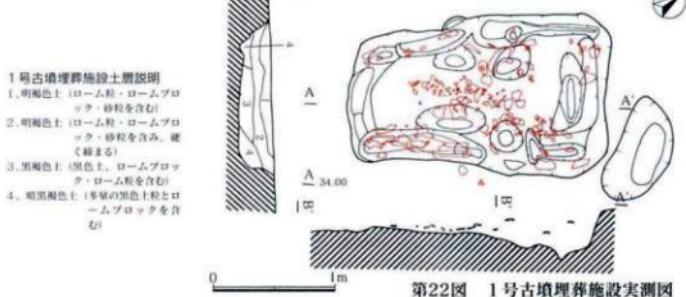
形状 円墳 (南側半分は周溝消滅)

盛土 消滅

出土遺物 刀子が1点出土した。

埋葬施設 地山を掘り込んで構築した箱式石棺である。石棺と掘り方の間に、裏込めとして粘土を詰め込んだ痕跡が残っている。主軸方向はN-40°-Wを指す。規模は石棺材の抜き取り痕から推定して、外法で2.13m、幅1.08m~1.37m、内法で長さ1.89m、幅1.26mであり、深さが0.25m~0.30mである。石棺と掘り方の間には、裏込めとして粘土が部分的ではあるが詰められていた。

特記事項 盗掘時に石棺材が殆ど抜き取られ、雲母片岩の細かな石棺材が石棺内や周溝内に散乱していた。



2号古墳 (第24、25、28図、図版16、17、21)

位置 5E14-9・10・14・15グリッドに位置する。

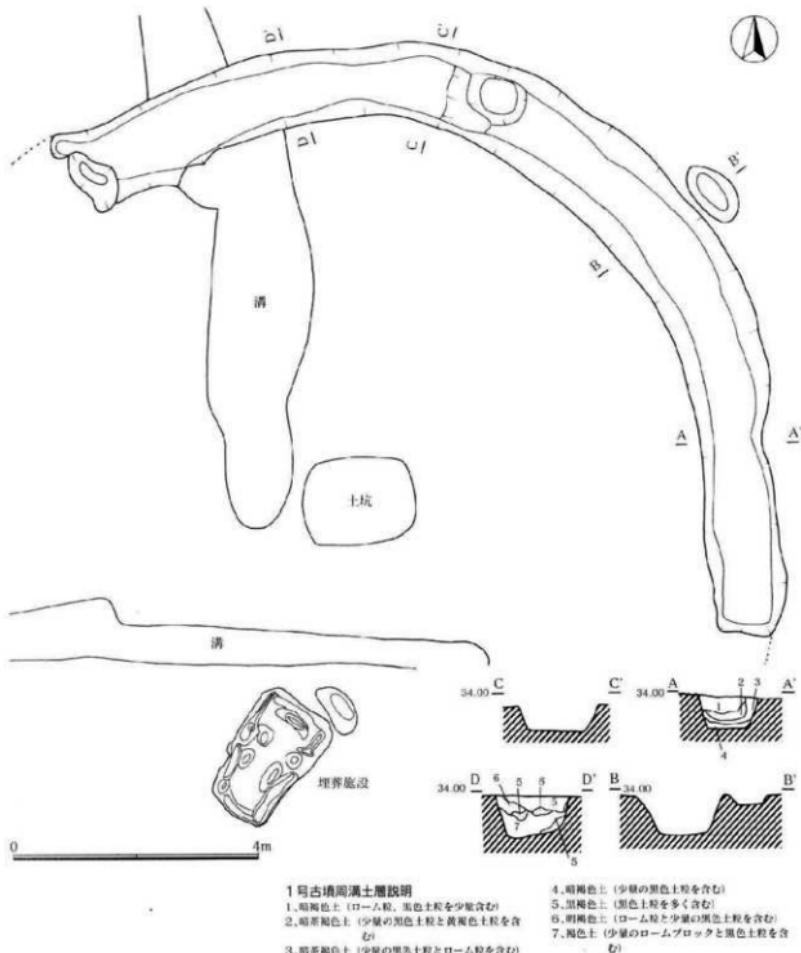
規模 周溝の内径で、16m~16.5mである。周溝は幅90cm~150cm、深さ23cm~49cmを測る。

形状 円墳

盛土 消滅

出土遺物 鉄鐵と刀子を出土した。また、古墳時代以外の遺物として周溝内から2点の磨製石斧を出土した。

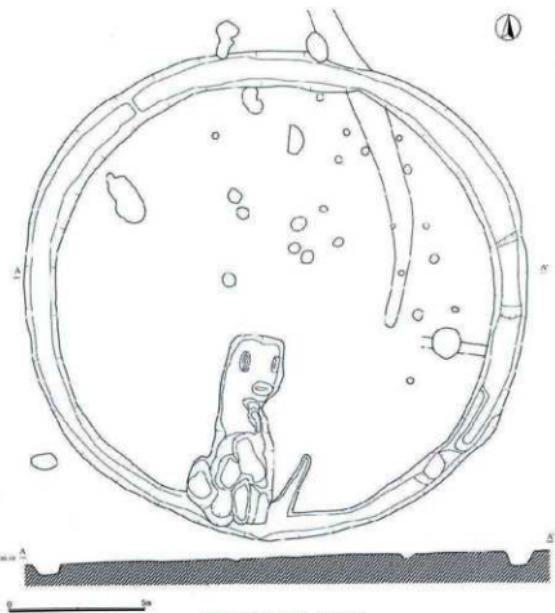
埋葬施設 円墳の中心からやや南寄りに位置し、地山を掘り込んで構築した横穴式石室である。石室の形態から判断して片袖型石室であろう。盗掘等による擾乱がひどく、石棺材は全て抜き取られていた。散乱している破片から、石棺材は雲母片岩(筑波石)である。破片は、石室内や周溝内に散乱していた。羨道と思われる箇所は保存状態が極めて悪く、不明瞭である。主軸方向はN-10°-Wを指す。玄室の規模は石棺材の抜き取り痕から推定して、外法で長さ1.95m、幅1.50m、内法で長さ1.70m、幅1.30mである。擾乱により明確ではないが、玄室から羨道部までの長さは、内法で7.0mである。羨道部の幅は、擾乱を比較的受けずに原形を保っている箇所で2.0m、深さは



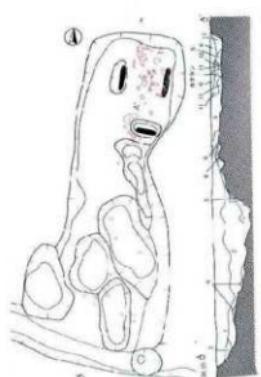
第23図 1号古墳実測図

0.75mである。石室と掘り方の間には、裏込めとして粘土と黒色土が詰められていた。

特記事項 本古墳は発乱が激しく、副葬品の出土遺物が希薄で、時期決定が困難である。周溝の東側に土器破片が多量に出土しており、この付近で儀礼的行為があつたものと推測される。



第24圖 2号古菌子體部半繩圖 (1/100)



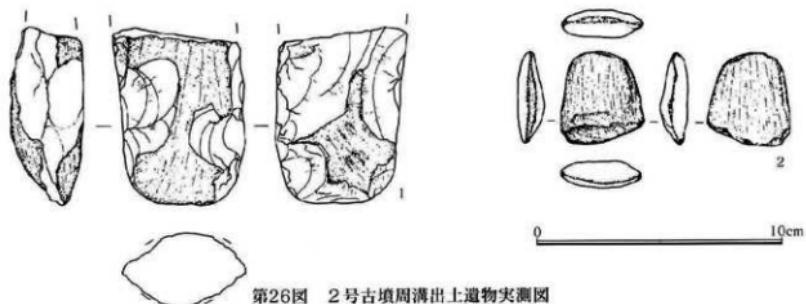
第25圖 2号古菌子體部半繩圖 (1/100)

2号古菌子體部半繩圖

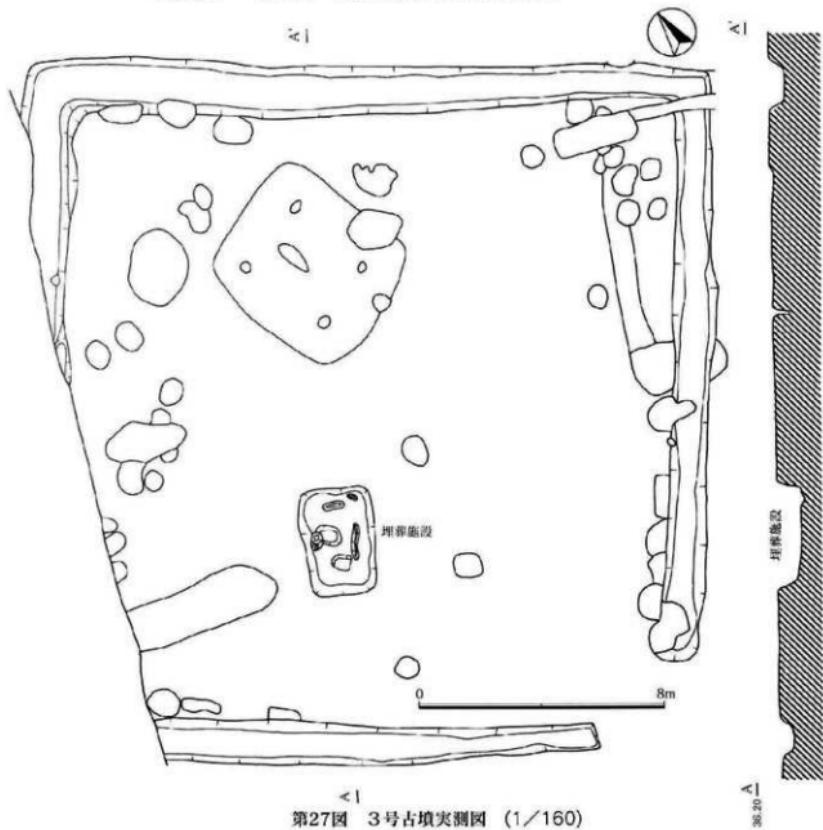
1. 細胞壁 (細胞壁の厚さは約1.5-2.0 μm)
2. 膜孔 (膜孔の大きさは約1-2 μm)
3. 離散孔 (離散孔の大きさは約1-2 μm)
4. 細胞核 (細胞核の大きさは約1-2 μm)
5. 細胞質 (細胞質の大きさは約1-2 μm)
6. 細胞壁 (細胞壁の厚さは約1.5-2.0 μm)
7. 細胞壁 (細胞壁の厚さは約1.5-2.0 μm)
8. 細胞壁 (細胞壁の厚さは約1.5-2.0 μm)
9. 細胞壁 (細胞壁の厚さは約1.5-2.0 μm)
10. 細胞壁 (細胞壁の厚さは約1.5-2.0 μm)
11. 細胞壁 (細胞壁の厚さは約1.5-2.0 μm)
12. 細胞壁 (細胞壁の厚さは約1.5-2.0 μm)

2号古墳周溝出土遺物（第26図）

2点の磨製石斧が出土した。1は、全体的に剥離痕がある破損品である。2は、小型の磨製石片である。



第26図 2号古墳周溝出土遺物実測図



第27図 3号古墳実測図（1/160）

3号古墳 (第27図～29図、図版18、21)

位置 5E12-13・17-19・22-24グリッドに位置する。

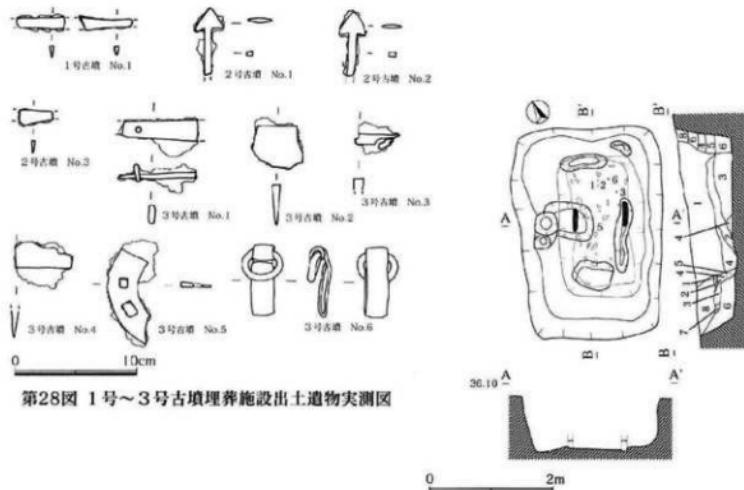
規模 周溝の内側で、一边20mである。周溝は幅60cm～180cm、深さ23cm～50cmを測る。

形状 方墳

盛土 消滅

出土遺物 鉄器、直刀、鉗、銅芯金貼り銀附足金具を出土した。また、古墳時代以外の遺物として、周溝から縄文時代早期の条痕文系土器と弥生時代後期の土器が出土した。1～13は早期の縄文土器で、14・15は中期の縄文土器である。その他は、弥生時代後期の土器である。

埋葬施設 方墳の中心から南寄りに位置する。地山を掘り込んで構築した箱式石棺である。主軸方向はN-24°-W。搅乱が激しく、石棺材が散乱していた。規模は石棺材の抜取り痕から推定して、内法で長さ2.0m、幅0.85m、深さ60cm～90cmを測る。石棺と組り方の間には、粘土混じりのロームを主体とする土を念入りに詰め込んで、石材を固定した痕跡がある。また、石棺材は全て抜き取られていた。



第28図 1号～3号古墳理葬施設出土遺物実測図

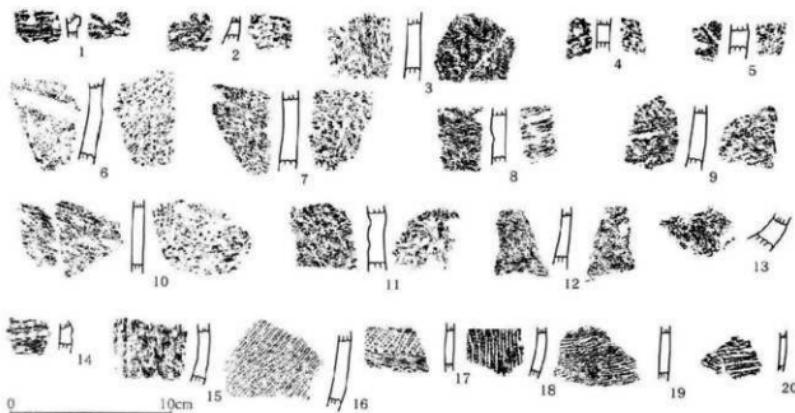
第29図 3号古墳理葬施設実測図 (1/80)

3号古墳理葬施設土層説明

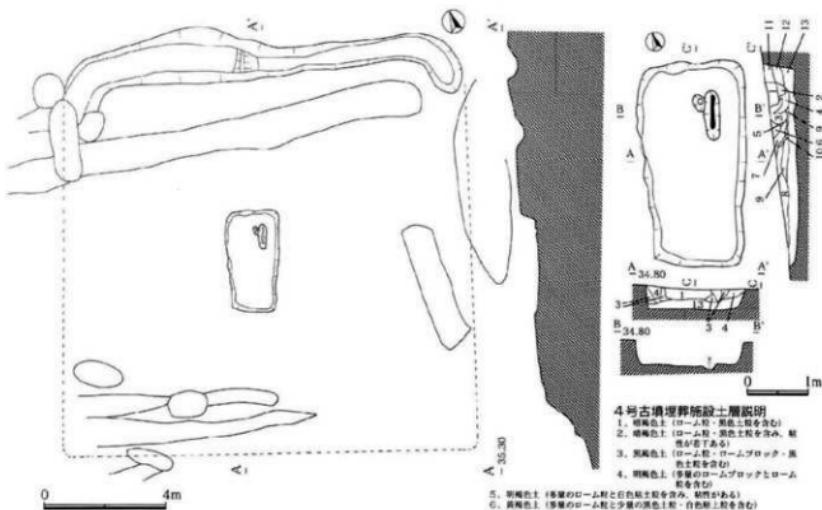
1. 純褐色土 (ローム粒・黒色土粒・石棺材片を含む)
2. 純褐色土 (ローム粒・黒色土粒・白色粘土粒・石棺材片を含む)
3. 純褐色土 (多量の黒色土粒とローム粒・ロームブロック・純土粒を含む)
4. 純褐色土 (白色粘土・ロームブロックを含み、粘性がある)
5. 純褐色土 (ロームブロック・黒色土粒・白色粘土粒を含む)
6. 純茶褐色土 (多量の黒色土粒と白色粘土・ローム粒を含み、粘性がある)
7. 純褐色土 (ローム粒・ロームブロック・黒色土粒を含む)
8. 純褐色土 (ローム粒・黒色土粒・白色粘土・ロームブロックを含み、粘性がある)

3号古墳周溝出土遺物 (第30図、図版21)

周溝内から縄文時代早期・中期と弥生時代後期の土器片が20点ほど出土した。1～13は縄文時代早期、14～15は縄文時代中期の土器である。16～20は、弥生時代後期の土器である。1は半截竹管による押引文を有し、5は微隆起線文が三条認められる。8は、表裏面に捺痕文が施されている。13は尖底の破片である。



第30図 3号古墳周溝出土遺物拓影図



第31図 4号古墳・埋葬施設実測図

第4号古墳（第31図、図版18）

位置 5E24-1・5・9・10グリッドに位置する。

規模 周溝は、幅80cm~190cm、深さ24cm~82cmを測る。

形状 方墳（北側の周溝のみ残存）

盛土 消滅

出土遺物 なし

埋葬施設 方墳の中心部に位置する。地山を掘り込んで構築した箱式石棺である。主軸方向はN-23°-W。擾乱が激しく、石棺材が散乱している。掘り方の規模は、内法で3.15m、幅1.35m~1.55mである。

特記事項 周溝の外側と内側に土壌が検出された。おそらく、本古墳に関係するものと思われる。

第5号古墳（第32図、図版18）

位置 5E15-15グリッドに位置する。

規模 不明

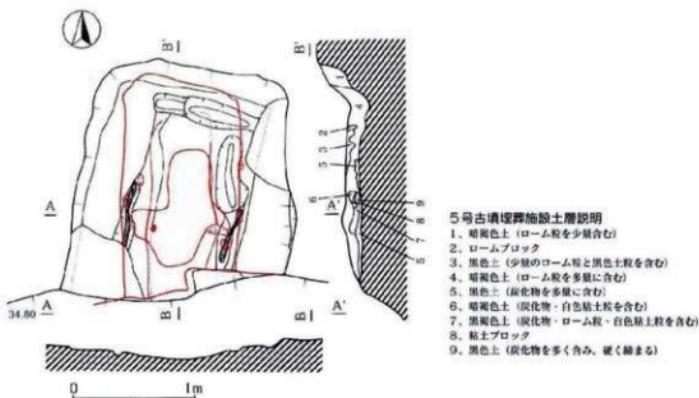
形状 不明

盛土 消滅

出土遺物 なし

埋葬施設 地山を掘り込んで構築した箱式石棺である。主軸方向はN-16°-W。擾乱が激しく、石棺材が散乱している。規模は、石棺材の抜き取り痕から推定すると、幅が1.0mである。南側は削平されている。掘り方の規模は、内法で幅1.6m~1.7mである。

特記事項 埋葬施設の底面に炭化材が堆積していた。



第32図 5号古墳埋葬施設実測図

第5節 塚

塚（第33、35、36図、図版19、20）

位置 5 E35-5・10・15、5 E36-1・2・6・7・17グリッドに位置する。

規模 東西15m、南北16.5m、高さ3.5mを測る。

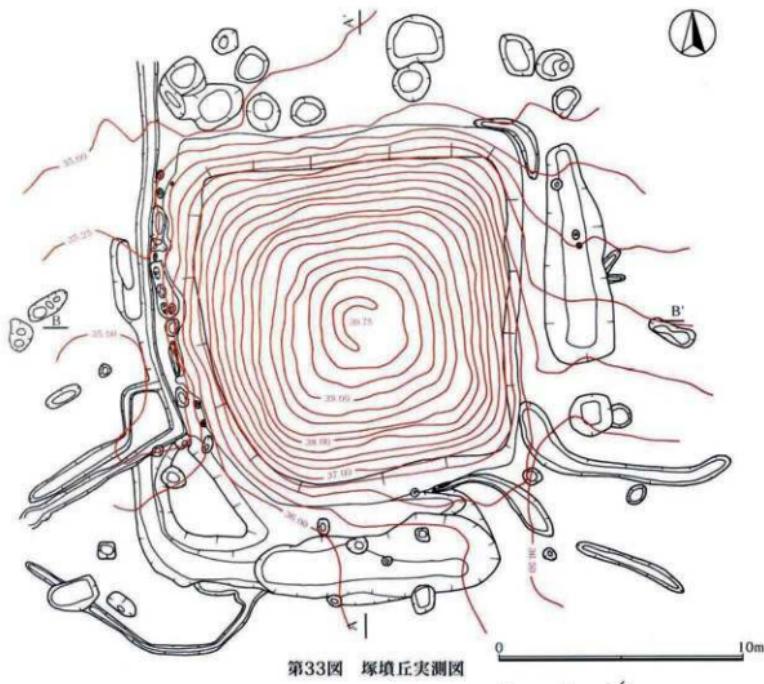
平面形態 方形を呈する。

盛り土 旧表土の上端から水平に土を積み上げ、硬く突き固めながら構築している。南西コーナーは、丸みを帯びている。土層断面から観察すると、ローム粒を多く混入した明褐色土が主体である。

出土遺物 本塚に伴う遺物は出土していない。しかし、盛り土内から、土師器壺、縄文土器が出土した。

埋葬施設 なし

所見 塚の基盤は方形に削平され、基壇状に造っている。また、盛り土は周囲から寄せ集めた土以外に、東側と南側にある溝から出た土を利用しているものと思われる。

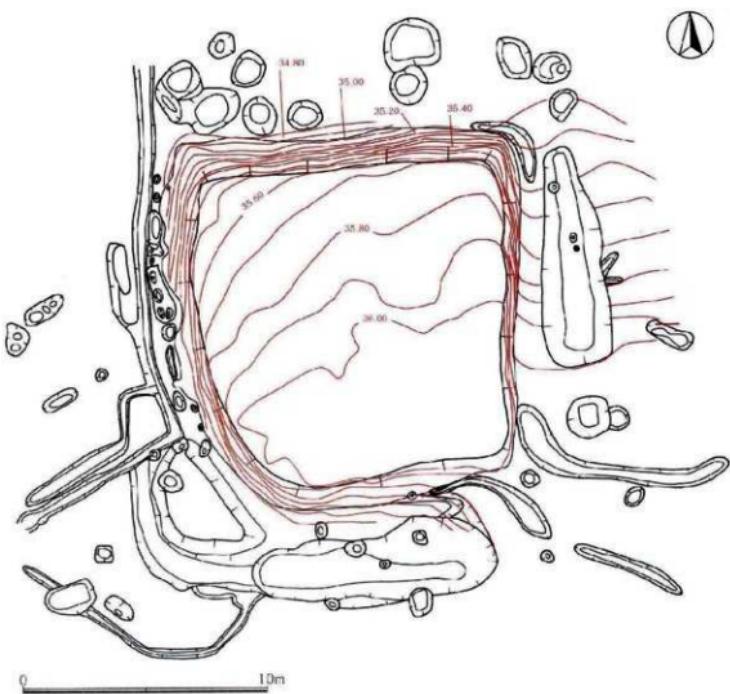


塚出土遺物（第34図、図版21）

盛り土から条痕文系土器、撫糸文系土器、土師器壺が出土した。1
は、底部が回転糸切り後、無調整の土師器壺である。

第34図 塚遺物実測図

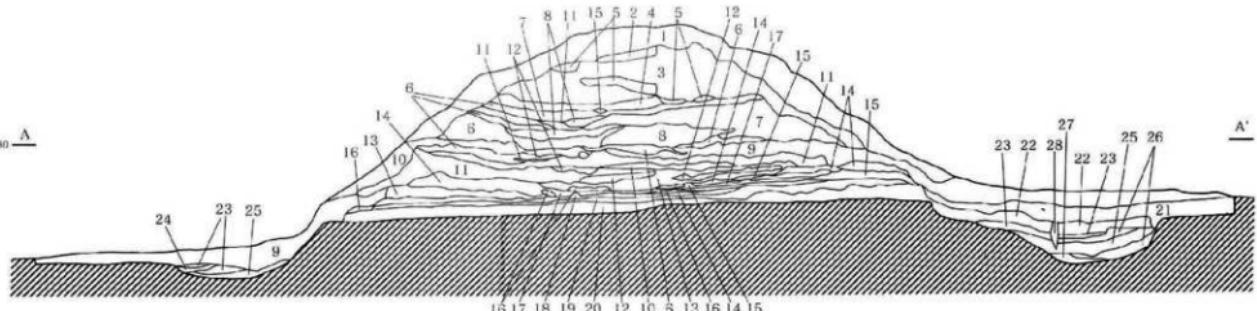




第35図 塚基壇実測図

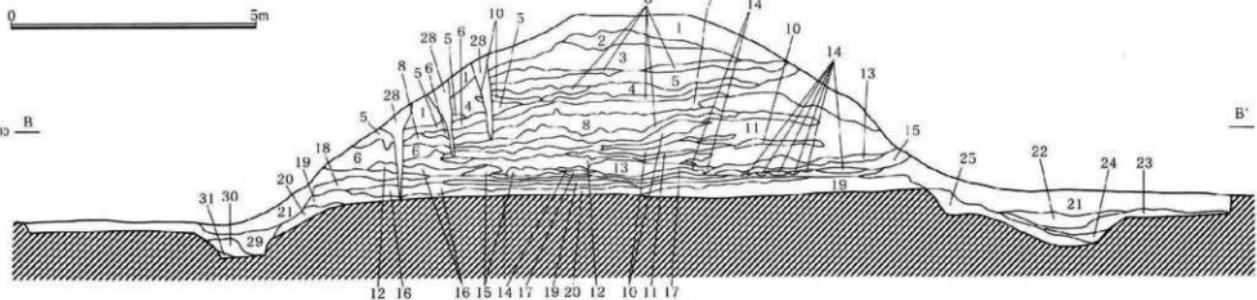
37.30

A'



37.33

B'



塚壙土層説明

1. 表土
2. 黒色土
3. ロームブロック
4. 希薄色土（ローム粒・ロームブロック・灰褐色土粒・黑色土粒を含む）
5. 黑色土（ローム粒・ロームブロック・灰褐色土粒・黑色土粒を含む）
6. 灰褐色土（ローム粒・ロームブロック・黒土を含み、緻く締まる）
7. ロームブロック
8. ロームブロック
9. ロームブロック
10. 厚褐色土（黒色土粒・ローム粒・ロームブロックを含む）
11. 厚褐色土（ローム粒・多量のロームブロック・黑色土ブロックを含む）

12. 厚褐色土（ローム粒・多量のロームブロック・黑色土粒・黑色土ブロックを含む）
13. 馬鹿色土（ローム粒・多量の黒褐色土ブロック・ロームブロックを含む）
14. 明褐色土（ローム粒・少量の黑色土・ロームブロックを含む）
15. 黑褐色土（粘土・黑色土ブロックを含み、硬く締まる）
16. 灰褐色土（黑色土粒・黑色土ブロックを含み、緻く締まる）
17. 黑褐色土（黑色土粒・ロームブロックを含み、緻く締まる）
18. 希薄色土（ローム粒・ロームブロック・黑色土粒を含む）
19. 黑褐色土（少量のロームブロック・ローム粒・黑色土粒を含む）
20. 明褐色土（多量のローム粒・少量ローム・ロームブロックを含む）
21. 厚褐色土（ローム粒・ロームブロック・少量の炭化物を含む）
22. 明褐色土（ローム粒・ロームブロックを含む）
23. 黑褐色土（少量の黑色土粒・ローム粒・ロームブロックを含む）
24. 明褐色土（多量のローム粒・ロームブロックを含み、緻く締まる）
25. 希薄色土（少量のローム粒・ロームブロック・黑色土ブロックを含む）
26. 希薄色土（ローム粒・ロームブロック・黑色土ブロックを含む）
27. 明褐色土（ローム粒・ロームブロックを含み、硬く締まる）
28. 厚褐色土（ローム粒・黑色土粒を含む）
29. 厚褐色土（黑色土粒・ローム粒・ロームブロック・黑色土ブロックを含む）
30. 黑褐色土（黑色土粒・ローム粒・ロームブロックを含む）
31. 希薄色土（黑色土粒・ローム粒・ロームブロックを含む）
32. 厚褐色土（黑色土粒・ローム粒・ロームブロックを含む）

第36図 塚壙土層断面実測図

第3章 その他の遺構

第1節 粘土採掘坑

1号粘土採掘坑（第37図、図版22）

位置 5E36-8・9グリッドに位置する。

規模・平面形 長軸2.9m～4.0m、短軸1.0m、深さ0.2m～0.8mを測る。平面形態は東西に細長く、3基の粘土採掘坑が連なっている。

主軸方向 N-55°～Eを指す。

出土遺物 なし

壁 南側は斜面部のため、南西壁が開くように立ち上がり20cm～50cmを測る。北東壁は粘土採掘のためトネル状に削られ、壁高は40cm～80cmを測る。

覆土 ローム粒混じりで粘性のある覆土が主体である。

2号粘土採掘坑（第39図、図版22、32）

位置 5E35-14・15・19・20・25、5E36-16・21・22、5E46-1・2グリッドに位置する。

規模・平面形 長さ33m～36m、幅3.2m～7.6m、深さ1.3m～1.4mを測る。平面形態は南北に細長い溝状になっている。

主軸方向 N-42°～Eを指す。

出土遺物 土師器壺、須恵器壺が出土した。

覆土 ローム粒、砂粒混じりで粘性のある覆土が主体である。

第2節 粘土貼り土坑

1号粘土貼り土坑（第38図、図版22）

位置 5E15-25グリッドに位置する。

規模・平面形 短軸1.50m、深さ60cmを測る。平面形態は、梢円形を呈する。

主軸方向 N-10°～Wを指す。

出土遺物 なし

所見 底面全体に、粘土が20cmの厚さで貼り付けられている。

2号粘土貼り土坑（第38図、図版22）

位置 5E15-25グリッドに位置する。

規模・平面形 一辺2.8m、深さ30cmを測る。平面形態は、正方形を呈する。

長軸方向 N-10°～Wを指す。

出土遺物 なし

所見 底部全体に、粘土が5cm～15cmの厚さで貼り付けられている。

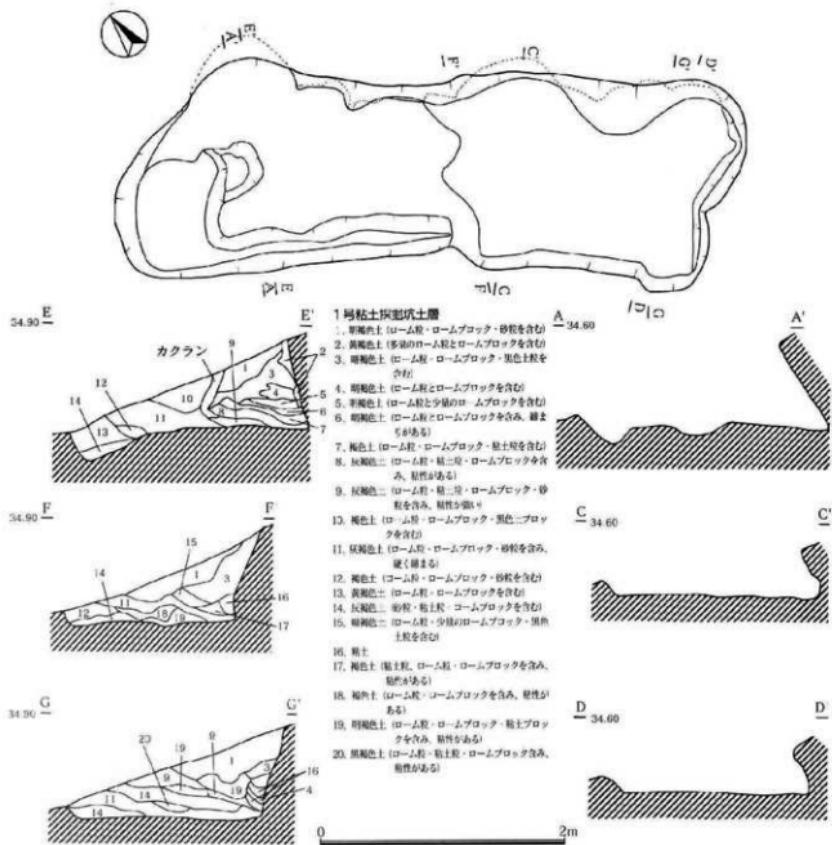
3号粘土貼り土坑（第38図）

位置 5E16-22グリッドに位置する。

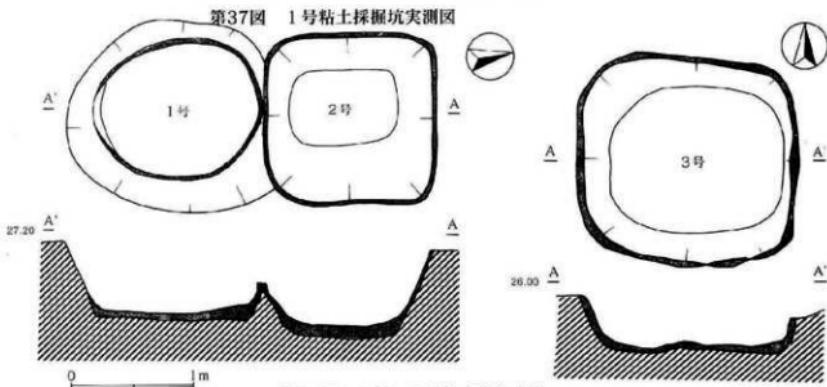
規模・平面形 一辺1.8m、深さ40cmを測る。平面形態は、正方形を呈する。

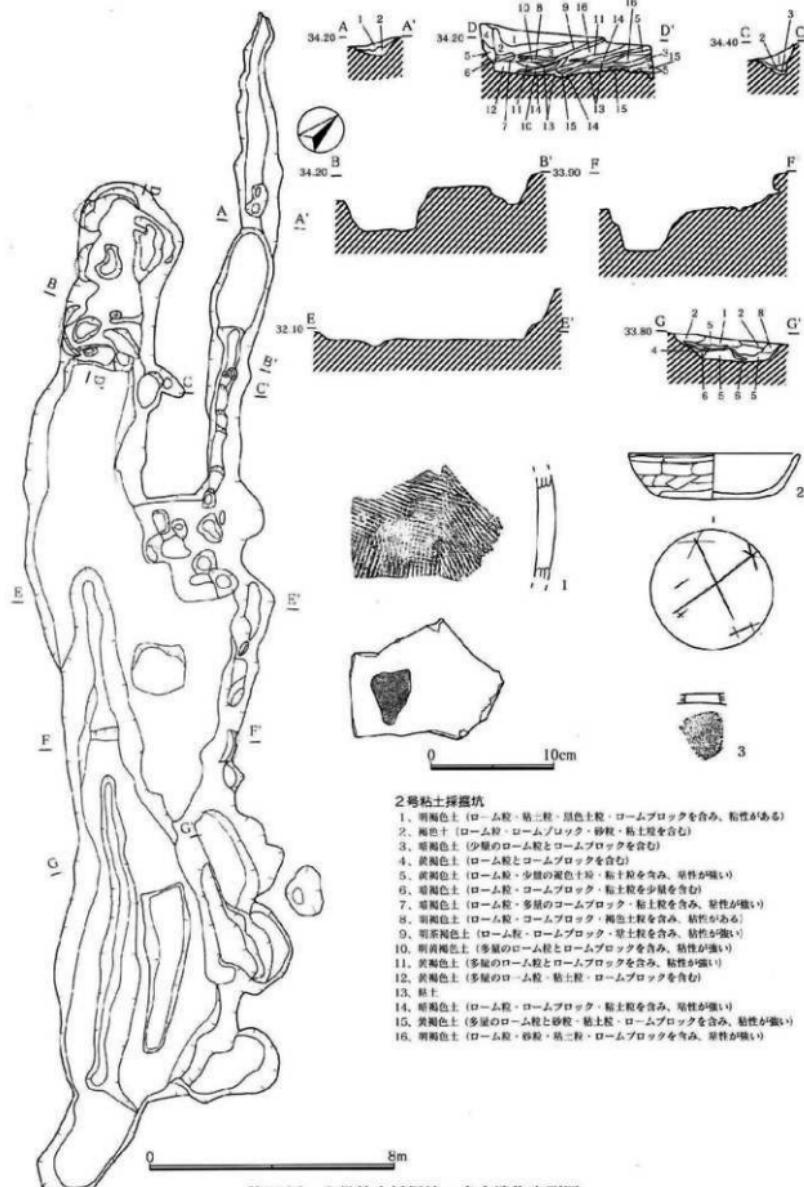
出土遺物 なし

所見 底面全体に、粘土が5cm～10cmの厚さで貼り付けられている。



第37図 1号粘土採掘坑実測図



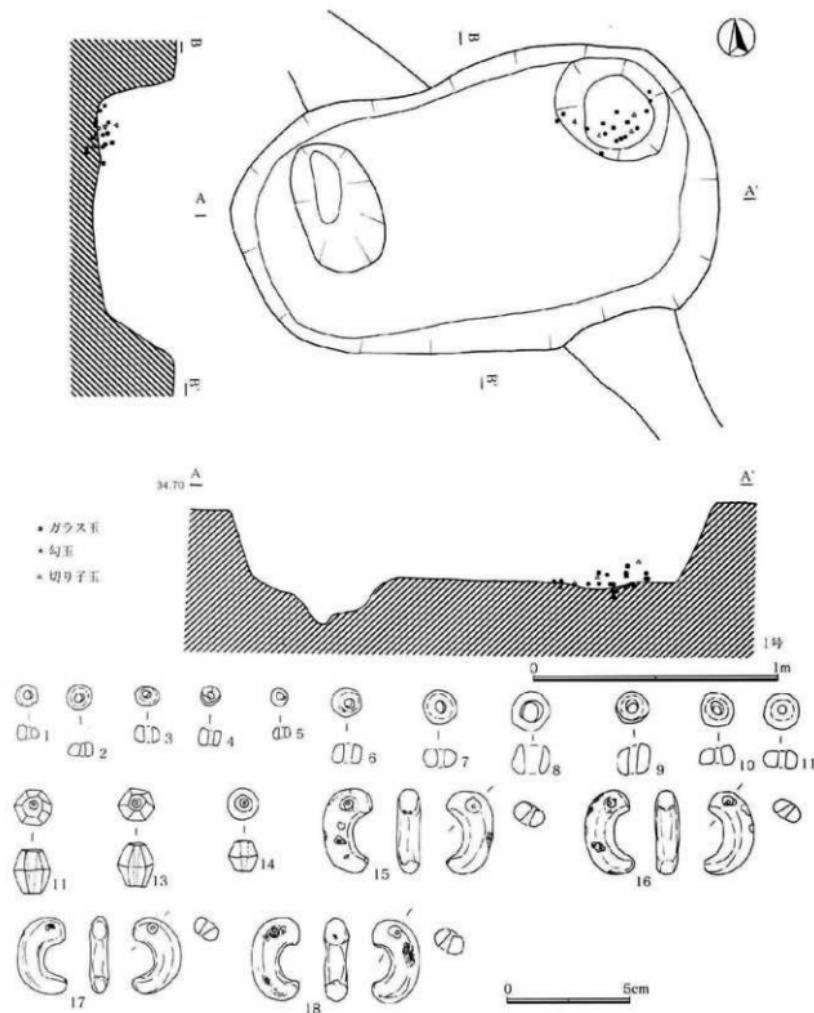


2号粘土探査坑

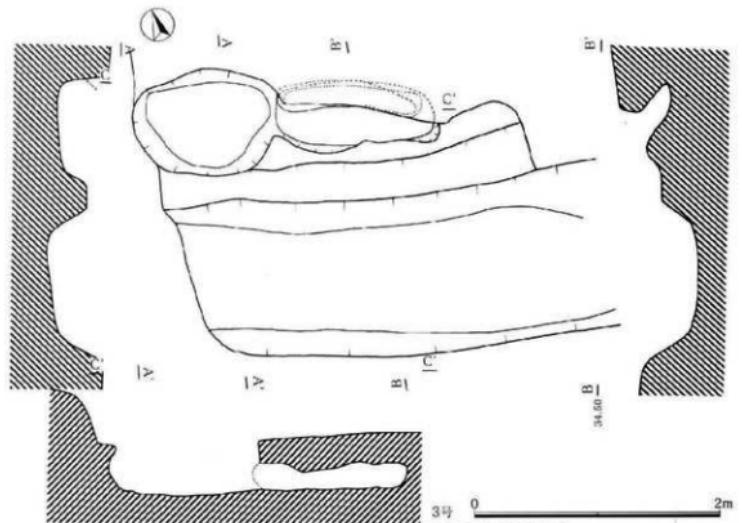
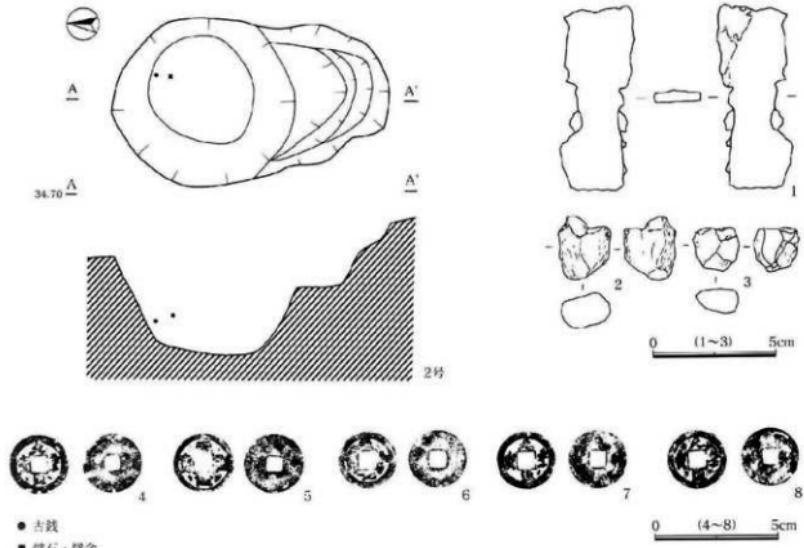
1. 明褐色土 (ローム粒・粘土粒・黑色土粒・ロームブロックを含み、粘性がある)
2. 海色土 (ローム粒・ロームブロック・砂粒・粘土粒を含む)
3. 黑褐色土 (少量のローム粒とロームブロックを含む)
4. 黄褐色土 (ローム粒とロームブロックを含む)
5. 黄褐色土 (ローム粒・少量の褐色土粒・粘土粒を含み、粘性が強い)
6. 黄褐色土 (ローム粒・ロームブロック・粘土粒を少量を含む)
7. 黄褐色土 (ローム粒・多量のロームブロック・粘土粒を含み、粘性が強い)
8. 黑褐色土 (ローム粒・ロームブロック・海色土粒を含み、粘性がある)
9. 黑褐色土 (ローム粒・ロームブロック・粘土粒を含み、粘性が強い)
10. 黑褐色土 (多量のローム粒とロームブロックを含み、粘性が強い)
11. 黄褐色土 (多量のローム粒とロームブロックを含み、粘性が強い)
12. 黄褐色土 (多層のローム粒・粘土粒・ロームブロックを含む)
13. 粘土
14. 黄褐色土 (ローム粒・ロームブロック・粘土粒を含み、粘性が強い)
15. 黄褐色土 (多量のローム粒と砂粒・粘土粒・ロームブロックを含み、粘性が強い)
16. 明褐色土 (ローム粒・砂粒・粘土粒・ロームブロックを含み、粘性が強い)

第39図 2号粘土探査坑・出土遺物実測図

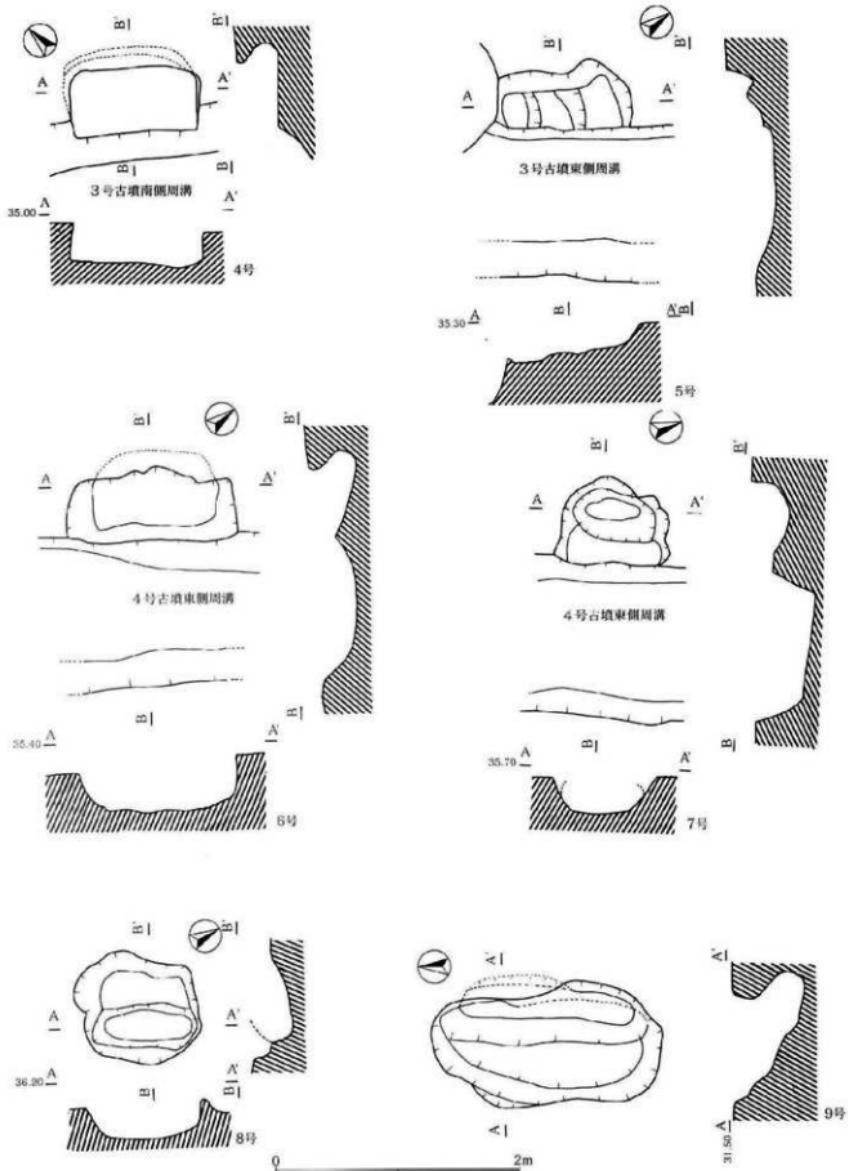
第3節 土塚墓



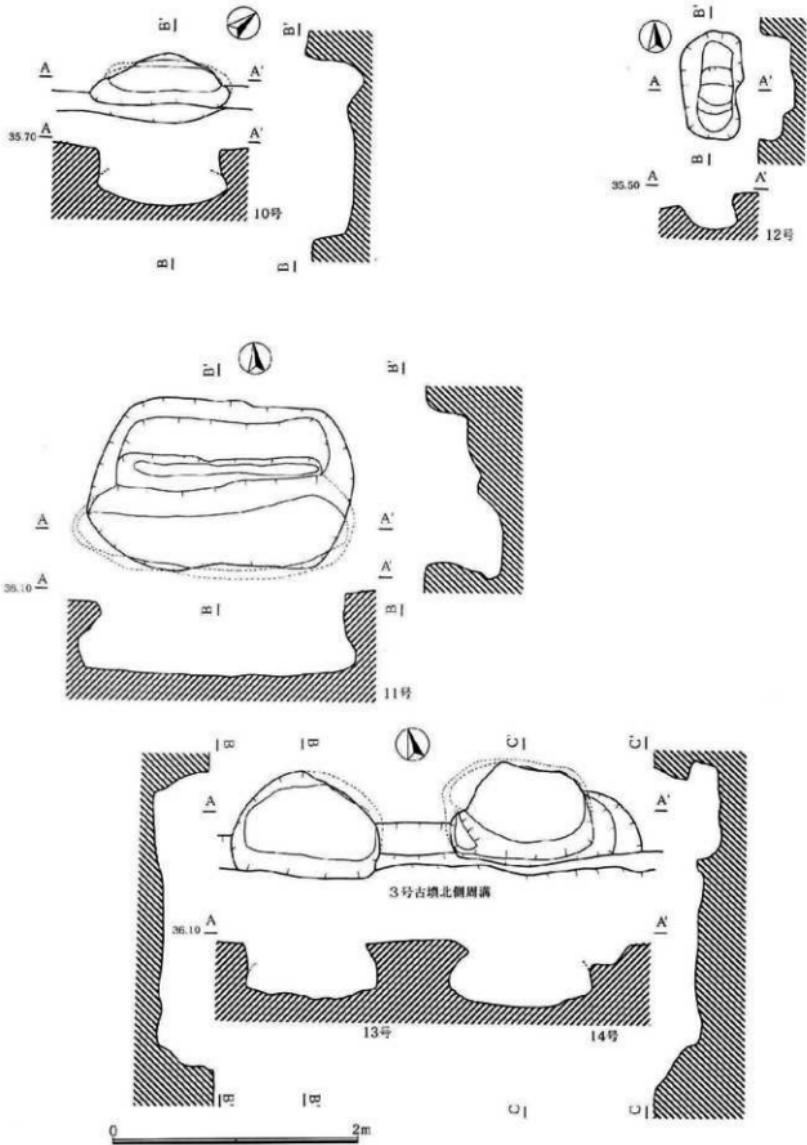
第40図 1号土壤墓・出土遺物実測図



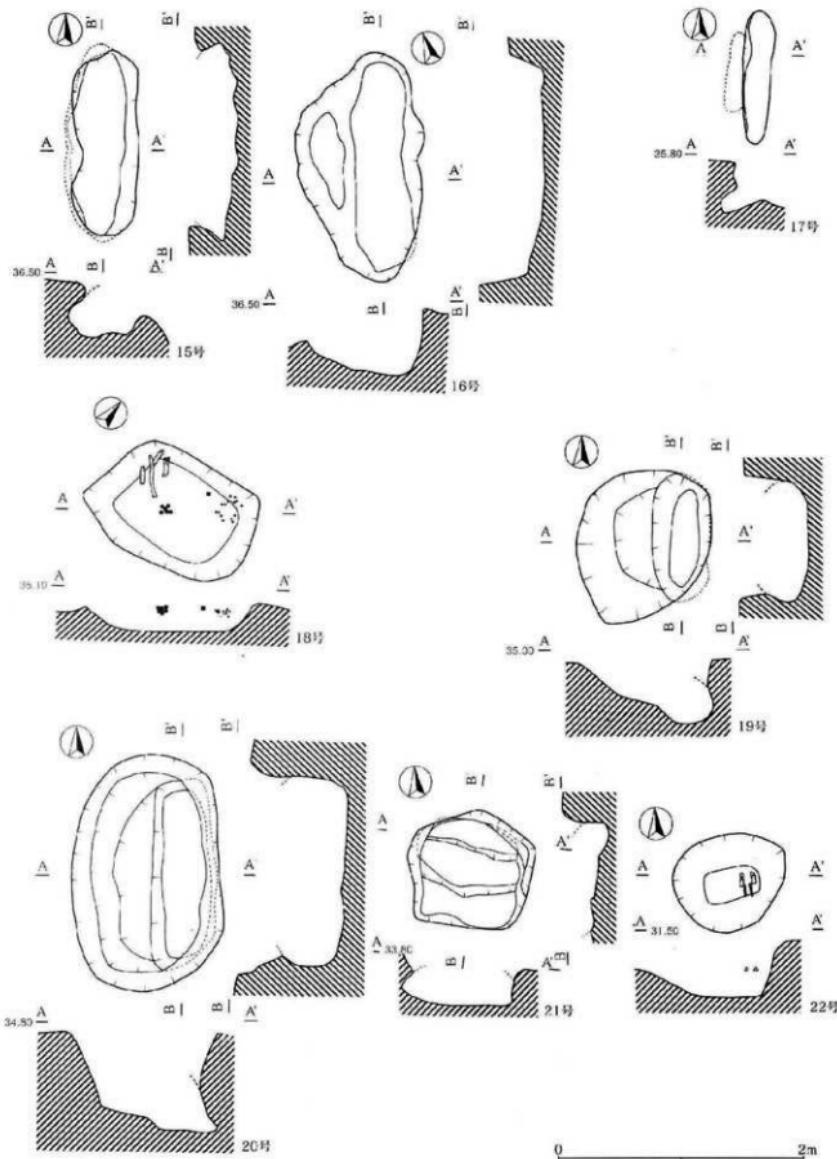
第41図 2号土壙墓・出土遺物、3号土壙墓実測図



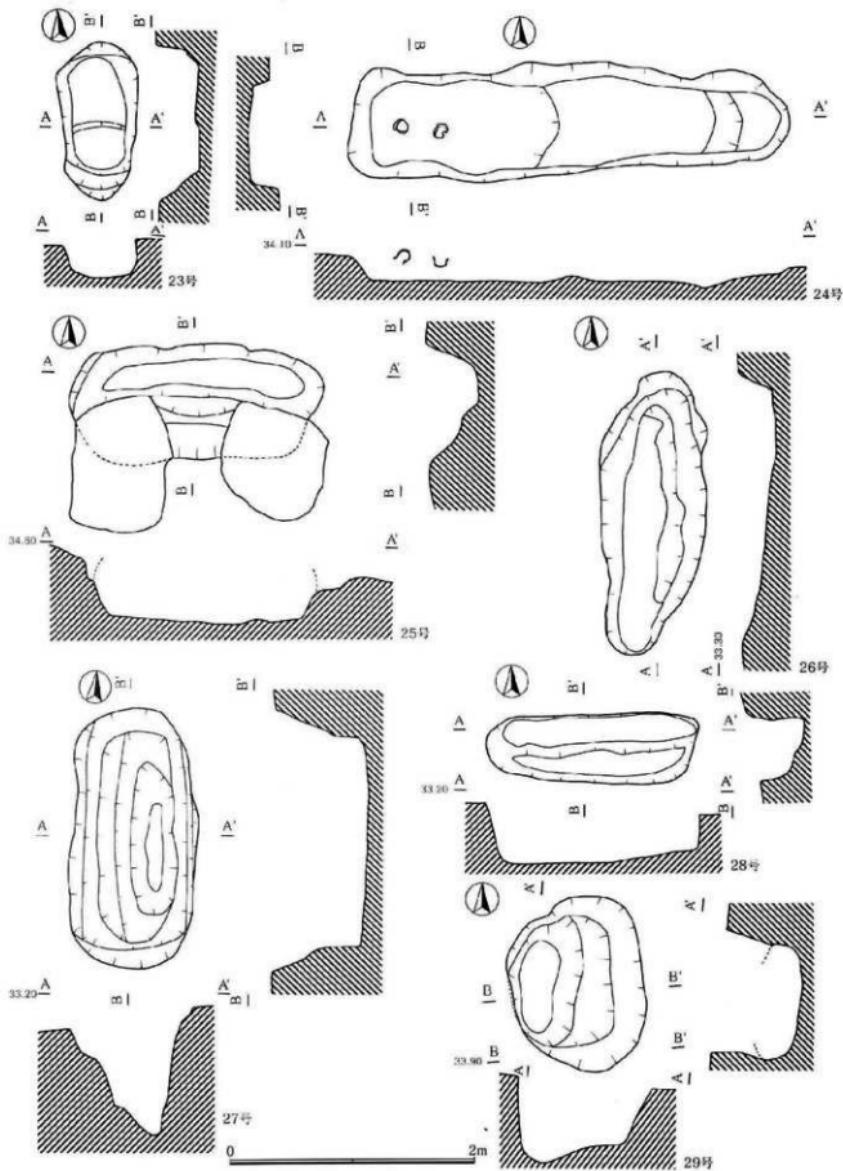
第42図 4号～9号土壙墓実測図



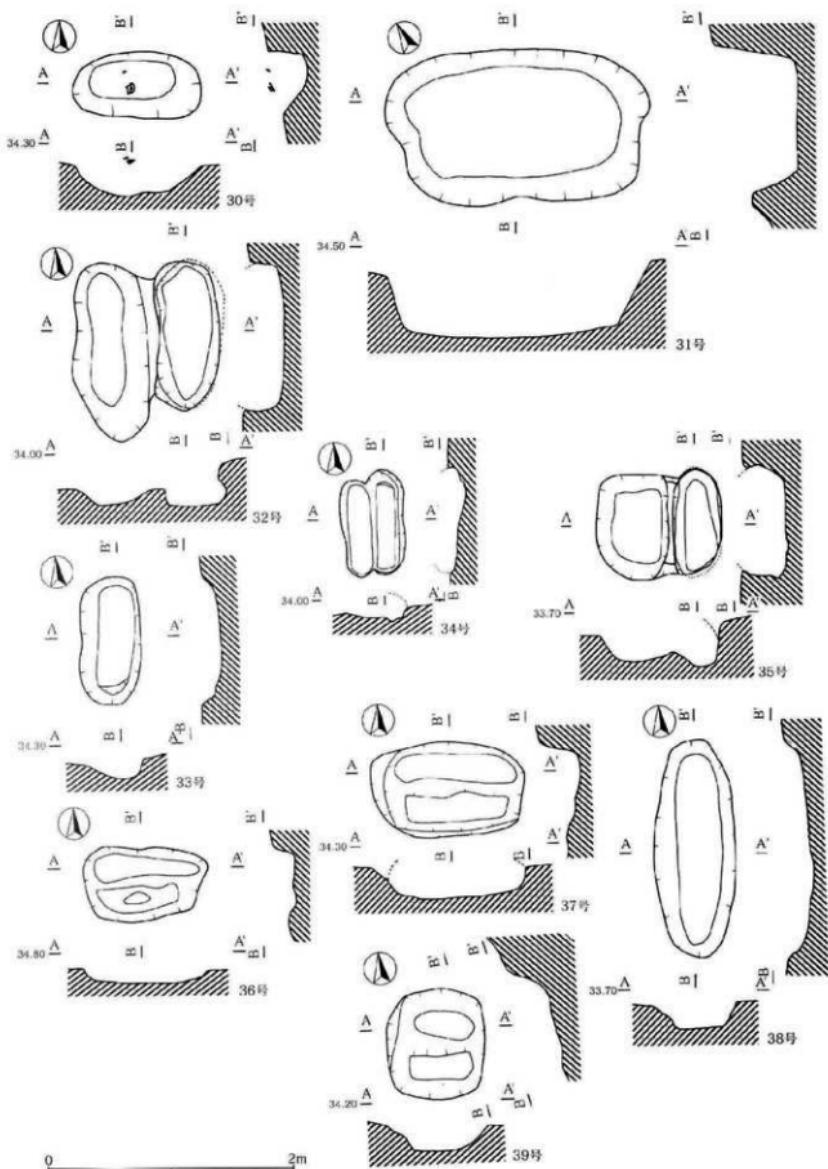
第43图 10号~14号土壤墓实测图



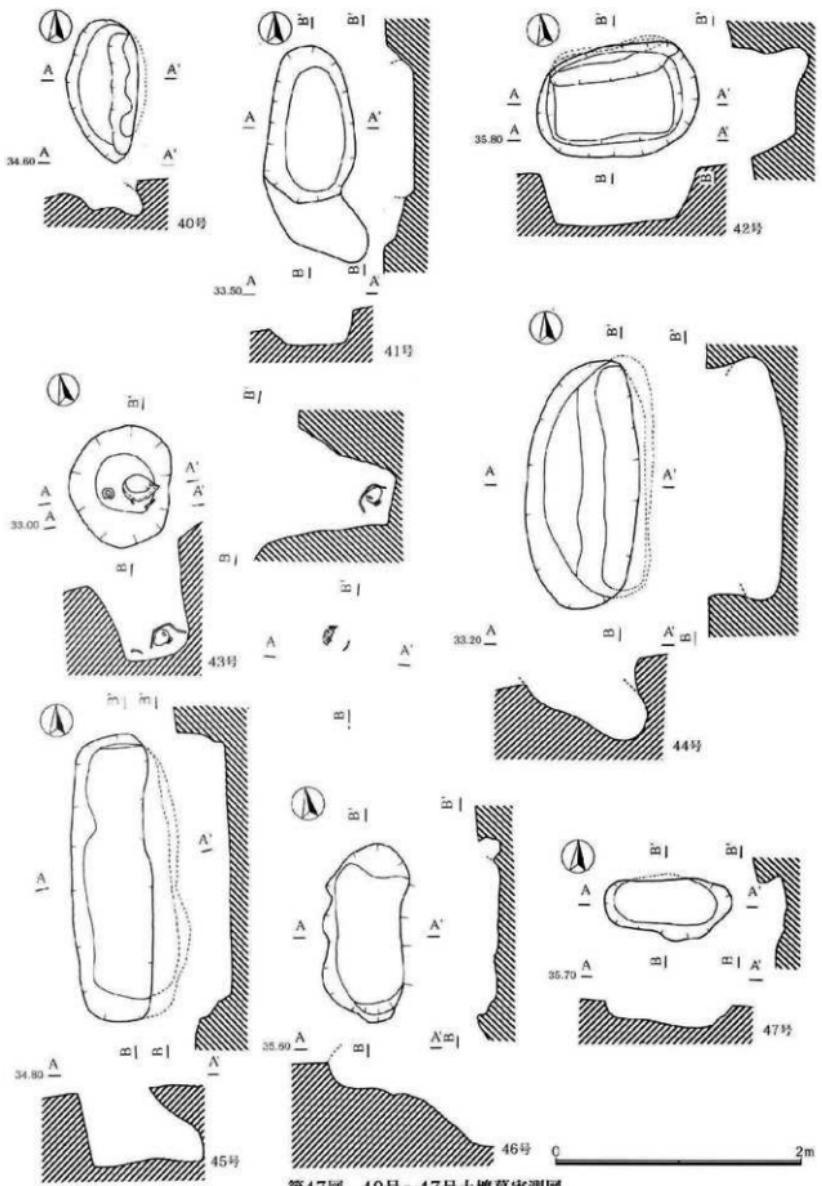
第44図 15号～22号土壤墓実測図



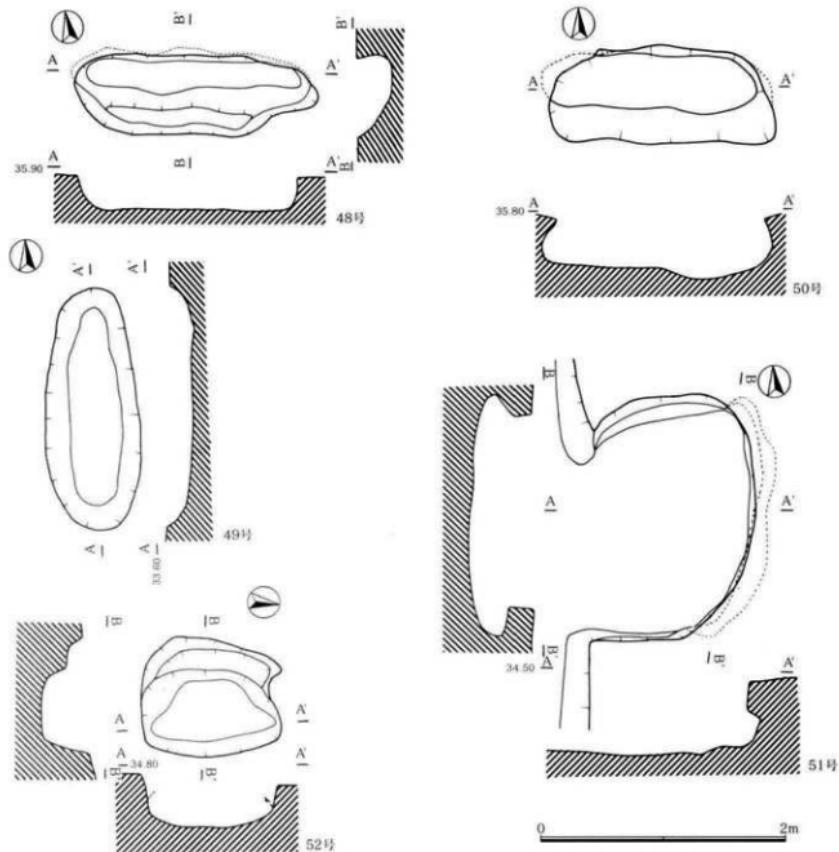
第45図 23号~29号土壤構成測図



第46図 30号～39号土壤墓実測図



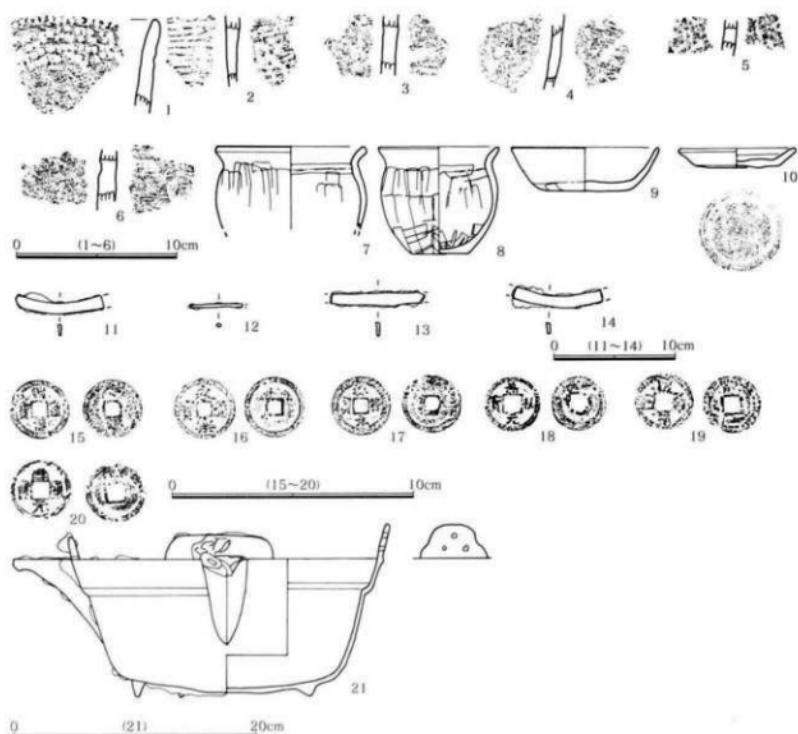
第47圖 40號~47號土壤剖面測量圖



第48図 48号～52号土壤墓実測図

土壤墓出土遺物

1号土壤墓（第40図、図版21）ガラス玉11点、切り子玉3点（水晶）、勾玉4点（メノウ）が出土した。**2号土壤墓**（第41図、図版32）1は鍍金、2・3は錫石、4～8は古銭である。**11号土壤墓**（第49図、図版21）1～4は縄文時代早期後半の条痕文系土器である。1は、口縁部に角頭状の工具による連続刺突文が四列施文されている。また、口唇部に刻み目を有する。**16号土壤墓**（第49図、図版21）5・6は縄文時代早期後半の条痕文系土器である。表裏面に擦痕文がみられる。**18号土壤墓**（第49図、図版21）15～20は古銭である。**24号土壤墓**（第49図、図版21）7・8は土師器甕である。**30号土壤墓**（第49図、図版21）9は土師器杯である。**43号土壤墓**（第49図、図版21、32）10はカワラケ（燈明皿）、11・13・14は刀子、12は鉄釘、21は鉄錐である。



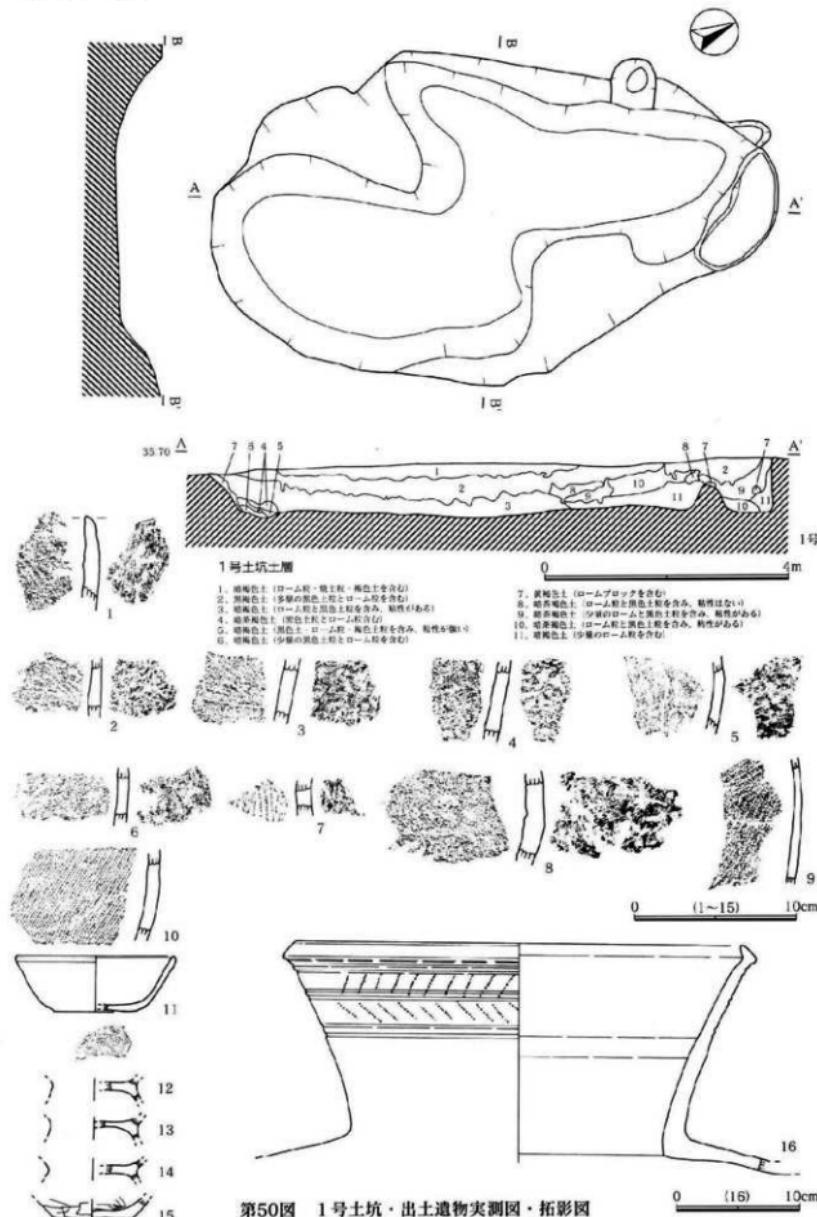
第49図 11号、16号、18号、24号、30号、43号土壤墓出土遺物実測図・拓影図

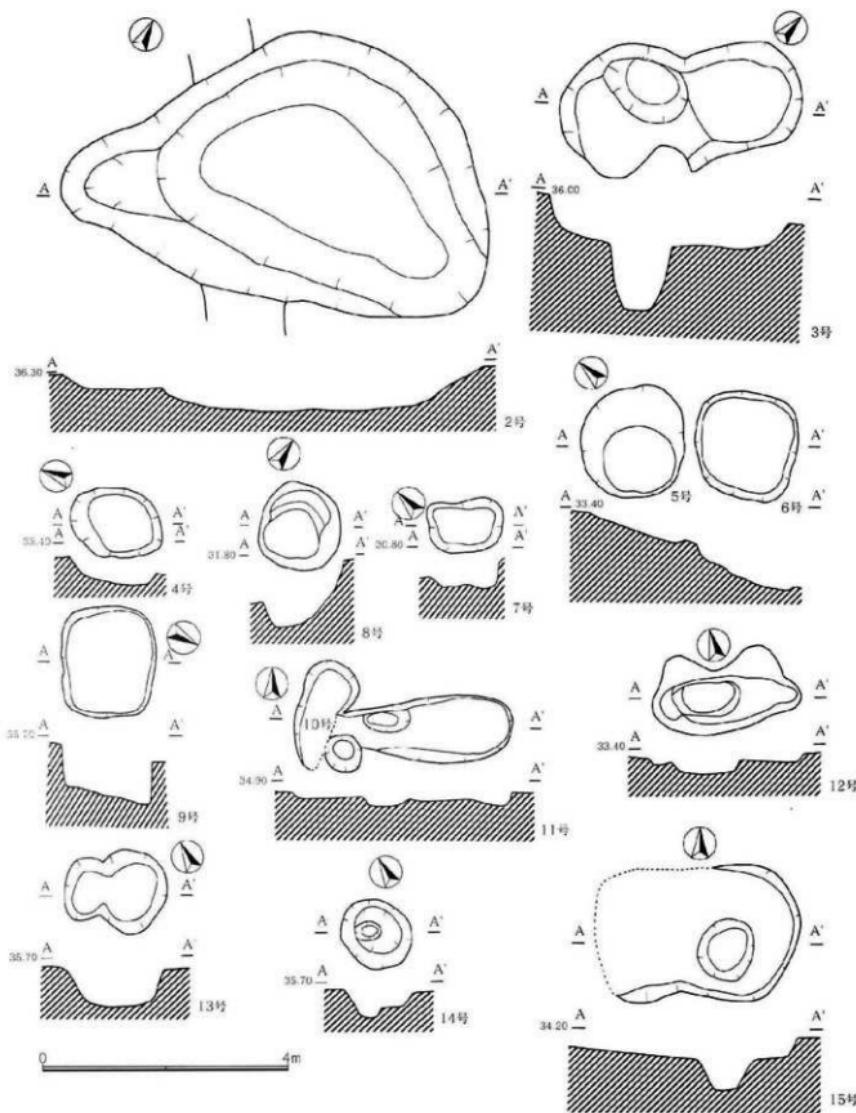
第3表 土壌墓計測表 単位m

遺構番号	位置 (グリッド)	主軸方向	平面形	規模 (長軸×短軸)	深さ	壁 (傾斜)	底面	形態	出土遺物	重複関係
1 5E35-15		N-89°-E	楕円形	1.99×1.07	0.47	外傾	凹凸	D	勾玉・切り子玉・ガラス玉	5号溝
2 5E36-12		N-1°-W	楕円形	2.26×1.38	0.92	外傾	凹凸	-	健石・古鏡・鍍金中鉢	
3 5E14-22		N-31°-E	楕円形	1.30×0.50	0.42	外傾	平坦	A		3号古墳周溝
4 5E14-22		N-30°-W	楕円形	1.06×(-)	0.29	内傾	平坦	A		3号古墳周溝
5 5E14-23 5E24-3		N-25°-W	楕円形	1.08×(-)	0.26	外傾	凹凸	B		3号古墳周溝
6 5E14-24		N-37°-W	楕円形	1.38×0.60	0.40	外傾	凹凸	A		4号古墳周溝
7 5E14-24		N-13°-W	楕円形	0.87×0.70	0.30	外傾	平坦	B		4号古墳周溝
8 5E24-4		N-33°-W	不整楕円形	0.97×0.84	0.29	外傾	平坦	A		
9 5E14-25		N-0°-W	楕円形	1.90×0.91	0.59	外傾	凹凸	A		
10 5E14-24		N-41°-W	楕円形	1.14×0.41	0.46	垂直	丸底	A		3号古墳周溝
11 5E14-19		N-53°-E	不整楕円形	2.01×1.46	0.66	内傾	平坦	A	縄文土器(早期)	

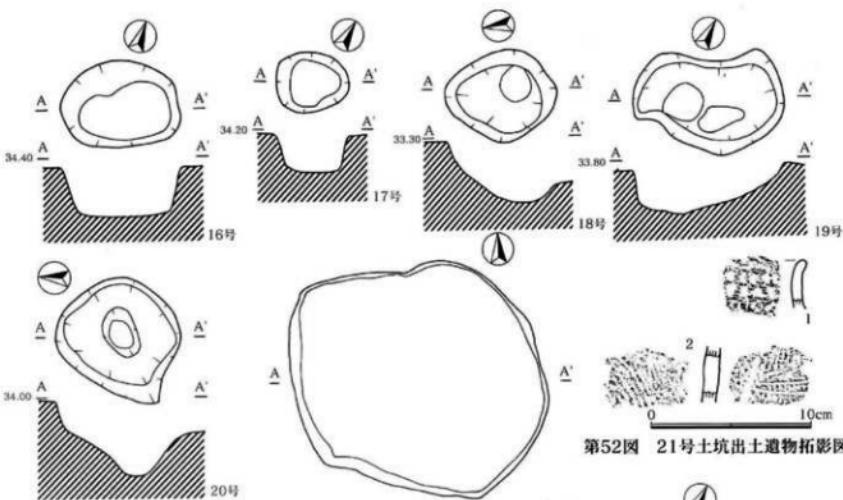
遺構番号	位置(グリッド)	主軸方向	平面形	規模(長軸×短軸)	深さ	壁(傾斜)	底面	形態	出土遺物	重複関係
12	SE14-25	N - O° - W	楕円形	0.89×0.50	0.30	内傾	凹凸	A		
13	SE14-13	N - 16° - W	不整椭円形	1.20×0.86	0.33	内傾	凹凸	A		3号古墳周溝
14	SE14-13	N - 20° - W	不整椭円形	1.59×0.89	0.53	外傾	平坦	A		3号古墳周溝
15	SE14-25	N - O° - W	楕円形	1.53×0.49	0.31	内傾	凹凸	A		
16	SE14-24	N - 58° - W	楕円形	1.90×0.97	0.41	外傾	丸底	B	縄文土器(早期)	
17	SE14-20	N - O° - W	楕円形	1.10×0.34	0.36	外傾	凹凸	A		
18	SE15-14	N - 54° - W	不整椭円形	1.32×0.93	0.24	外傾	平坦	-	齒・古銭・骨	
19	SE35-3	N - O° - W	不整椭円形	1.23×1.19	0.53	外傾	平坦	A		溝
20	SE25-22	N - O° - W	不整椭円形	1.96×1.19	0.80	内傾	平坦	A		
21	SE16-17	N - 8° - W	不整椭円形	1.01×0.98	0.37	内傾	平坦	A		
22	SE6-25	N - 75° - W	不整椭円形	0.94×0.80	0.19	外傾	平坦	-	ウマの歯	28号溝
23	SE14-25	N - O° - W	楕円形	1.30×0.58	0.33	外傾	凹凸	C		47号溝
24	SE16-8	N - 90° - W	長方形	3.59×0.90	0.20	外傾	平坦	C	土師器底	
25	SE15-21	N - 90° - W	楕円形	2.00×0.95	0.51	外傾	平坦	B		
26	SE35-11	N - 10° - E	長方形	2.32×0.85	0.28	外傾	平坦	B		36号溝
27	SE24-20	N - O° - W	楕円形	2.15×1.01	0.78	外傾	平坦	B		
28	SE24-8	N - 90° - W	楕円形	1.73×0.52	0.50	外傾	平坦	B		
29	SE24-3	N - 75° - E	不整椭円形	1.45×1.07	0.67	外傾	凹凸	B		29号溝
30	SE24-2	N - 90° - W	楕円形	1.04×0.25	0.25	外傾	凹凸	B	土師器杯	
31	SE25-21	N - 31° - E	楕円形	2.17×1.22	0.57	外傾	丸底	B		
32	SE35-1	N - 18° - E	不整椭円形	1.26×1.18	0.30	内傾	平坦	A		
33	SE35-1	N - 13° - E	楕円形	1.05×0.47	0.16	外傾	丸底	A		
34	SE35-1	N - 8° - E	楕円形	0.87×0.15	0.15	外傾	平坦	A		
35	SE35-1	N - O° - W	不整椭円形	1.01×0.89	0.35	内傾	平坦	A		
36	SE24-4	N - 53° - E	不整椭円形	1.01×0.59	0.11	外傾	平坦	B		
37	SE24-4	N - 66° - E	不整椭円形	1.25×0.78	0.25	外傾	平坦	B		
38	SE25-21	N - 17° - E	楕円形	1.78×0.66	0.24	外傾	凹凸	C		
39	SE24-3	N - 61° - E	不整椭円形	0.90×0.79	0.21	外傾	平坦	B		
40	SE25-21	N - 13° - E	楕円形	1.18×0.95	0.28	内傾	凹凸	A		
41	SE24-25	N - 16° - E	楕円形	1.67×0.69	0.23	外傾	凹凸	B		
42	SE24-2	N - 55° - W	楕円形	1.27×0.94	0.44	内傾	平坦	A		
43	SE24-20	N - 31° - E	不整椭円形	1.00×0.81	0.93	外傾	平坦	-	人骨・カワラケ・刀子・鉄釘・鉄錐	15号溝
44	SE34-10	N - O° - W	楕円形	2.01×0.19	0.63	内傾	平坦	A		
45	SE25-16	N - 18° - E	長方形	2.33×0.81	0.38	外傾	平坦	A		
46	SE14-24	N - O° - W	楕円形	1.47×(-)	0.19	内傾	凹凸	A		
47	SE14-22	N - 57° - E	楕円形	1.04×0.52	0.19	外傾	凹凸	A		
48	SE14-20	N - 65° - W	楕円形	1.99×0.70	0.28	外傾	平坦	A		
49	SE24-20	N - 11° - E	楕円形	1.98×0.76	0.19	外傾	平坦	C		
50	SE24-3 SE24-4	N - 64° - E	楕円形	1.82×0.80	0.49	内傾	凹凸	A		
51	SE25-21	N - 21° - E	不整椭円形	2.06×(-)	0.49	内傾	平坦	A		
52	SE35-2	N - 19° - E	不整椭円形	1.13×0.96	0.39	外傾	平坦	B		

第4節 土坑

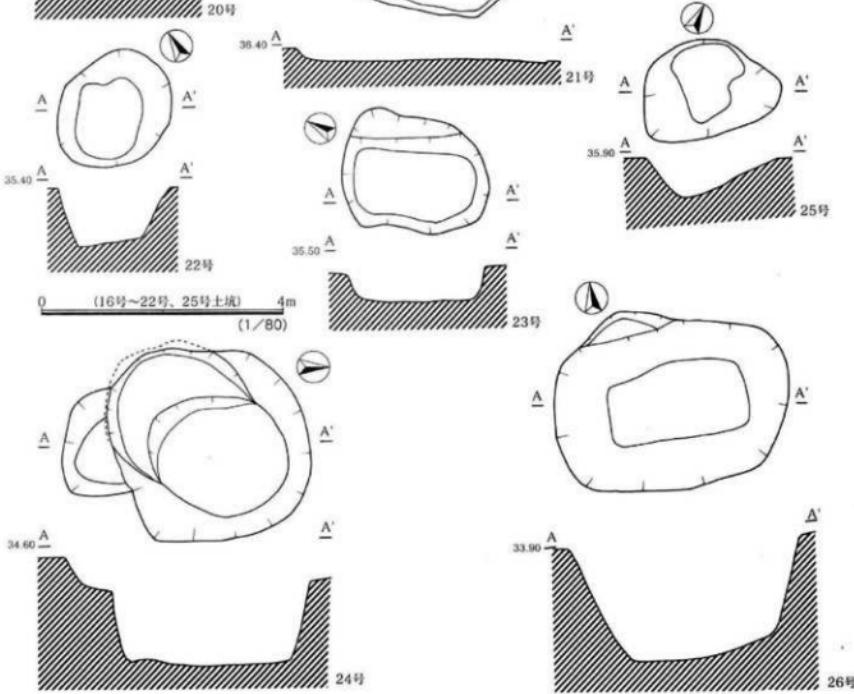




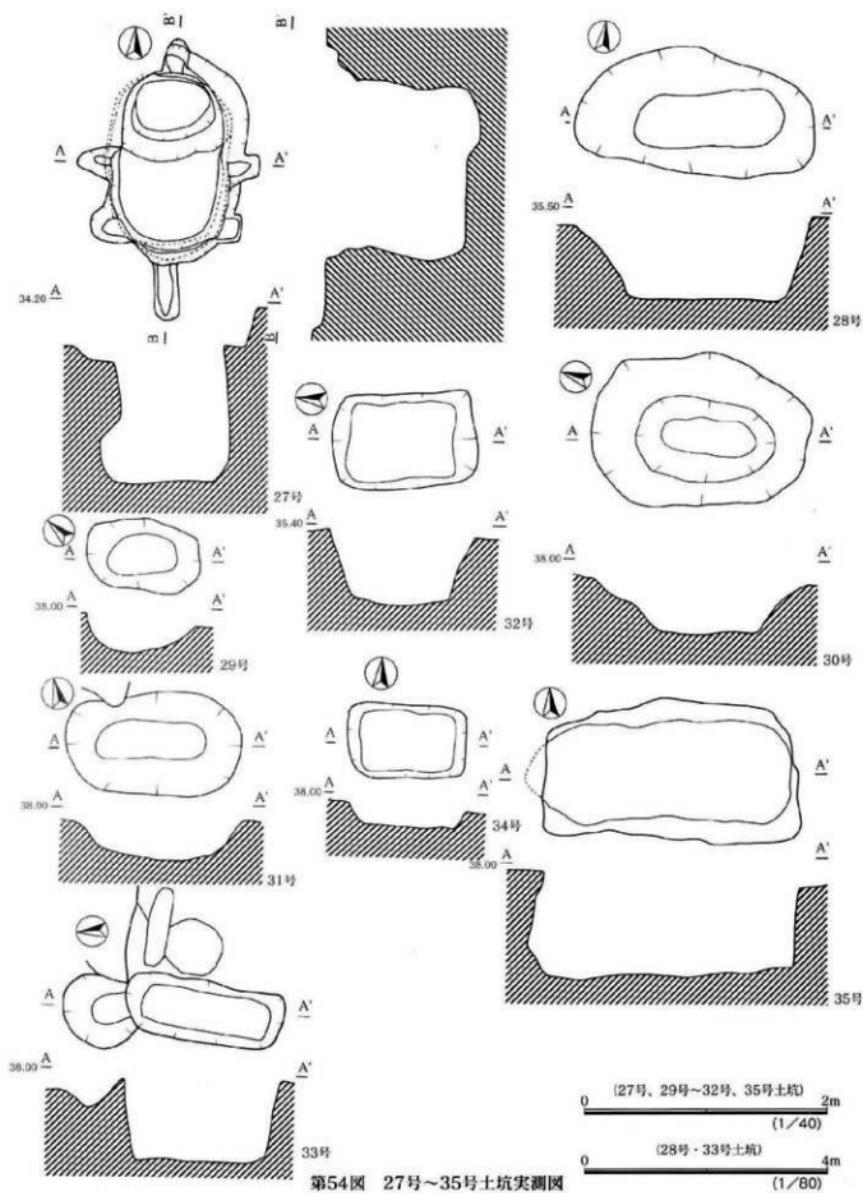
第51図 2号～15号土坑実測図



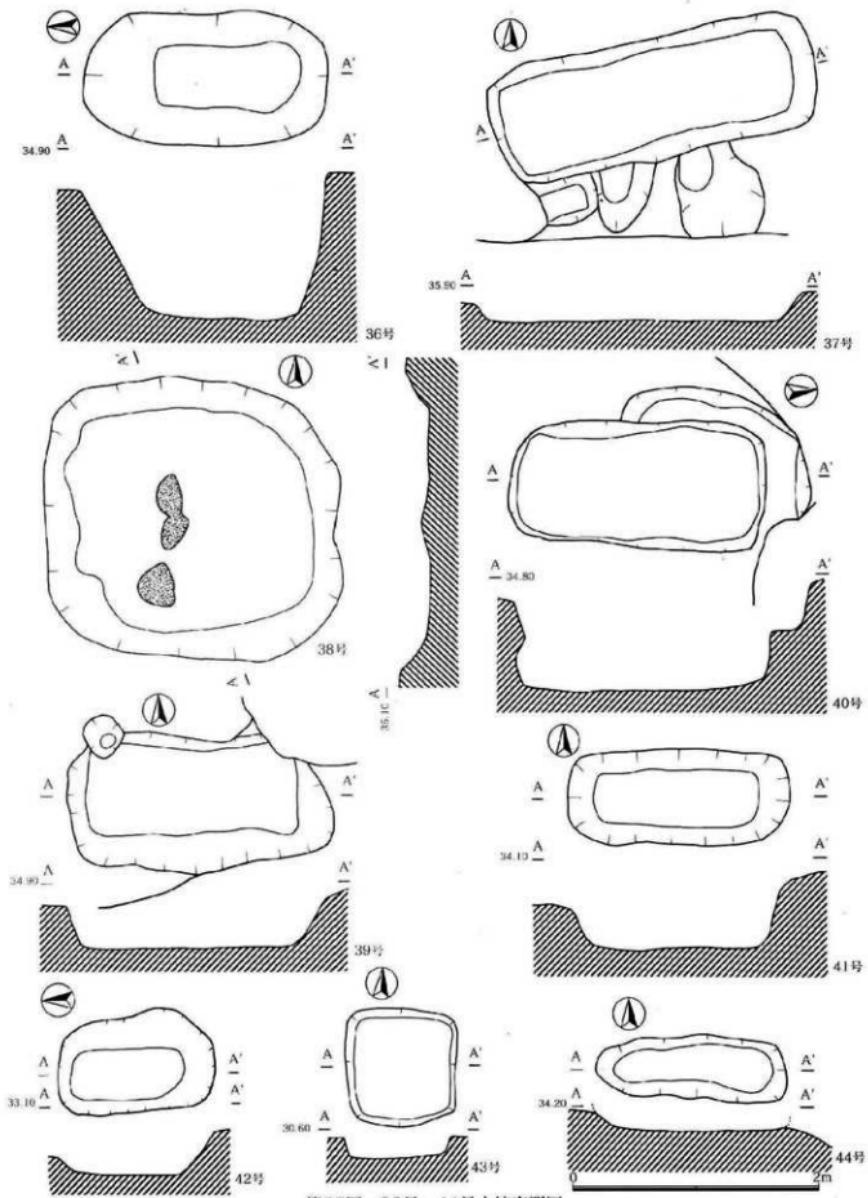
第52圖 21號土坑出土遺物拓影圖



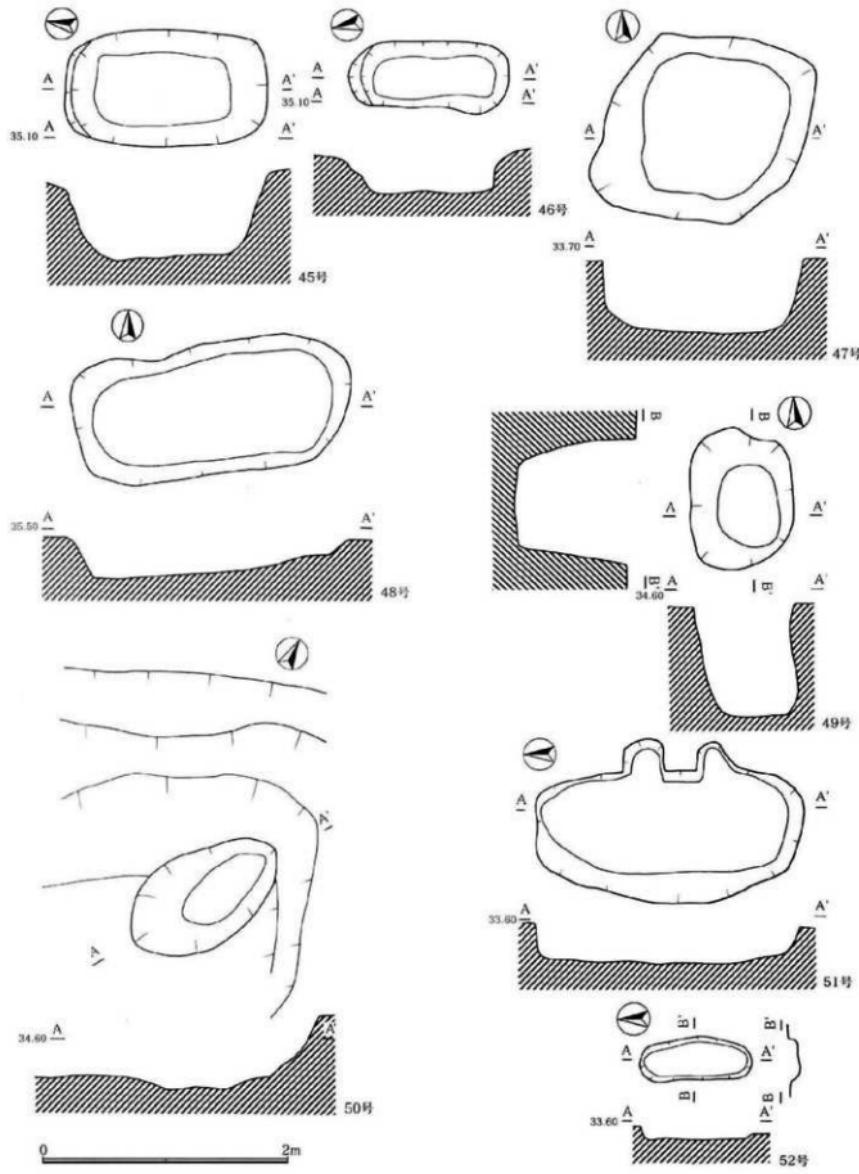
第53圖 16號～26號土坑實測圖



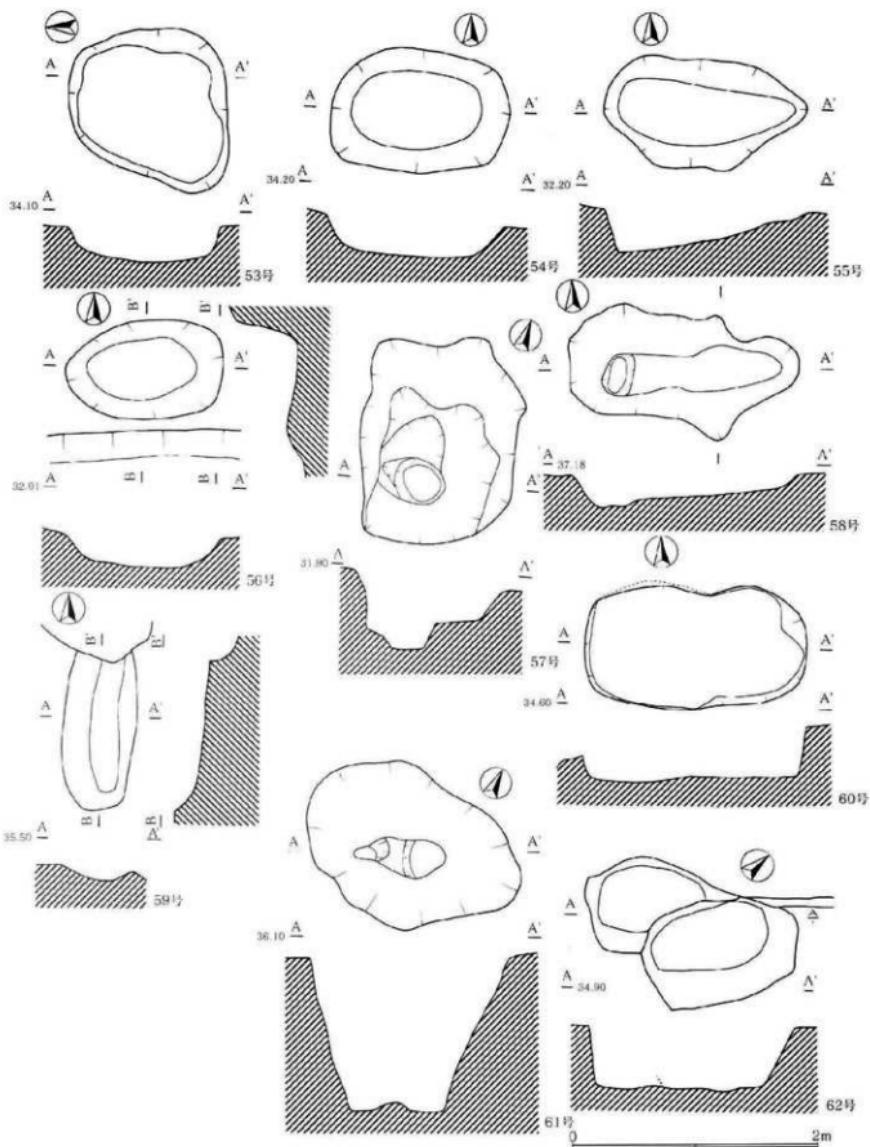
第54図 27号～35号土坑実測図



第55圖 36号~44号土坑実測図



第56図 45号～52号土坑実測図

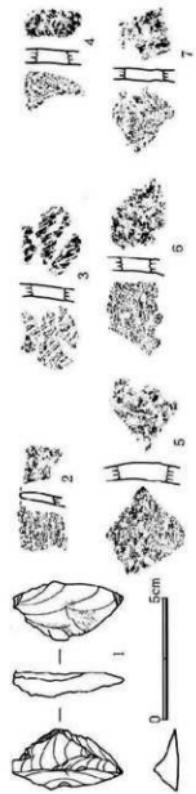


第57図 53号～62号土坑実測図

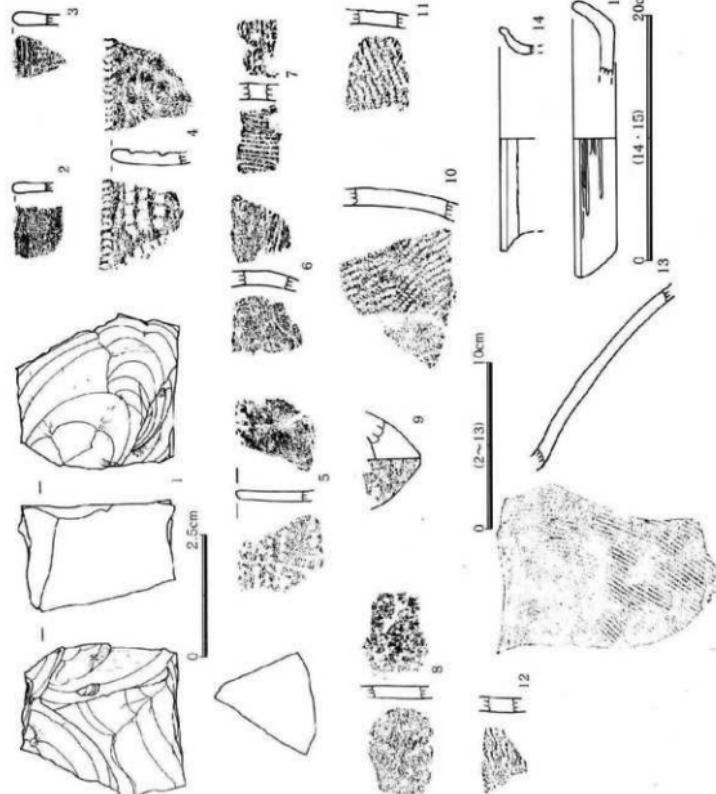
第4表 土坑計測表 (第50~57図、図版33~36) 単位m

遺構番号	位置(グリッド)	主軸方向	平面形	規模(長軸×短軸)	深さ	壁(傾斜)	底面
1 SE14-24 SE14-25		N-19°-W	不整橢円形	8. 15×5. 47	0. 89	外傾	凹凸
2 SE14-4		N-65°-W	不整橢円形	6. 87×4. 45	0. 65	外傾	凹凸
3 SE36-14 SE36-19		N-46°-W	不整橢円形	3. 97×1. 75	1. 71	外傾	凹凸
4 SE37-11		N-24°-E	円形	1. 56×1. 08	0. 30	外傾	凹凸
5 SE37-11		N-44°-E	円形	1. 92×1. 64	0. 70	外傾	凹凸
6 SE37-11		N-44°-E	円形	1. 98×1. 52	0. 24	外傾	凹凸
7 SE37-16		N-47°-E	橢円形	1. 24×0. 80	0. 44	外傾	凹凸
8 SE37-12		N-53°-W	円形	1. 48×1. 32	0. 67	外傾	凹凸
9 SE37-17		N-32°-E	長方形	1. 80×1. 44	0. 72	垂直	凹凸
10 SE37-13		N-81°-E	不整橢円形	(-) ×0. 62	0. 14	外傾	凹凸
11 SE37-13		N-81°-E	橢円形	(-) ×0. 90	0. 10	外傾	平坦
12 SE37-14 SE37-13		N-75°-E	不整橢円形	2. 42×1. 10	0. 18	外傾	凹凸
13 SE37-8		N-74°-E	不整橢円形	1. 66×1. 00	0. 62	外傾	平坦
14 SE37-9		N-58°-E	円形	1. 20×1. 00	0. 44	垂直	凹凸
15 SE36-14 SE36-15		N-90°-W	橢円形	(-) ×2. 42	0. 84	外傾	凹凸
16 SE36-15		N-62°-W	橢円形	1. 94×1. 40	0. 84	外傾	平坦
17 SE36-15		N-62°-W	円形	1. 20×1. 00	0. 64	外傾	平坦
18 SE36-24		N-11°-E	円形	1. 84×1. 52	0. 67	外傾	凹凸
19 SE36-20		N-67°-W	橢円形	2. 84×1. 58	0. 78	外傾	凹凸
20 SE36-19		N-8°-E	円形	2. 04×1. 90	1. 00	外傾	凹凸
21 SE36-13		N-87°-W	円形	2. 10×1. 78	0. 19	外傾	平坦
22 SE36-17		N-30°-W	円形	1. 88×1. 84	1. 00	外傾	凹凸
23 SE15-21		N-30°-E	橢円形	1. 13×0. 93	0. 26	外傾	平坦
24 SE25-12		N-85°-W	不整橢円形	2. 20×1. 59	0. 80	垂直	凹凸
25 SE36-19		N-63°-W	橢円形	2. 24×1. 56	0. 68	外傾	凹凸
26 SE35-12		N-85°-E	橢円形	1. 90×1. 42	0. 97	外傾	平坦
27 SE35-1 SE35-2		N-9°-E	不整橢円形	2. 36×1. 50	1. 31	内傾	凹凸
28 SE14-23 SE24-3		N-84°-W	橢円形	3. 91×2. 00	1. 46	外傾	平坦
29 SE14-24		N-71°-E	橢円形	0. 93×0. 59	0. 29	外傾	丸底
30 SE14-24		N-30°-E	橢円形	1. 76×1. 27	0. 40	外傾	平坦
31 SE14-24		N-75°-E	橢円形	1. 45×0. 86	0. 30	外傾	凹凸
32 SE15-14		N-0°-W	長方形	1. 19×0. 79	0. 60	外傾	凹凸
33 SE14-24 SE24-4		N-4°-W	長方形	2. 56×1. 04	1. 40	外傾	平坦
34 SE25-12		N-90°-W	長方形	0. 97×0. 60	0. 18	外傾	平坦
35 SE14-19 SE24-25		N-90°-W	橢円形	2. 18×1. 15	0. 91	内傾	平坦
36 SE15-21 SE25-1		N-0°-W	橢円形	1. 98×1. 08	1. 17	外傾	平坦
37 SE14-19		N-72°-W	長方形	5. 36×1. 95	0. 46	外傾	平坦
38 SE15-13 SE15-14		N-18°-W	正方形	2. 40×2. 35	0. 20	外傾	凹凸
39 SE25-1		N-0°-W	長方形	2. 12×1. 08	0. 45	外傾	平坦
40 SE25-1		N-18°-W	長方形	2. 09×1. 01	0. 84	内傾	平坦

遺構番号	位置 (グリッド)	主軸方向	平面形	規模 (長軸×短軸)	深さ	壁面 (傾斜)	底面
41	5E16-8・9 ・13-14	N- O°-W	長方形	1. 81×0. 85	0. 56	外傾	平坦
42	5E24-25	N- O°-W	長方形	1. 29×0. 76	0. 32	外傾	凹凸
43	5E15-22	N-70°-W	正方形	0. 95×0. 89	0. 18	外傾	平坦
44	5E24-9	N-90°-W	長方形	3. 10×0. 89	0. 35	外傾	凹凸
45	5E16-8	N- O°-W	長方形	1. 65×0. 97	0. 76	外傾	平坦
46	5E16-8	N- O°-W	長方形	1. 32×0. 55	0. 36	外傾	平坦
47	5E25-11	N-90°-W	正方形	1. 63×1. 49	0. 63	外傾	平坦
48	5E15-21	N-90°-W	長方形	2. 26×1. 07	0. 61	外傾	凹凸
49	5E35-6 5E35-7	N-28°-W	長方形	0. 90×0. 84	0. 96	外傾	凹凸
50	5E15-19	N-42°-W	橢円形	1. 44×0. 66	0. 90	外傾	凹凸
51	5E24-25	N- O°-W	長方形	2. 17×1. 10	0. 33	外傾	凹凸
52	5E25-21	N- O°-W	長方形	0. 90×0. 35	0. 10	外傾	凹凸
53	5E24-20	N- O°-W	円形	1. 25×1. 09	0. 26	外傾	凹凸
54	5E24-2 5E24-3	N-90°-W	長方形	1. 46×1. 00	0. 31	外傾	平坦
55	5E24-4	N- O°-W	不整橢円形	1. 68×0. 88	0. 41	外傾	凹凸
56	5E24-9	N-90°-W	橢円形	1. 28×0. 81	0. 26	外傾	凹凸
57	5E24-25	N-82°-W	長方形	3. 26×2. 38	1. 23	外傾	凹凸
58	5E14-13	N-90°-W	不整橢円形	1. 85×1. 03	0. 28	外傾	凹凸
59	5E35-6	N- O°-W	長方形	1. 25×0. 59	0. 25	外傾	凹凸
60	5E25-16	N-90°-W	長方形	1. 80×1. 00	0. 38	垂直	平坦
61	5E14-18	N-63°-W	不整橢円形	1. 63×1. 12	1. 29	外傾	凹凸
62	5E14-23 5E14-24 5E24-3	N-29°-W	不整橢円形	1. 64×0. 96	0. 52	外傾	凹凸



第58圖 2號土坑出土物実測図・拓影圖



第59圖 6号、9号～11号、28号、36号～38号、58号土坑出土物実測図・拓影図

土坑出土遺物

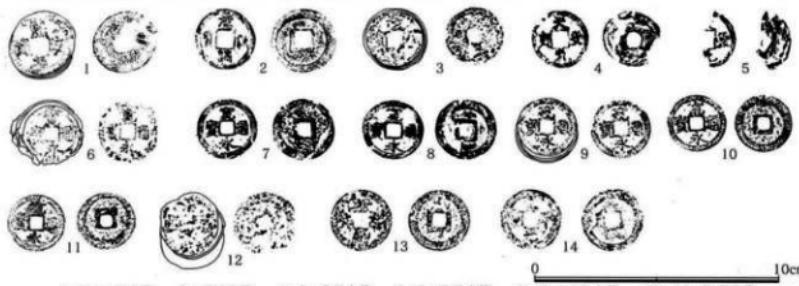
1号土坑 (第50図、図版36、37) 1~8は、縄文時代早期の条痕文系土器である。7は表面に条痕文が、裏面に擦痕文が施されている。9・10は、弥生時代後期の土器である。11・15は土師器杯で、12~14は土師器高台付壺である。16は、須恵器大甕である。**2号土坑** (第58図、図版37) 1は、石器の剥片である。2~7は縄文時代早期の条痕文系土器で、表裏面に条痕文が施されている。8は、阿玉台口式の縄文土器である。9~11は、弥生時代後期の土器である。**6・9号土坑** (第59図、図版37) 10は6号土坑、11は9号土坑から出土したもので、ともに縄文時代中期の脚部片である。**10・11号土坑** (第59図、図版37) 13は10号土坑から出土したもので、表面にタタキ痕がある須恵器大甕である。14は11号土坑から出土したもので、土師器甕の口縁部片である。**21号土坑** (第52図、図版37) 1は口唇部に刻み目を施し、その直下に平行して半截竹管による連続刺突文が二列施されている。2は、表裏面に条痕文が施されている。**28号土坑** (第59図、図版37) 1は、石核であろう。7は、表裏面に条痕文が施されている。8は、表裏面に擦痕文が施されている。9は、尖底の破片である。**36号土坑** (第59図、図版37) 2・3は、縄文時代早期の燃糸文系土器である。12は弥生時代後期の土器で、S字状結節文が施されている。**37号土坑** (第59図、図版37) 15は、焰烙鍋の破片である。38号土坑 (第59図、図版37) 6は、表裏面に擦痕文が施されている。**58号土坑** (第59図、図版37) 4・5は、縄文時代早期の条痕文系土器である。ともに、口唇部に刻み目を有し、角頭状工具による連続刺突文が三列施されている。いずれも子母口式土器であろう。

第5節 火葬遺構

火葬遺構

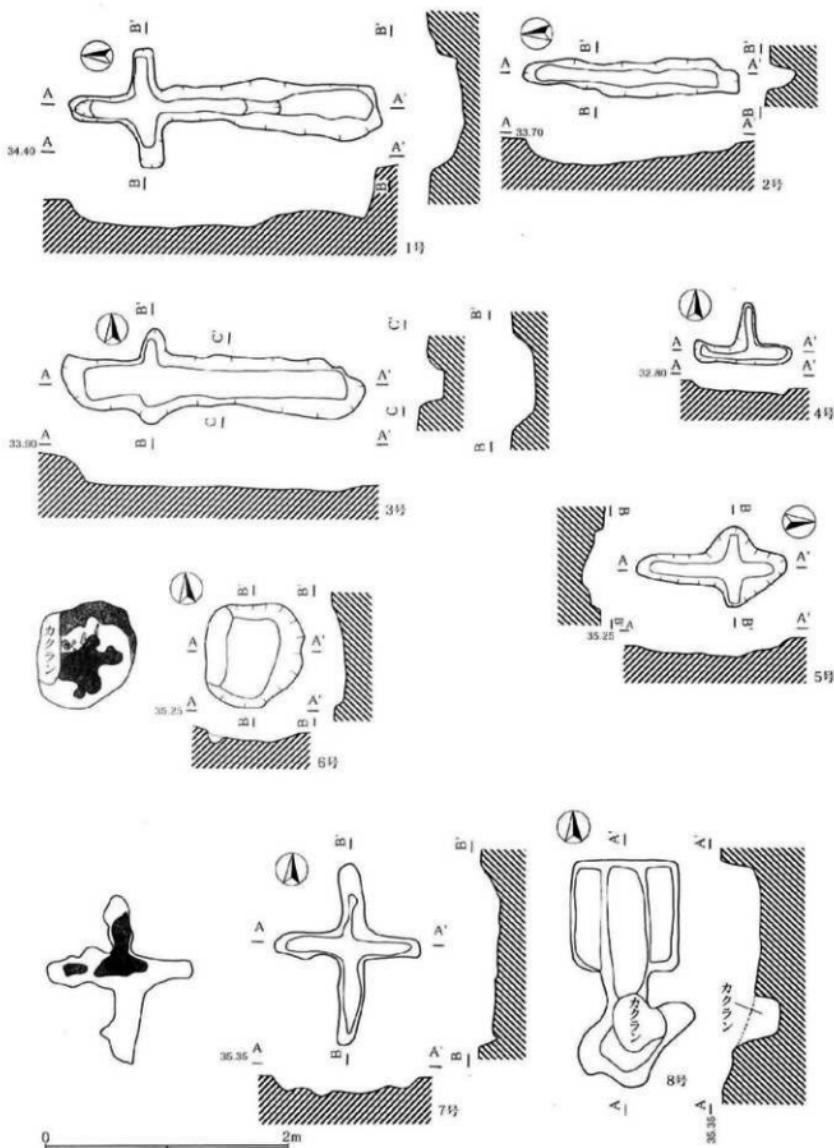
第5表 火葬遺構計測表 (第61図、図版28~31) 単位m

遺構番号	位置 (グリッド)	主軸方向	平面形	深さ	規模 (長軸×短軸)	底面	出土遺物
1	5E16-2	N-O° -W	十字形	0.14	2.55×1.00	平坦	人骨・古鏡
2	5E16-2	N-O° -W	長梢円形	0.18	1.76×0.20	丸底	古鏡
3	5E6-22	N-90° -W	十字形	0.19	2.47×0.80	平坦	人骨・古鏡
4	5E6-18	N-90° -W	T字形	0.07	0.70×0.50	平坦	
5	5E15-9	N-O° -W	十字形	0.13	1.23×0.67	凹凸	古鏡
6	5E15-9	N-O° -W	不整梢円形	0.10	0.85×0.79	丸底	古鏡
7	5E15-9	N-O° -W	十字形	0.16	1.50×1.20	凹凸	
8	5E15-9	N-O° -W	不整形	0.47	1.86×0.86	丸底	古鏡



1・2: 1号火葬 3: 2号火葬 4・5: 3号火葬 6~8: 5号火葬 9~11: 6号火葬 12~14: 8号火葬

第60図 火葬遺構出土遺物拓影図



第61図 火葬遺構実測図

第6節 溝

溝出土遺物（第62図、図版39）

1～4は、縄文時代早期の撫糸文系土器である。5は表裏面に条痕文が、6は表裏面に擦痕文が施されている。7は口唇部に刻み目を有し、表裏面には擦痕文が施されている。8は表面に条痕文が、裏面に擦痕文が施されている。5～15は縄文時代早期の条痕文系土器である。

18～20は土師器杯で、17・21～23は、土師器壺である。24～26は、磁石である。27は、タタキメ痕を有する須恵器壺である。28～34は、古銭である。35～37は、磁器である。38は龍泉窯系の青磁連弁文碗で、1～5・b類に相当する13世紀の所産である。

第7節 グリッド出土の遺物

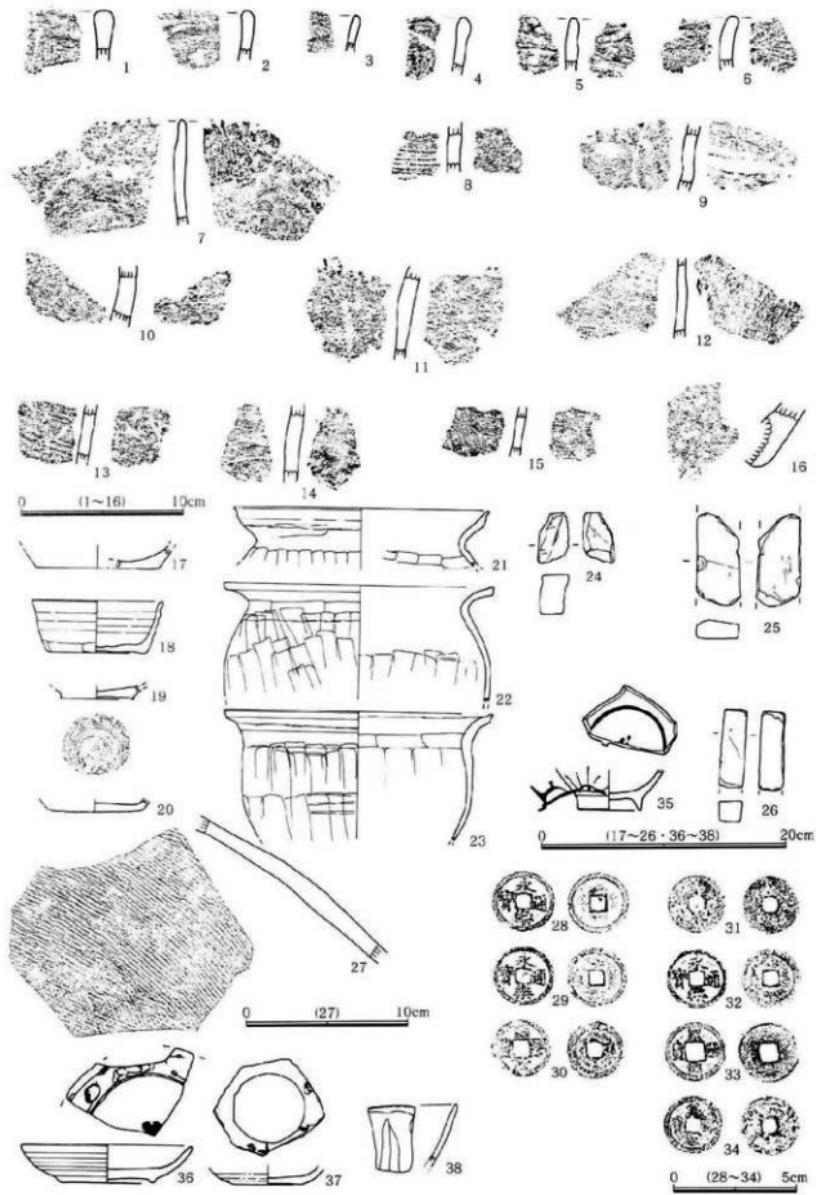
グリッド出土遺物（第63～68図、図版39～42）

1～7は旧石器時代の石器である。

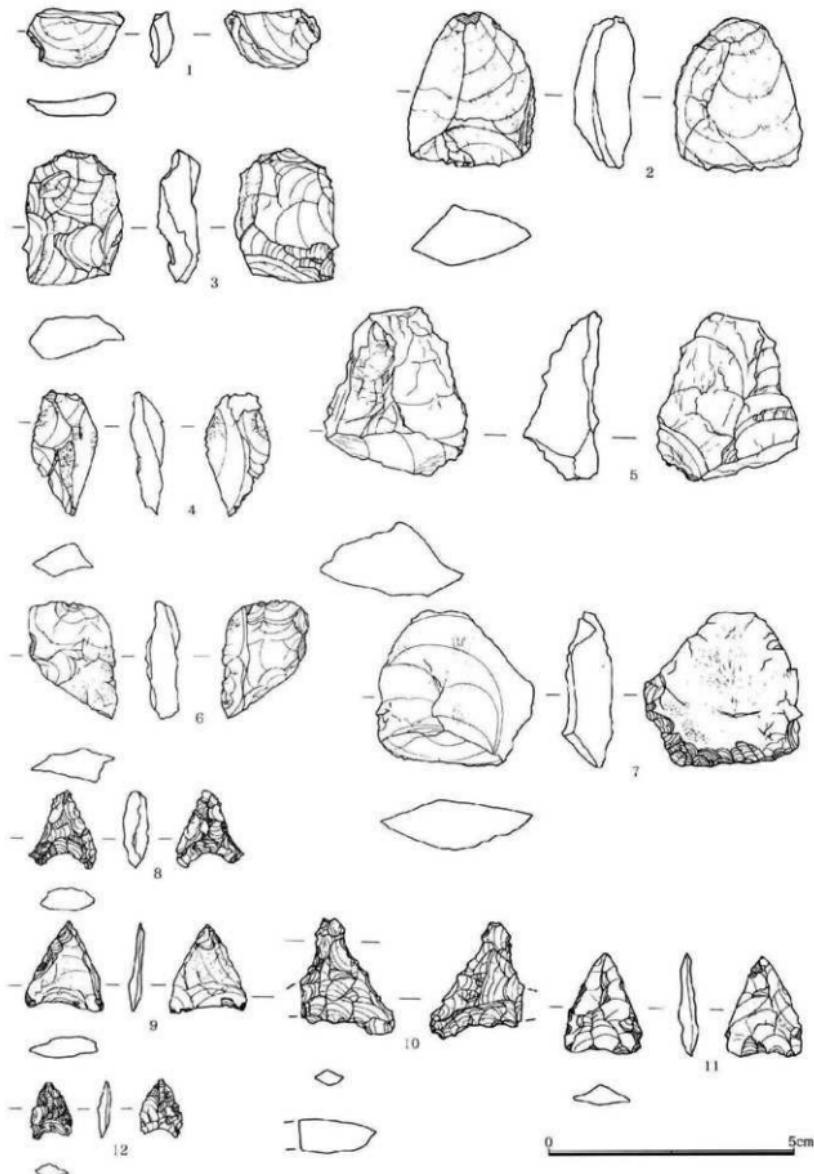
8～12は、縄文時代の石器である。13～27は縄文時代早期の撫糸文系土器で、28～87は縄文時代早期の条痕文系土器である。26・27の撫糸文は、細いタイプのものである。30～33・35は口縁部に連続刺突文が施されている。34・39・40は、口唇部に刻み目が施されている。38・42～50は、擦痕文が施されている。51は口唇部直下に貝殻腹縫文が三列施されている。おそらく、打越式の範疇であろう。52・54・55は、RLの斜縄文が施されている。53は、微隆起線文が施されている。56・57は、表裏面に条痕文が、58～61は表面に条痕文、裏面に擦痕文が施されている。62～82は、表裏面に擦痕文が施されている。83～84は、尖頭の棒状工具で連続刺突文が二列施されている。比較的薄手で、纖維の混入が少ない。85～87は、尖底部の破片である。88は、半截竹管による平行沈縫文が施されている。縄文時代前期後半の諸機b式土器である。89・95は、縄文時代中期の阿玉台II式土器である。96・97は縄文時代中期の加曾利I式土器である。100～101は、縄文時代の漆である。

98・99・102～109は、弥生土器である。107・109は、底面に木葉痕がみられる。108は、複合口縁を有する壺である。

110は、タタキメ痕がある須恵器壺である。111～115・117・119は、土師器である。120・121は鉄製品で、120が刀子である。122～136は、土師器杯である。137～143は、古銭である。144～149は、鉄滓である。150・151は、土師器杯で、底面に墨書がある。152は、焙烙鍋で、胴部表面に線刻が施されている。153は、カワラケである。154は、磁器である。155～157は、磁石である。

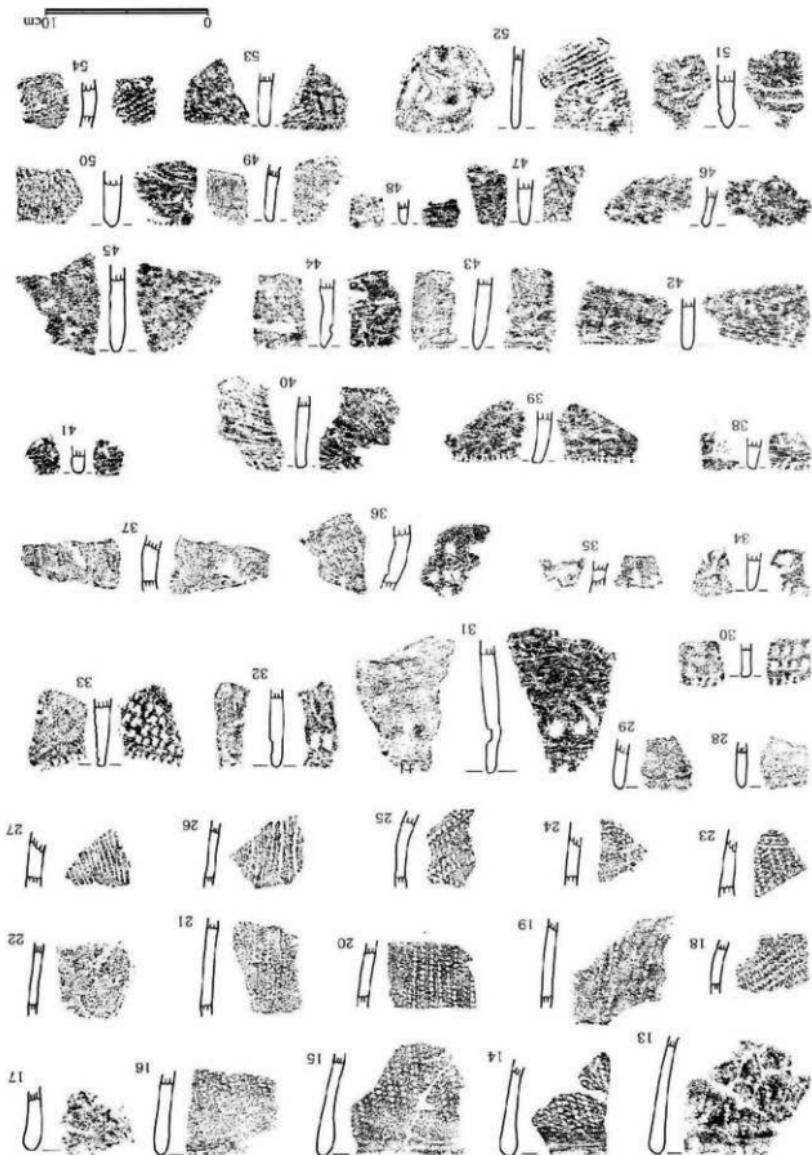


第62図 满出土遺物実測図・拓影図

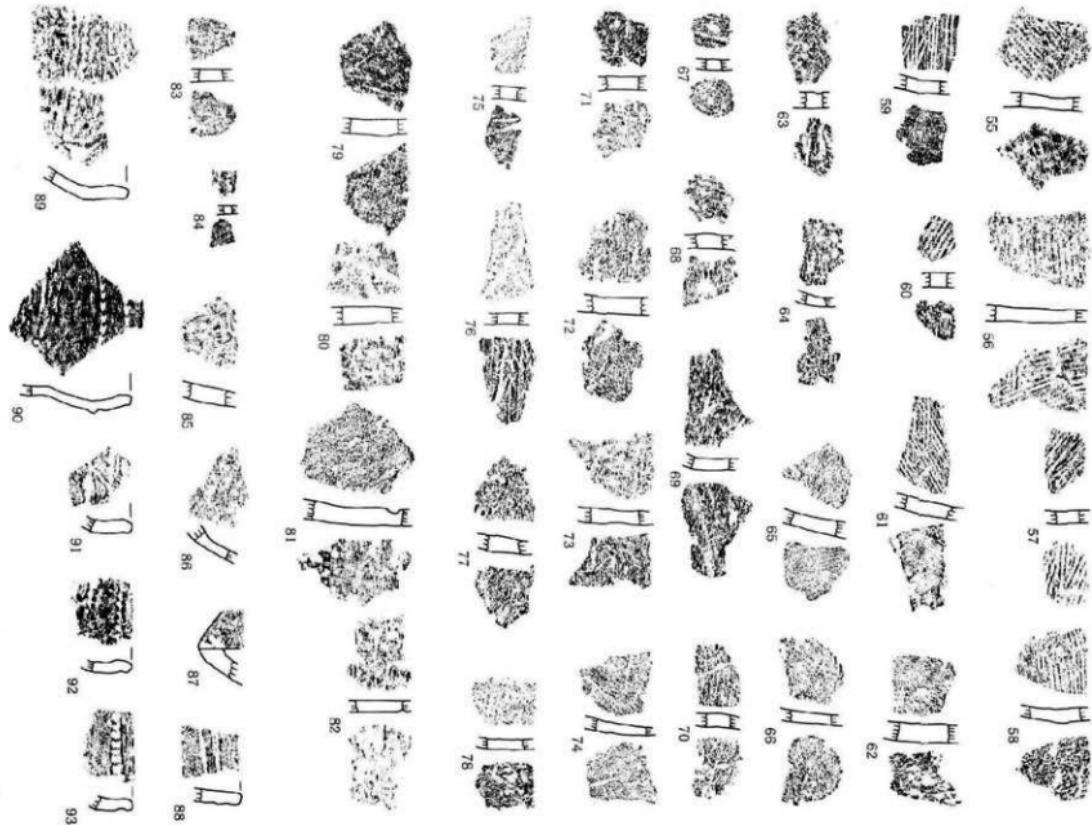


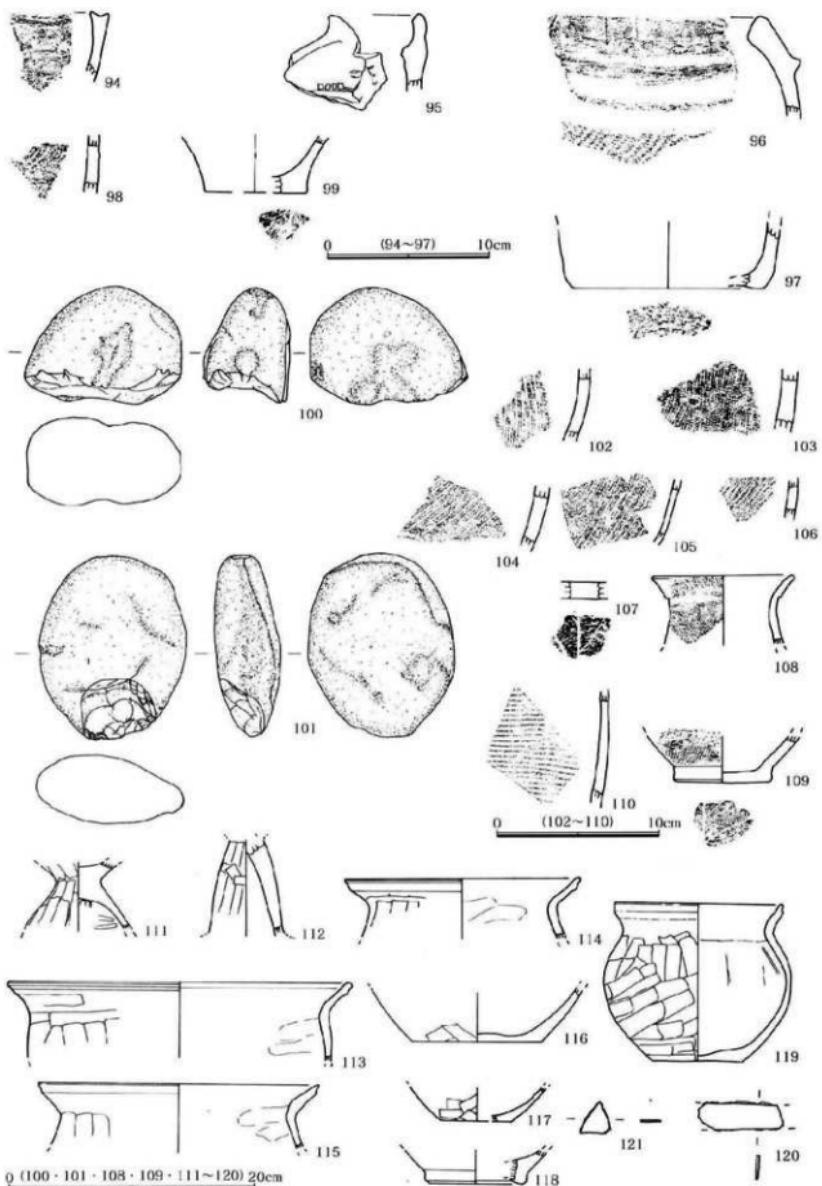
第63図 グリッド出土遺物実測図（1）

图64图 59-77出土遗物拓片图(2)

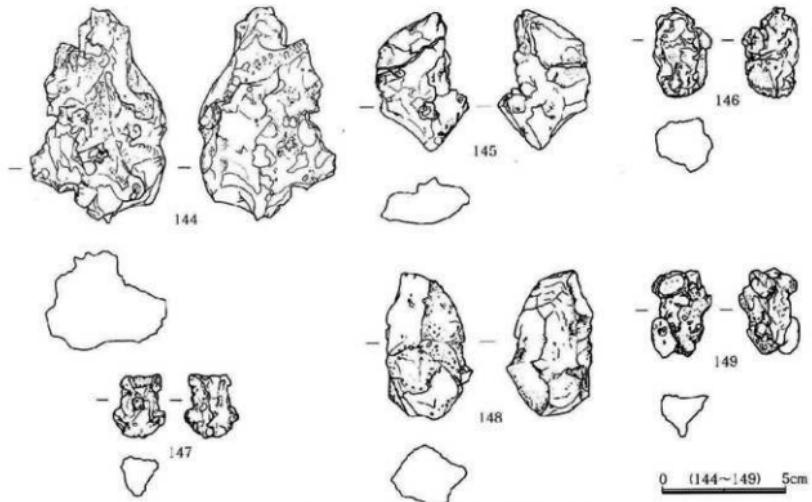
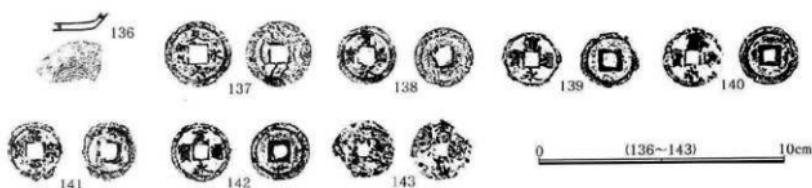
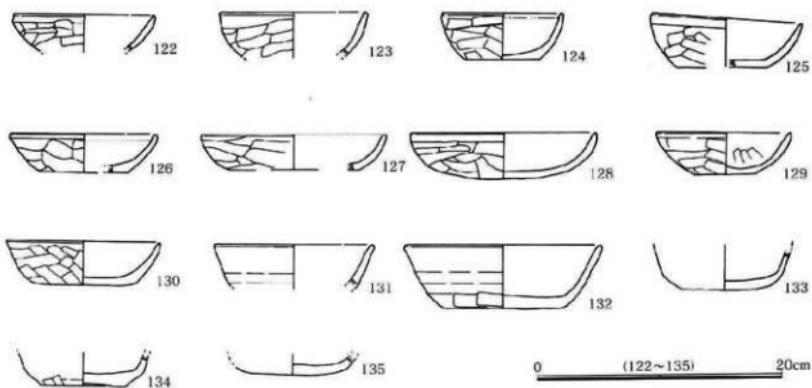


10cm

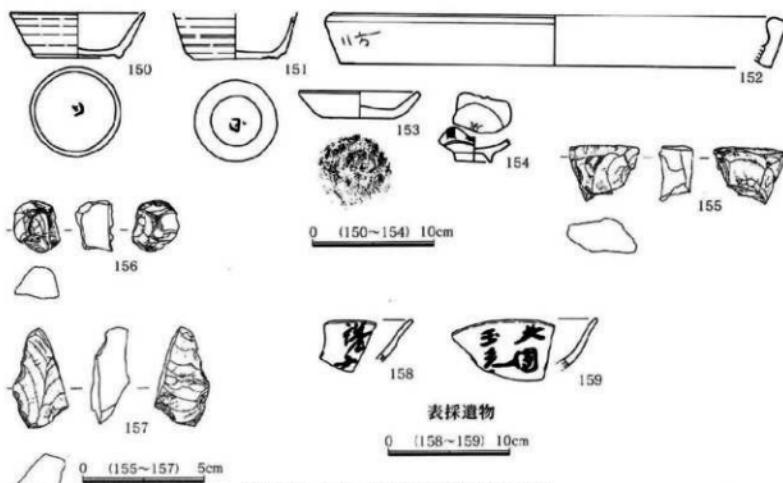




第66図 グリッド出土遺物実測図・拓影図(4)



第67図 グリッド出土遺物実測図・拓影図 (5)



第68図 グリッド出土遺物実測図（6）

第4章 まとめ

本跡は、旧石器時代から近世の遺構・遺物を検出した。旧石器時代では、石器の剝片を2点出土した。縄文時代では、早期の炉穴と陶穴を検出した。炉穴は、5E14グリッドに数多く集中していた。炉穴は36基確認でき、重複するものと単独のものとがあった。規模は、平均すると $0.69m \times 0.49m$ を計測する。また、長軸方向がN-66°-WからN-41°-Eの範囲内にある。10号・21号・26号・29号炉穴から条痕文系土器が出土した。

陶穴は、台地平坦面から斜面部にかけて分布している。形態は、平面形態が長楕円形で底部がオーバーハングするもの（Aタイプ）、平面形態が長方形で開口部が広いもの（Bタイプ）、平面形態が長方形で底部が袋状に広がるもの（Cタイプ）、平面形態が長方形で底部が細長くオーバーハングするもの（Dタイプ）に分類することができる。Aタイプは4号～9号陶穴、Bタイプは2号・3号・11号陶穴、Cタイプは10号陶穴、Dタイプは1号陶穴が該当する。およそ半数の陶穴がAタイプで占められている。規模は、平均すると上面が $2.41m \times 0.69m$ 、下面が $2.57m \times 0.26m$ 、深さが $1.44m$ を計測する。1号陶穴から墨系文系土器を、2号陶穴から条痕文系土器を出土した。

弥生時代では、2軒の竪穴住居跡を検出した。5E14-18グリッドに2号住居跡、5E15-11グリッドに9号住居跡が位置する。直線距離にして約30mの距離がある。規模、主軸方向とも同じで、恐らく同一集団であろう。各住居がほぼ同一時期に存在し、互いに構築場所を考慮しているのではなかろうか。

古墳時代では、竪穴住居跡3軒、古墳5基、土壙墓47基、粘土探査坑2基を検出した。竪穴住居跡の時期は4号住居跡が前期、5号住居跡が中期で、3号住居跡は時期不明である。古墳は、円墳2基、方墳2基、形態不明（埋葬施設のみ1基）の古墳5基を検出した。すべての古墳は埴輪が削平されており、埋葬施設は5基とも搅乱を受けていた。1号、3号～5号古墳の埋葬施設は地山を掘り込んで構築した箱式石棺で、2号古墳の埋葬施設は横穴式石室である。石棺材は全て筑波系の雲母片岩で構築されており、埋葬施設の主軸方向はN-16°-WからN-40°-Wの範囲に納まる。中でも、3号は、4号古墳の主軸方向がほぼ同一方向を指してお

り、築造時期は同一と思われる。副葬品に関しては、1号古墳から刀子、2号古墳から鉄鏃、刀子、3号古墳から直刀、鉗、銅芯金貼り銀付足金具を出土した。

土壙墓は、2号・11号・18号・24号・43号を除く47基が古墳時代のものである。その殆どが台地の東側縁辺と2基の方墳の周辺に群をなして占地している。土壙墓は、A類～D類の4形態に分類できる。

A類・底部の左右どちらかを横穴状に掘り込んだもので、所謂地下式土壙墓、有天井土壙墓といわれている。

B類・A類に近いが埋納部を横穴状に掘り込まれていないもの。

C類・底面に凹凸が少なく、壁の立ち上がりが垂直又は外傾するもの。

D類その他。

古墳時代の土壙墓を4形態に分類してみたが、B類に限っては横穴状の埋納部の天井が崩落した可能性があるので、A類に含めてよいかもしれない。したがってA類とB類を合わせると約90%を占めることになる。時期は、方墳との関係から7世紀頃と考えられる。

粘土探査坑は2基検出した。1号粘土探査坑は北側の斜面に位置し、3基の探査坑が東西に連なっている。時期は不明である。2号粘土探査坑は、西側の斜面に位置し、標高34mの等高線に沿うように数多くの探査坑が連なっている。探査痕を見ると、一気に大量の粘土を採取せず、その都度、良質の粘土を採取していくものと思われる。時期は7世紀以後であろう。

中世では、土壙墓3基、火葬遺構8基、粘土貼り土坑3基を検出した。2号土壙墓は、5E36-2グリッドに位置する。健石、健金、古錢がセットで出土したことから、塚と何らかの関係があるのであろう。18号土壙墓は5E24-20グリッドに位置し、古錢、刀子、齒、人骨が出土した。43号土壙墓は、5E15-14グリッドに位置し、鉄鏃、カワラケ、刀子、鉄釘、人骨が出土した。人骨は頭部に鉄鏃を被せた状態で出土しており、被葬者は恐らく流行病で亡くなったのであろう。(人骨の劣化のため、病変の異常は確認できなかつた)

火葬遺構は台地の北側に分布し、西～東北方向へと連なっている。形態から十字形が1号、3号、5号、7号火葬遺構の4基。不整楕円形が6号、8号火葬遺構の2基、T字形4号火葬遺構の1基、長楕円形が2号火葬遺構の1基に区分できる。遺物は、1号火葬遺構から北宋乾祐の熙寧元寶、5号、6号、8号火葬遺構から寛永通寶(古寛永)を出土した。

粘土貼り土坑は、台地中央部斜面のテラス部に構築されている。また、周辺に多数のピットが分布していることから、恐らく粘土貼り土坑の上に簡単な構造物があつたものと推測される。

土坑は全域に分布しているが、主に台地斜面部に比較的多い。形態別に見ると、不整楕円形が10基、円形が11基、楕円形が16基、長方形が20基、正方形が3基、不定形が2基に区分できる。土坑の用途は不明であるが、群を構成していることを考慮すれば墓の可能性もある。

溝は土坑同様に全域に分布している。51条検出し、近世のものが多い。

43号土塙墓出土人骨について 国立歴史民俗博物館教授 西本豊弘

43号土塙墓から出土した人骨は、頭部に鉄鍋を被せられていた人骨である。頭蓋骨が残っており、骨質の保存状態は悪く、頭蓋骨は土圧を受けてかなり歪んでいた。顎の部分の保存も良くないが、頬骨は強く張り出しており、丸顔の人であったと推測される。

上顎と下顎の歯も消滅しているものが多かったが、残っている歯の磨耗は著しく、老年と思われる。上顎の第3後臼歯の備槽が見られたことから、下顎の第3臼歯は崩していたが、下顎の第3臼歯の備槽が見られなかつたことから、下顎の第3臼歯は未崩出であったかもしれない。下顎の骨体は厚く、中世以降の新しい時期であろう。寛骨（骨盤）の大座骨切痕の角度が小さいことから男性である。肩甲骨や四肢骨の稜が明瞭であり、逞しい男性であったと思われる。骨の表面の保存状態が悪いため、病気による骨異常は観察出来なかった。

第6表 溝計測表（第3図、図版38）単位m

遺構番号	位置 (グリッド)	長さ	上面幅	下面幅	深さ	方向	断面形態	出土遺物	重複関係
1	5E36-22~5E36-14	34.0	0.7~2.0	0.3~0.9	—	北東	U字形		
2	5E36-12	4.8	0.4~0.6	0.3~0.4	—	北西	皿状		
3	5E36-12~5E36-11	3.6	1.2~1.9	0.8~1.1	—	北西	皿状		
4	5E36-12	8.5	0.4~1.1	0.3~0.7	—	西	皿状		
5	5E35-15	11.0	0.3~0.4	0.2	—	南東	皿状		
6	5E35-14~5E35-10	17.8	0.4~0.8	0.1~0.4	—	北東	皿状		
7	5E35-10~5E25-25	25.3	0.4~1.1	0.2~0.5	—	北西	皿状		
8	5E36-3~5E36-1	20.4	0.8~1.4	0.3~0.5	—	北西	逆台形		
9	5E25-24~5E25-25	12.4	0.7~1.4	0.5~1.0	—	東	逆台形	磁器	
10	5E25-20~5E26-16	7.8	0.4~1.8	0.2~0.7	—	東	逆台形	砥石	
11	5E25-16~5E26-20	9.6	0.3~1.5	0.2~1.1	—	西	皿状		13号溝
12	5E26-18~5E26-17	15.2	0.3~1.6	0.1~1.1	—	西	皿状	青銅鏡蓮弁文鏡 砥石	
13	5E26-21~5E26-18	18.8	0.6~5.7	0.4~4.3	—	東	V字形		11号溝
14	5E35-8~5E25-12	43.2	2.0~4.2	—	0.20~0.75	北西	U字形		18号溝
15	5E35-12~5E24-20	58.8	0.5~1.7	0.2~0.6	0.25~0.36	北西	U字形		
16	5E35-1	3.1	0.34~0.54	0.06~0.08	0.07~0.13	東	U字形		
17	5E25-21	7.6	0.7~1.5	0.2~1.0	0.02~0.14	東	U字形		
18	5E25-18	8.6	1.6~3.0	0.32~1.04	0.25~0.80	北東	皿状		14号溝
19	5E25-19~5E25-8	16.8	0.7~1.5	0.5~1.2	—	北	皿状		
20	5E25-8	6.8	1.2~1.6	0.6~1.0	—	北	皿状	土師器壺	
21	5E25-15~5E25-10	6.6	1.0~1.7	0.7~1.4	—	北	U字形		

遺構番号	位置(グリッド)	長さ	上面幅	下面幅	深さ	方向	断面形態	出土遺物	重複関係
22	SE25-10~5E25-4	14.8	1.2~1.4	0.40~0.60	—	北	U字形	砥石	23号溝
23	5E25-10~5E25-4	8.6	0.8~1.0	—	—	北	皿状		22号溝
24	5E26-3~5E26-2	12.1	0.68~1.84	0.18~0.86	—	西	皿状	須恵器	
25	5E24-19~5E24-15	7.4	0.60~2.12	0.2~0.4	0.26~0.80	東	U字形	土師器壺	
26	5E24-15	7.2	0.6~1.08	0.16~0.34	0.03~0.44	東	U字形		27号溝
27	5E24-15~5E25-14 5E25-10	17.2	0.58~1.30	0.12~0.52	0.06~0.25	北西	U字形		26号溝
28	5E24-10~5E17-18	151.6	2.1~8.2	—	0.46~0.76	北東	逆台形	圓文土器(早期・土 師器壺)・古鏡	29, 36, 38, 42, 45号溝
29	5E24-10~5E24-8	18.4	0.60~1.70	—	0.08~0.16	北西	U字形	圓文土器(早期)	28号溝
30	5E14-24~5E14-15	25.0	0.86~1.08	0.16~0.50	0.01~0.23	北東	皿状		31号溝
31	5E14-25~5E14-19	15.0	0.38~1.10	0.14~0.48	0.02~0.24	北西	U字形		30号溝
32	5E14-15~5E4-24	29.6	0.48~1.12	0.18~0.44	0.06~0.32	北西	U字形	圓文土器(早期)	
33	5E14-8~5E14-3	8.8	0.74~2.04	—	0.45~1.24	北東	逆台形		
34	5E14-25~5E14-15	24.6	0.38~1.12	—	0.01~0.25	北東	逆台形		
35	5E15-21~5E14-20	10.8	0.3~1.1	—	0.01~0.22	北西	U字形	土師器	37号溝
36	5E24-10~5E15-22	22.2	1.4~2.6	0.2~1.0	0.01~0.43	北東	逆台形		28号溝
37	5E15-21~5E15-6	33.8	0.68~2.71	0.02~0.88	0.01~0.32	北	皿状		35号溝
38	5E15-22~5E15-17	17.0	0.06~1.42	0.28~0.50	0.01~0.15	北西	U字形		28号, 39号溝
39	5E15-11~5E15-1	15.0	0.30~0.92	0.08~0.22	0.02~0.09	北	U字形		38号溝
40	5E15-22~5E16-6	66.4	0.80~1.90	—	0.05~0.22	北東	U字形		42号溝
41	5E15-2~5E15-4	66.4	0.44~1.40	0.16~0.38	0.03~0.16	東	U字形		
42	5E16-11~5E5-25	28.6	0.72~2.82	—	0.14~0.23	北	U字形		28, 40, 50, 51号溝
43	5E6-17	2.6	0.8~1.6	0.4~1.0	0.04~0.08	北東	皿状		44号溝
44	5E6-22~5E6-17	7.4	0.60~2.10	0.40~1.32	0.03~0.22	北	皿状		43号溝
45	5E16-11~5E16-7	13.8	1.86~2.31	0.64~0.94	0.10~0.32	北東	U字形		28, 50号溝
46	5E16-8~5E17-1	26.2	0.04~0.96	0.16~0.46	0.10~0.34	北東	U字形		
47	5E6-24~5E7-20	15.6	0.56~4.32	0.2~0.82	0.01~0.42	北東	V字形	ウマの骨	48号溝
48	5E16-5~5E6-19	19.2	0.58~1.00	0.61~0.30	0.06~0.46	北	V字形		47号溝
49	5E24-5~5E24-4	15.2	1.08~2.20	0.22~0.76	0.03~0.24	西	V字形		
50	5E16-11~5E16-13	26.0	0.32~0.98	0.10~0.38	0.01~0.39	東	V字形		42, 45号溝
51	5E16-1~5E6-22	12.8	1.4~2.8	0.4~0.8	0.02~0.15	北東	V字形		42号溝

第7表 古銭観察表 (第41、49、60、62、67図、図版21、32、39、42)

遺物番号	遺構番号 (グリッド)	銭名	鋳造地	鋳造年代 (西暦)	外径 (mm)	内径 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
1	1号火葬遺構	熙寧元寶	北宋	1068	—	—	—	14.9	4枚重なっている
2	1号火葬遺構	元祐通寶	北宋	1068	25.5	20.0	2.0	4.2	
3	2号火葬遺構	判読不明	—	—	—	—	—	18.0	6枚重なっている
4	3号火葬遺構	判読不明	—	—	—	19.5	—	3.6	2枚重なっている
5	3号火葬遺構	判読不明	—	—	—	19.5	—	3.5	2枚重なっている
6	5号火葬遺構	寛永通寶	日本	1636~1659	—	19.5	—	14.6	4枚重なっている
7	5号火葬遺構	寛永通寶	日本	1636~1659	—	19.0	—	—	半分破損
8	5号火葬遺構	寛永通寶	日本	1636~1659	24.0	19.0	1.5	3.3	
9	6号火葬遺構	寛永通寶	日本	1636~1659	—	18.5	—	13.7	4枚重なっている
10	6号火葬遺構	寛永通寶	日本	1636~1659	23.5	18.5	1.5	3.2	
11	6号火葬遺構	寛永通寶	日本	1636~1659	23.5	18.0	1.5	3.2	
12	8号火葬遺構	寛永通寶	日本	1636~1659	—	—	—	17.2	5枚重なっている
13	8号火葬遺構	寛永通寶	日本	1636~1659	25.0	19.0	1.5	4.0	
14	8号火葬遺構	判読不明	—	—	25.0	18.5	1.5	2.1	
4	2号土壤墓	元豐通寶	北宋	1078	23.0	17.5	1.5	2.7	
5	2号土壤墓	天聖元寶	北宋	1023	24.0	20.0	1.5	3.7	
6	2号土壤墓	判読不明	—	—	22.0	19.0	1.5	2.5	
7	2号土壤墓	元豐通寶	北宋	1078	23.0	17.5	1.5	3.0	
8	2号土壤墓	元豐通寶	北宋	1078	23.0	17.5	1.5	2.8	
15	18号土壤墓	熙寧元寶	北宋	1068	24.5	19.0	1.5	3.7	
16	18号土壤墓	永樂通寶	明	1408	25.5	20.0	1.2	3.5	
17	18号土壤墓	祥符元寶	北宋	1009	25.0	18.0	1.5	3.1	
18	18号土壤墓	嘉祐元寶	北宋	1056	23.0	18.5	1.5	2.7	
19	18号土壤墓	判読不明	—	—	24.0	19.0	1.5	2.9	
20	18号土壤墓	開元通寶	唐	621	25.0	20.0	1.2	2.5	
28	28号溝	永業通寶	明	1408	24.5	20.0	1.5	3.4	
29	28号溝	永業通寶	明	1408	24.5	20.0	1.5	3.4	
30	28号溝	治平元寶	北宋	1064	24.0	19.5	1.5	2.1	一部欠損
31	28号溝	無文銭	—	—	23.5	—	1.0	2.7	
32	28号溝	永業通寶	明	1408	24.5	20.0	1.5	2.3	
33	28号溝	判読不明	—	—	24.5	19.5	1.5	2.7	
34	28号溝	判読不明	—	—	24.0	18.5	1.5	3.2	
137	5E35-2	文久永寶	日本	1863~1865	27.0	20.5	1.6	3.7	
138	5E24-15	寛永通寶	日本	1697~1747 1767~1781	24.5	18.5	1.5	2.0	新寛永
139	5E36-9	寛永通寶	日本	1636~1659	23.5	20.0	1.5	2.8	古寛永
140	表面採取	熙寧元寶	北宋	1068	24.5	20.0	1.5	1.8	一部欠損
141	5E15-11	寛永通寶	日本	1636~1659	24.0	18.5	1.5	1.9	古寛永
142	表面採取	寛永通寶	日本	1636~1659	24.5	19.5	2.0	3.0	古寛永
143	表面採取	判読不明	—	—	24.0	—	2.1	3.4	一部欠損

第8表 土器観察表(第13~20,34,39,49,50,59,62,66~68図、図版14,15,21,32,37,39,41,42)

遺物番号	遺構番号	器種	計測値(cm)・()推定値	成形の特徴	胎土色調	備考
1	1号住居跡	甕	口径(16.5)、現高9.2 肩部最大径(17.0)	口縁部はヨコナデ。底部は縦位にへラ削り。底は縦横にへラ削り。	長石・砂粒 暗褐色	
2	1号住居跡	甕	底径(9.0)、現高19.0、 肩部最大径19.6	底部は縦横にへラ削り。	砂粒 黒色	
3	1号住居跡	壺	口径14.6、底径7.1、器高4.3	クロロ整形。底部は静止系切り後、未調整。	砂粒・石英 黒色	
4	1号住居跡	壺	口径13.2、底径6.2、器高4.4	口縁部は横ナデ。体部は横位にへラ削り。	砂粒・石英 暗褐色	
5	1号住居跡	壺	口径(13.4)、底径(5.4)、器高4.3	クロロ整形。底部は回転へラ削り。	砂粒・石英 黒色	
6	1号住居跡	壺	口径12.0、底径6.2、器高4.6	口縁部はヨコナデ。体部は横位にへラ削り。	砂粒・石英 黒色	
7	1号住居跡	壺	口径12.6、底径6.2、器高4.1	クロロ整形。底部は静止系切り後、周辺部は手持ちへラ削り。	砂粒・石英 暗褐色	
8	1号住居跡	壺	口径11.1、底径5.5、器高4.6	クロロ整形。底部は静止系切り後、周辺部は手持ちへラ削り。	砂粒・長石・石英 暗褐色	
9	1号住居跡	壺	口径12.0、底径6.5、器高3.7	クロロ整形。底部は静止系切り後、未調整。	砂粒・長石・石英 明褐色	
10	1号住居跡	壺	口径11.8、底径7.0、器高4.1	クロロ整形。底部は回転へラ削り。底辺部は手持ちへラ削り。	砂粒・石英 黒色	
11	1号住居跡	甕	口径12.2、底径6.0、器高12.2、 肩部最大径13.5	口縁部はヨコナデ。底部は縦位にへラ削り。	砂粒・石英・昆石 暗褐色	
12	1号住居跡	甕	口径10.8、底径6.4、器高8.5、 肩部最大径11.2	口縁部はヨコナデ。底部は縦横にへラ削り。	砂粒・石英・長石 黄褐色	
13	1号住居跡	高台付壺	口径(13.5)、底径7.5、器高3.5、 台高2.4、台高1.2	クロロ整形。底部は回転系切り。	砂粒・石英 黒色	内部黑色処理
14	1号住居跡	高台付壺	口径14.3、底径7.6、器高4.3、 台高1.1、台高1.7	クロロ整形。高台はナデによる調整。	砂粒・石英 黒色	内部黑色処理
15	1号住居跡	壺	口径(13.6)、底径7.2、器高4.0	クロロ整形。底部は静止系切り後、周辺部は手持ちへラ削り。	砂粒・石英 明褐色	
16	1号住居跡	壺	口径12.4、底径6.0、器高4.2	クロロ整形。底部は静止系切り後、全面手持ちへラ削り。	砂粒・石英 暗褐色	
17	1号住居跡	壺	口径(13.0)、底径(5.6)、器高4.3	クロロ整形。底部は静止系切り後、全面手持ちへラ削り。	砂粒・石英 明褐色	
18	1号住居跡	壺	口径12.4、底径6.0、器高3.6	クロロ整形。底部は静止系切り後、全面手持ちへラ削り。	砂粒・長石・石英 明褐色	
19	1号住居跡	壺	口径(11.5)、底径7.0、器高4.9	クロロ整形。底部は静止系切り後、未調整。	砂粒 明褐色	
20	1号住居跡	壺	口径12.2、底径5.9、器高4.0	クロロ整形。底部は静止系切り後、周辺部は手持ちへラ削り。	砂粒・石英 暗褐色	
21	1号住居跡	壺	口径(13.0)、底径5.7、器高3.5	クロロ整形。底部は静止系切り後、周辺部は回転へラ削り。	砂粒・石英 乳褐色	
22	1号住居跡	壺	口径(12.4)、底径5.8、器高4.1	クロロ整形。底部は静止系切り後、周辺部は手持ちへラ削り。	砂粒・長石・石英 暗褐色	
23	1号住居跡	壺	口径12.2、底径5.2、器高4.3	クロロ整形。底部は回転系切り後、周辺部下端は手持ちへラ削り。	砂粒 暗褐色	
24	1号住居跡	壺	口径(11.6)、底径7.2、器高32.5	クロロ整形。底部は静止系切り。	砂粒・長石 暗褐色	
1	4号住居跡	甕	口径(14.7)、現高3.3	口縁部はヨコナデ。	砂粒・石英 暗褐色	
1	5号住居跡	壺	口径12.9、底径3.7、器高9.5	底位はヘラミガキ。	砂粒・石英 赤褐色	赤彩
2	5号住居跡	器台	口径6.2、底径9.3、器高7.0	底位にヘラ削り後、ミガキ。	砂粒・石英 淡褐色	透かし孔36個 有り
4	5号住居跡	高杯	現高2.6	底位にミガキ。	砂粒・石英 暗褐色	透かし孔3か所 有り
5	5号住居跡	土鍋	径(2.4)、長さ2.8		砂粒・石英 暗褐色	
1	6号住居跡	甕	口径(27.1)、底径(10.2)、器高(24.5)	肩部上部は縦位にへラ削り。	砂粒・石英 暗褐色	
1	7号住居跡	壺	口径(15.6)、底径(10.6)、器高5.0	クロロ整形。底部は静止系切り後、全面手持ちへラ削り。	砂粒・石英 暗褐色	
4	8号住居跡	甕	口径(21.2)、現高6.5	口縁部はヨコナデ。底部は縦位にへラ削り。	砂粒・石英 暗褐色	

遺物番号	遺構番号	器種	計測値(cm)・()推定値	成形の特徴	胎土色調	備考
5	8号住居跡	壺	口径13.2、底径4.7、器高3.7	ロクロ整形。底部は静止糸切り後、全面手持ちへラ削り。	砂粒・石英 黄褐色	
6	8号住居跡	壺	口径14.0、底径6.7、器高4.6	ロクロ整形。底部は静止糸切り後、全面手持ちへラ削り。	砂粒・石英 黄褐色	
7	8号住居跡	壺	口径11.6、底径7.2、器高3.5	ロクロ整形。底部は静止糸切り後、周辺部は回転へラ削り。	砂粒・石英 黄褐色	
8	8号住居跡	壺	口径(11.0)、底径6.2、器高3.6	ロクロ整形。底部は静止糸切り後、未調査。	砂粒・石英 黄褐色	
9	8号住居跡	壺	口径(11.6)、底径(7.2)、器高3.8	ロクロ整形。底部は静止糸切り後、未調査。	砂粒・石英 黄褐色	
10	8号住居跡	壺	底径(7.8)、現高2.2	ロクロ整形。底部は静止糸切り後、未調査。	砂粒・石英 黄褐色	
11	8号住居跡	壺	口径11.7、底径6.2、器高3.6	ロクロ整形。底部は静止糸切り後、未調査。	砂粒・石英 黄褐色	
12	8号住居跡	甕	底径(8.0)、現高7.5	側面は横位にへラ削り。底部はへラ削り。	砂粒・石英 黄褐色	
13	8号住居跡	甕	口径(12.0)、底径(4.4)、現高10.9	口縁部はヨコナデ。側面外縁は縦位にへラ削り。底部はへラ切り。	砂粒・石英 黄褐色	
14	8号住居跡	甕	底径(6.4)、器高7.8	側面外縁は横位にへラ削り。底部はへラ切り。	砂粒・石英 黄褐色	
1	塚	壺	底径6.0、現高1.7	ロクロ整形。底部は回転糸切り。	砂粒・石英 黄褐色	
7	24号土壤墓	甕	口径(12.6)、現高7.0、 胴部最大径(12.5)	口縁部はヨコナデ。側面は縦位にへラ削り。	砂粒・石英 黄褐色	
8	24号土壤墓	甕	口径10.0、底径4.7、器高8.9、 胴部最大径9.7	口縁部はヨコナデ。側面は縦位にへラ削り。底部はへラ切り。	砂粒・石英 黄褐色	
9	30号土壤墓	壺	口径12.0、底径7.4、器高3.6	全体的に風化している為、不明瞭。	砂粒・石英 黄褐色	
10	43号土壤墓	カワラケ	口径9.7、底径6.8、器高1.6	ロクロ整形。底部は回転糸切り後、周辺部は回転へラ削り。	砂粒・石英 黄褐色	縫明脈
2	2号粘土探査坑	壺	口径13.8、底径10.0、器高3.8	体厚は横位にへラ削り。	砂粒・石英 黄褐色	縫明脈有り
11	1号土坑	壺	口径(13.0)、底径(6.6)、器高4.6	ロクロ整形。底部は回転糸切り。	砂粒・石英 黄褐色	
12	1号土坑	高台	台径(6.7)、現高1.9	ロクロ整形。	砂粒・石英 黄褐色	
13	1号土坑	高台	台径(7.1)、現高1.8	ロクロ整形。底部は回転糸切り。	砂粒・石英 黄褐色	
14	1号土坑	高台	台径(7.1)、現高1.8	ロクロ整形。	砂粒・石英 黄褐色	
15	1号土坑	壺	底径6.0、現高1.7	ロクロ整形。底部は静止糸切り後、全面手持ちへラ削り。	砂粒・石英 黄褐色	
16	1号土坑	須恵器大甕	口径(36.5)、現高18.8		白色粒子・明灰 色	
14	11号土坑	甕	口径(18.0)、現高2.9		砂粒・石英 黄褐色	
15	37号土坑	焰烙鍋	口径(21.9)、底径(18.0)、器高3.5	ロクロ整形。	砂粒・石英 黄褐色	
17	35号溝	壺	底径(10.0)、現高1.9	風化のため不鮮明。	砂粒・石英 黄褐色	
18	35号溝	壺	口径(10.6)、底径8.0、器高4.3	ロクロ整形。底部は回転糸切り後、周辺部は手持ちへラ削り。	砂粒・石英 黄褐色	
19	35号溝	壺	底径(6.0)、現高1.1、	ロクロ整形。底部は回転糸切り。	砂粒・石英 黄褐色	
20	24号溝	壺	底径7.6、現高1.1	ロクロ整形。底部は静止糸切り。	砂粒・石英 黄褐色	
21	20号溝	甕	口径(20.6)、現高4.6	口縁部はヨコナデ。側面は縦位にへラ削り。	砂粒・石英 黄褐色	
22	20号溝	甕	口径(22.0)、現高9.5、 胴部最大径(21.7)	口縁部はヨコナデ。側面は縦位にへラ削り。	砂粒・石英 黄褐色	
23	20号溝	甕	口径(22.0)、現高10.5、 胴部最大径(18.8)	口縁部はヨコナデ。側面は縦位にへラ削り。	砂粒・石英 黄褐色	
35	9号溝	碗	現高5.5、底径(3.4)、 台径5.2、台高1.2			染付け
36	12号溝	皿	口径(13.8)、底径(6.1)、現高3.0、 台径(7.4)、台高0.6			染付け

遺物番号	遺構番号	器種	計測値(cm)・()推定値	成形の特徴	胎土色調	備考
37	28号溝	壺	器高5.6、現高1.5	ロクロ型形。底部はヘラ削り。	砂粒・石英 明褐色	土師器(墨書)
108	5E14-18	弥生土器壺	口径(11.8)、現高5.7		砂粒・石英 暗褐色	複合口縁
109	5E14-18	弥生土器壺	底径(8.0)、現高3.8		砂粒・石英 暗褐色	木葉痕有り
111	5E14-16	高杯	現高5.6	裏位にヘラミガキ。	砂粒・石英 赤褐色	
112	5E14-8	高杯	現高8.0	裏位にヘラミガキ。	砂粒・石英 淡褐色	
113	5E15-24	甕	口径(28.0)、現高5.7	口縁部はヨコナデ。腹部は裏位にヘラ削り。	砂粒・石英 茶褐色	
114	5E14-8	甕	口径(19.2)、現高4.9	口縁部はヨコナデ。腹部は裏位にヘラ削り。	砂粒・石英 褐色	
115	5E25-9	甕	口径(22.8)、現高5.1	口縁部はヨコナデ。腹部は裏位にヘラ削り。	砂粒・石英 褐色	
116	5E14-18	甕	底径(10.4)、現高4.2	底部はヘラ削り。側部は斜位にヘラ削り。	砂粒・石英 褐色	
117	5E24-19	甕	底径(5.4)、現高2.7	底部はヘラ削り。側部は斜位にヘラ削り。	砂粒・石英 褐色	
119	5E35-13	甕	口径(13.8)、底径7.1、器高13.0、胸部最大径15.2	口縁部はヨコナデ。底部はヘラ切り。	砂粒・石英 褐色	
122	5E15-24	壺	口径(11.0)	口縁部はヨコナデ。	砂粒・石英 明褐色	
123	5E15-10	壺	口径(12.0)、現高3.6	口縁部はヨコナデ。	砂粒・石英 明褐色	
124	5E14-18	カワラケ	口径9.8、底径6.0、器高2.0	ロクロ型形。底部は静止系切り後、周辺部は手持ちヘラ削り。	砂粒・石英 褐色	瘤明顯
125	5E14-8	壺	口径(12.2)、底径(7.1)、現高4.0	ロクロ型形。底部は静止系切り後、周辺部は全周手持ちヘラ削り。	砂粒・石英 茶褐色	
126	5E15-22	壺	口径(11.8)、底径(7.2)、器高3.1	ロクロ型形。底部は静止系切り後、周辺部は全周手持ちヘラ削り。	砂粒・石英 褐色	
127	5E15-24	壺	口径(14.8)、底径(10.6)、現高2.9	体部は全面手持ちヘラ削り。	砂粒 茶褐色	
128	5E14-8	壺	口径(15.0)、器高3.8	体部は全面手持ちヘラ削り。	砂粒・石英 淡褐色	
129	5E14-8	壺	口径(10.8)、底径5.0、器高3.5	ロクロ型形。底部は静止系切り後、周辺部は全面手持ちヘラ削り。	砂粒 茶褐色	瘤明顯
130	5E14-8	壺	口径(12.6)、底径(8.6)、器高3.6	ロクロ型形。底部は静止系切り後、周辺部は全面手持ちヘラ削り。	砂粒・石英 明茶褐色	
131	5E14-8	壺	口径(13.0)、現高3.7	ロクロ型形。体部下端は未調整。	砂粒・石英 赤褐色	
132	5E14-8	壺	口径(16.0)、底径9.8、器高5.2	ロクロ型形。底部は静止系切り後、周辺部は手持ちヘラ削り。	砂粒・石英 赤褐色	赤彩
133	5E14-8	壺	底径7.0、器高3.8	ロクロ型形。底部は回転ヘラ削り。	砂粒・石英 赤褐色	赤彩
134	5E14-8	壺	底径7.0、現高2.6	ロクロ型形。底部は静止系切り後、体部下端は手持ちヘラ削り。	砂粒・石英 褐色	
135	5E14-8	壺	底径8.8、現高1.2	ロクロ型形。底部は回転ヘラ削り。	砂粒・石英 赤褐色	赤彩
136	5E14-10	カワラケ	底径(8.4)、器高(1.3)	ロクロ型形。底部は回転系切り。	砂粒・石英 茶褐色	
150	5E14-8	高台付壺	口径11.0、底径7.4、器高4.7、台径7.5	ロクロ型形。底部は回転ヘラ削り。	砂粒・石英 明褐色	「白」の墨書
151	5E14-8	高台付壺	底径6.8、現高3.8	ロクロ型形。底部は回転ヘラ削り。	砂粒・石英 明褐色	「白」の墨書
152	5E14-15	焰熔繩	口径(37.4)、底径(35.4)、現高4.2	ロクロ型形。	砂粒・石英 暗褐色	織割有り
153	5E14-24	カワラケ	口径5.0、底径3.6、器高1.1	ロクロ型形。底部は回転系切り。	砂粒・石英 明褐色	
154	5E16-17	甕	底径(3.0)、現高2.0			染付け
158	5E15	壺		ロクロ型形。	砂粒・石英 淡褐色	「渡口力」の墨書
159	5E15	壺			砂粒・石英 明褐色	「大國玉章」の墨書

引用・参考文献

- (1) 西山太郎 他「新東京国際空港No.14遺跡」『埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』(財)千葉県文化財センター 1983年
- (2) 田中新史「古墳時代終末期の地域色－東国の地下式系土壙墓を中心として－」『古代探査Ⅱ』 1985年
- (3) 神山崇・福岡元「第1章広之台遺跡の古墳群」「第2章堆の台遺跡の古墳群」「飯塚遺跡群発掘調査報告書第Ⅱ分冊」八日市場市教育委員会 1986年
- (4) 米田耕之助「今富大道遺跡」(財)市原市文化財センター 1988年
- (5) 田島新 他「佐倉市大作遺跡」「佐倉第三工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ」(財)千葉県文化財センター 1990年
- (6) 山口典子 他「佐倉市栗野I・II遺跡」「佐倉第三工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅸ」(財)千葉県文化財センター 1991年
- (7) 小林理恵「小浜遺跡群VI」「表ヶ谷遺跡」(財)君津都市文化財センター 1991年
- (8) 中山英樹「古代東国における墳墓の展開とその背景」『研究紀要第1号』(財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1992年
- (9) 吉原作平「粘土貼土壙についての一考察」『研究ノート3号』(財)茨城県教育財団 1992年
- (10) 石井進 他「帝京大学山梨文化財研究所シンポジウム報告集」「中世社会と墳墓－考古学と中世史研究3－」 1993年
- (11) 渡辺修一「[群小区画墓]の終焉期（3）－古墳と土坑墓－」『研究紀要16』(財)千葉県文化財センター 1995年
- (12) 斎藤弘「地下式壙と葬送儀礼」－栃木県下の事例を中心に－『研究紀要第4号』(財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1996年
- (13) 萩島正広「谷ノ台遺跡発掘調査報告書」(財)君津郡市文化財センター 1998年
- (14) 小坂井孝修 他「多摩ニュータウン遺跡」『No.3 4 4 遺跡』東京都埋蔵文化財センター 1998年
- (15) 菊地吉修「水掛渡古墳群C群（静岡空港C地点）『平成9年度静岡空港県単独整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』」(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所 1998年

写 真 図 版



調査前全景



調査前全景



調査前全景

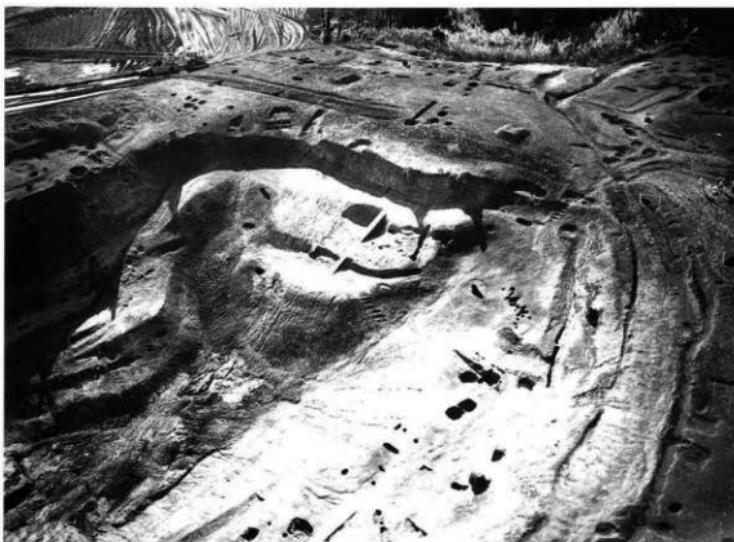


調査後全景



調査後全景

圖版2

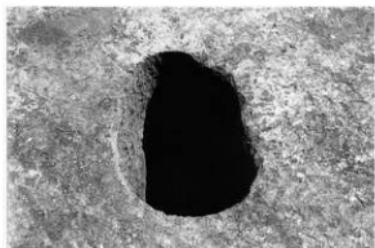


調查後空攝



調查後空攝

图版3



1号陷穴



2号陷穴



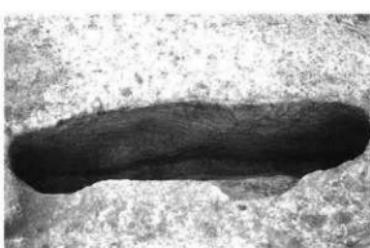
3号陷穴



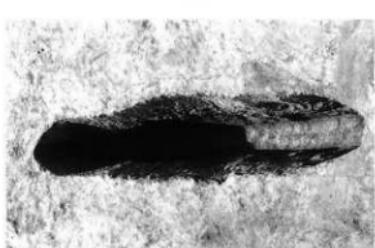
4号陷穴



5号陷穴



6号陷穴



7号陷穴

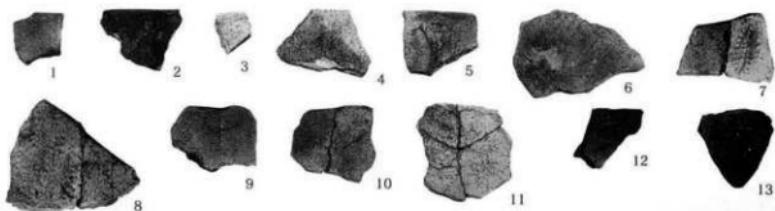


8号陷穴

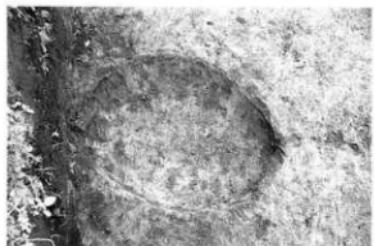
图版4



炉穴出土遗物



陷穴出土遗物



3号炉穴



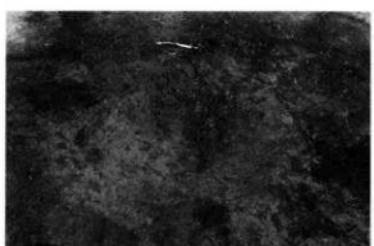
4号、5号炉穴



4号、5号炉穴



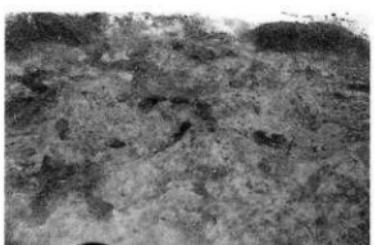
4号、5号炉穴



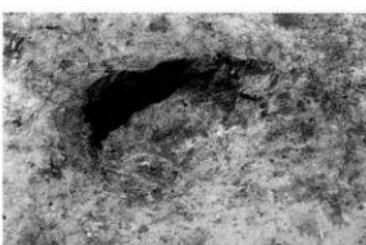
9号炉穴检出状况



9号炉穴



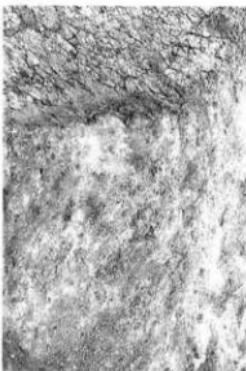
10号、11号炉穴



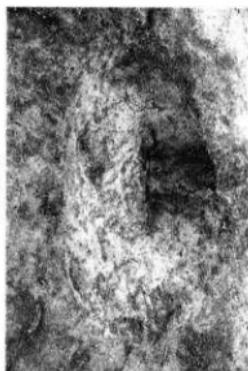
12号炉穴



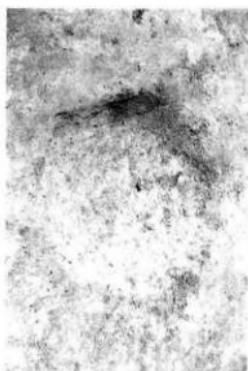
19号炉穴



17号炉穴



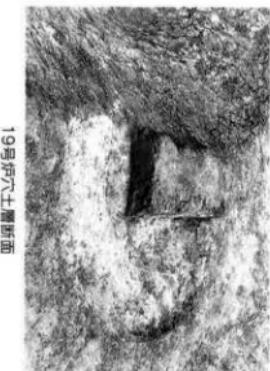
18号炉穴



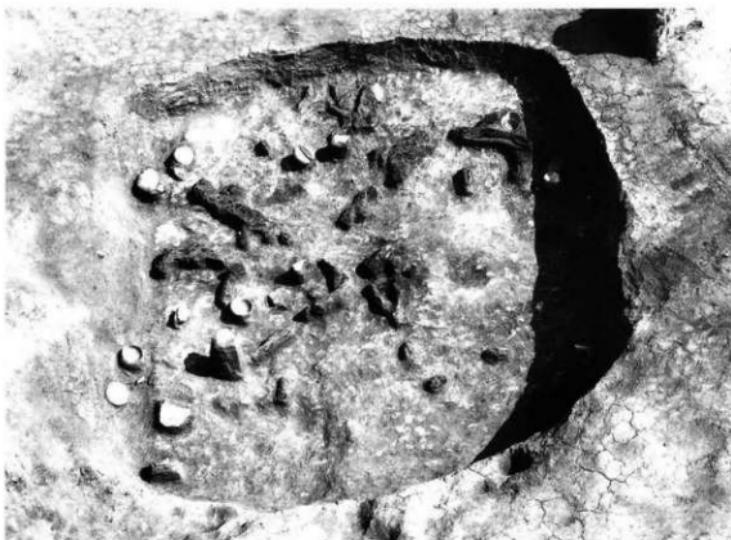
16号炉穴



21号~23号炉穴



19号炉穴土层剖面



1号住居跡遺物出土状況



1号住居跡

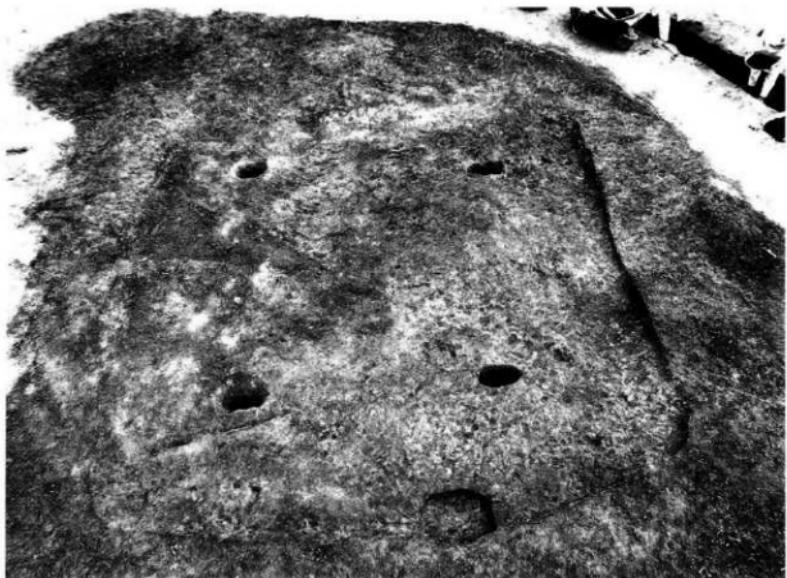
图版8



1号住居跡遺物出土状況



1号住居跡遺物出土状況



2号住居跡



3号、4号住居跡



5号住居跡

图版10



5号住居跡遺物出土状況



6号住居跡



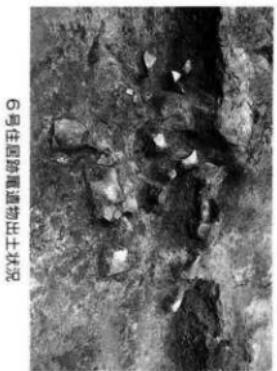
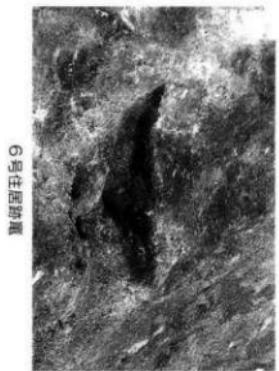
6号住居跡



7号住居跡



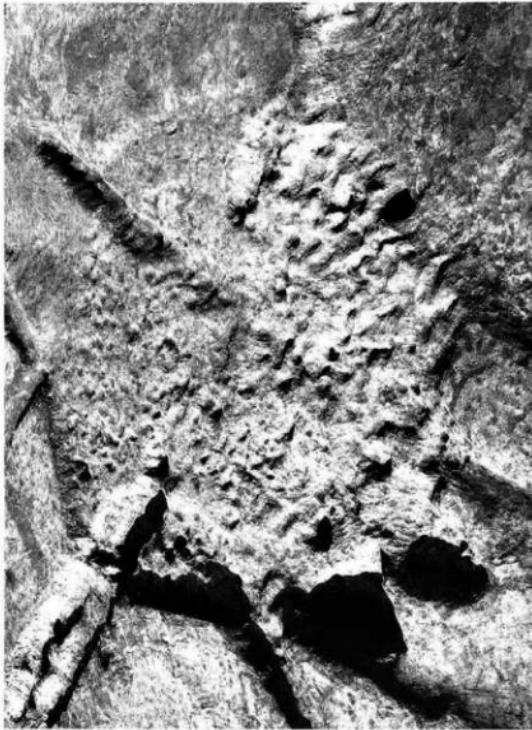
7号住居跡遺物出土状况



図版13

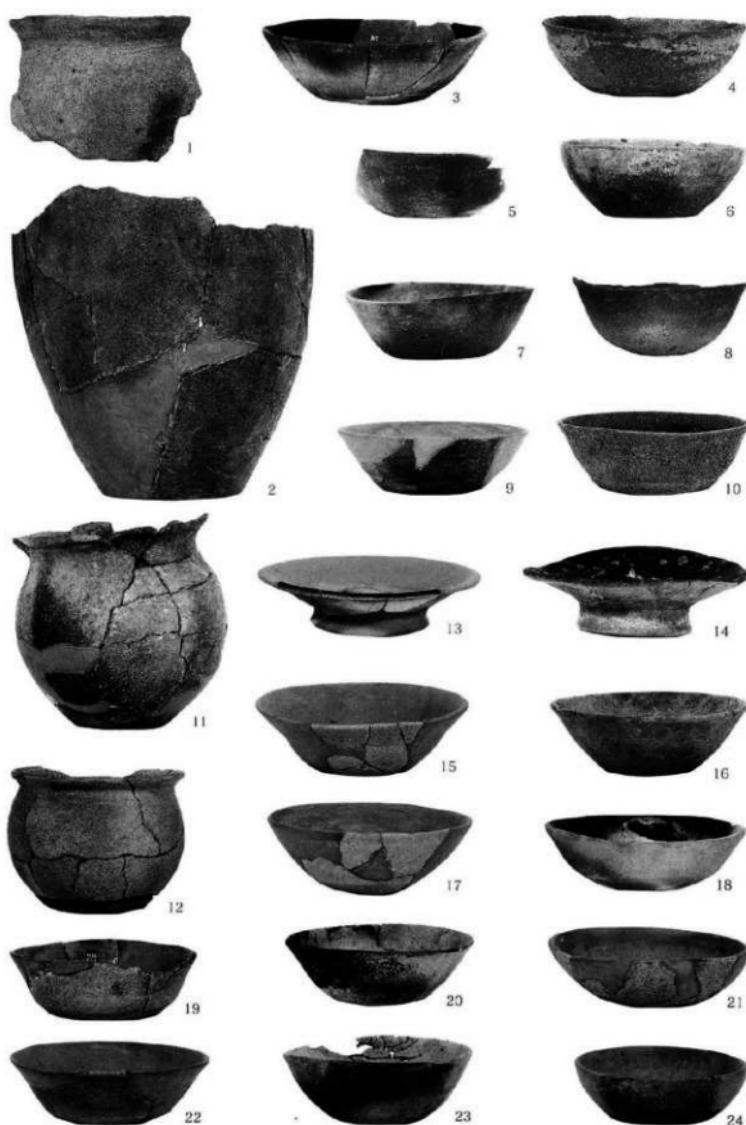


9号住居跡



9号住居跡（振り方）

图版14



1号住居跡出土遺物



5号住居跡出土遺物



7号住居跡出土遺物



6号住居跡出土遺物



4



9

11



13



14



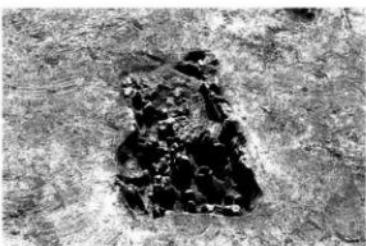
9号住居跡出土遺物

8号住居跡出土遺物

图版16



8号住居跡物出土状況



1号古墳埋葬施設出土状況



1号古墳



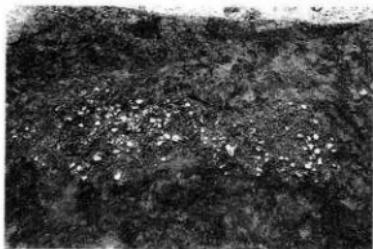
2号古墳埋葬施設出土状況



2号古墳埋葬施設



2号古墳



2号古墳遺物出土状況（底溝確認面）



2号古墳埋葬施設土層断面



2号古墳埋葬施設遺物出土状況



2号古墳埋葬施設

图版18



3号古墳



3号古墳埋葬施設



3号古墳埋葬施設（掘り方）



4号古墳埋葬施設



5号古墳埋葬施設



塚調査前



塚調査後

图版20



塚空撮



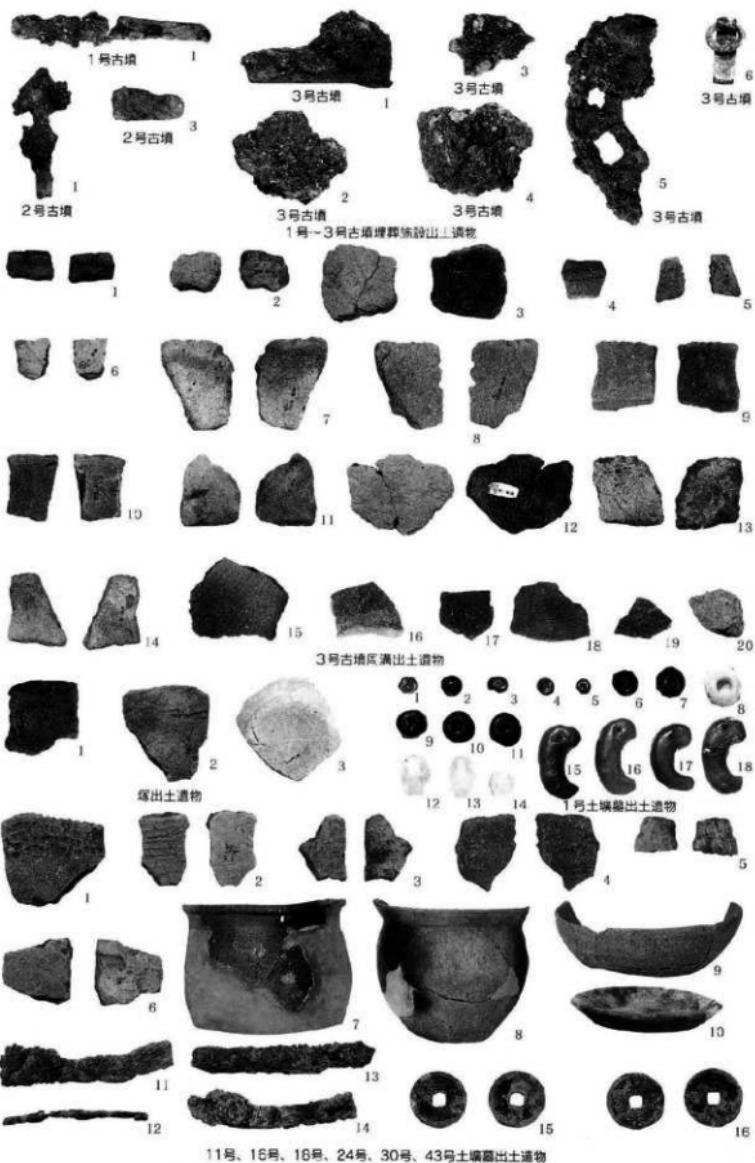
塚土層断面



塚調査風景



塚調査風景



11号、16号、18号、24号、30号、43号土壤层出土遗物

图版22



1号粘土探掘坑



1号粘土探掘坑土層断面



2号粘土探掘坑（南側から）



2号粘土探掘坑（北側から）



2号粘土探掘坑土層断面



1号、2号粘土貼り土坑



1号土壤墓



1号土壤墓遺物出土状況

图版23



2号土壤器
出土情况



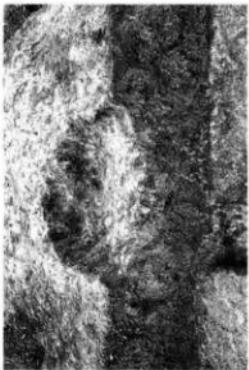
2号土壤器



2号土壤器
出土情况



4号土壤器



7号土壤器
出土情况



7号土壤器

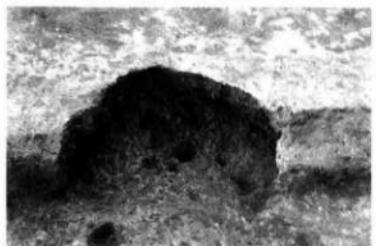


11号土壤器
出土情况



11号土壤器

图版24



13号土壤墓



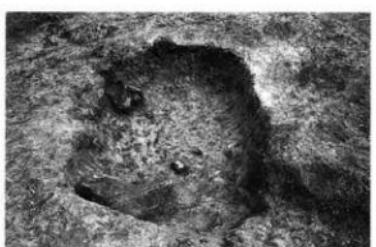
14号土壤墓



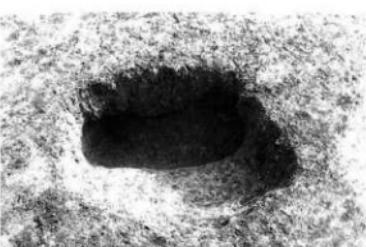
15号土壤墓



16号土壤墓



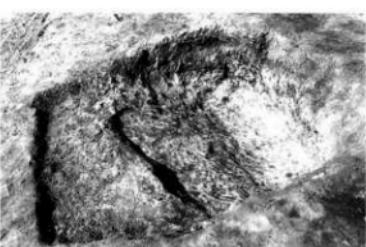
18号土壤墓



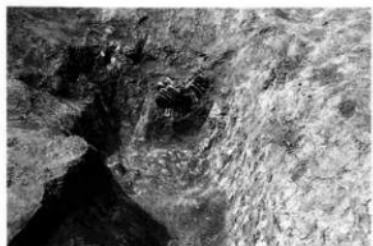
19号土壤墓



20号土壤墓



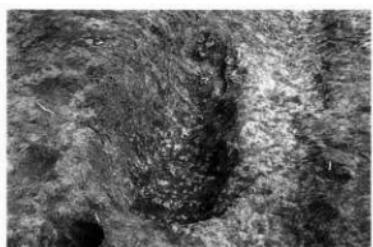
21号土壤墓



22号土壤墓ウマの歯出土状況



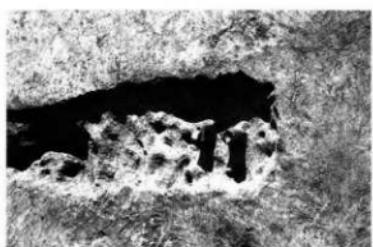
22号土壤墓ウマの歯出土状況



22号土壤墓



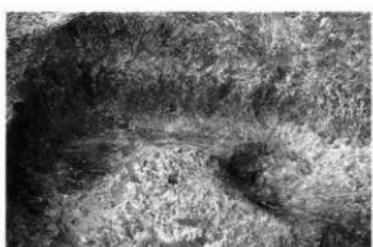
23号土壤墓



24号土壤墓



24号土壤墓遺物出土状況



25号土壤墓

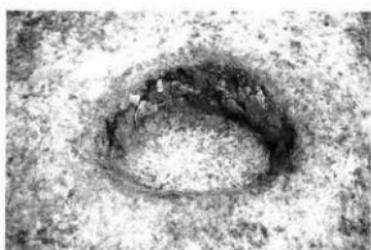


27号土壤墓

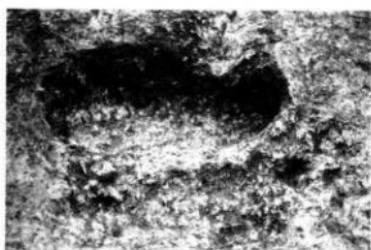
图版26



28号土壤墓



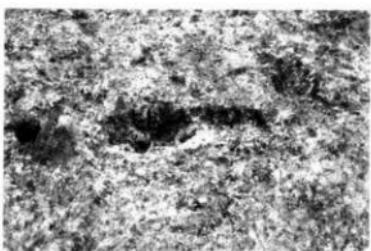
29号土壤墓



32号土壤墓



33号土壤墓



34号土壤墓



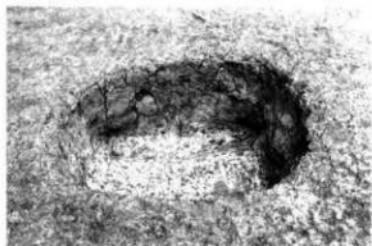
35号土壤墓



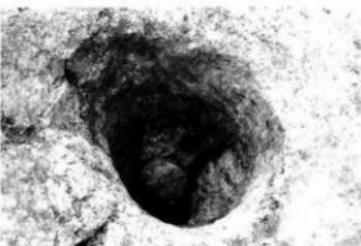
37号土壤墓



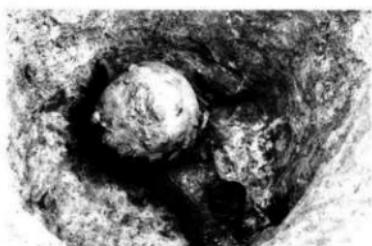
40号土壤墓



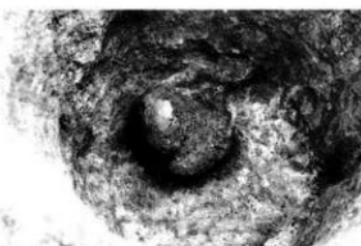
42号土壤墓



43号土壤墓



43号土壤墓遗物出土状况



43号土壤墓头盖骨出土状况



44号土壤墓



45号土壤墓



46号土壤墓



47号土壤墓



1号火葬遗物出土状况



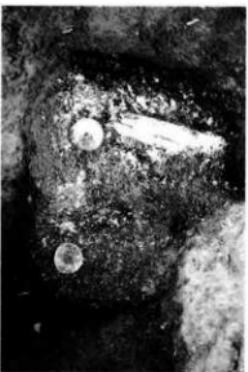
1号火葬遗物出土状况



51号土壤墓



48号土壤墓



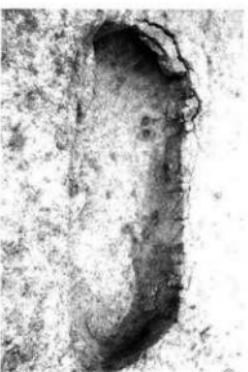
1号火葬遗物出土状况



1号火葬遗物出土状况



52号土壤墓



50号土壤墓



1号火葬遗構遺物出土状况



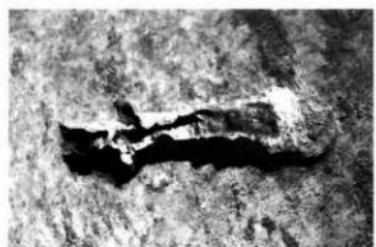
1号火葬遗構



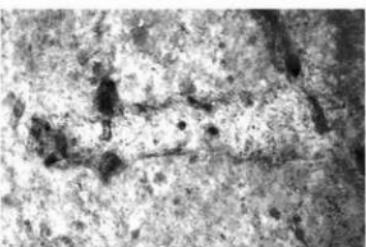
2号火葬遗構



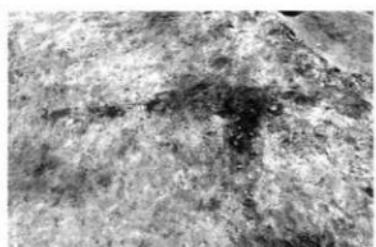
3号火葬遗構土层断面



3号火葬遗構遺物出土状况



3号火葬遗構



4号火葬遗構撿出状况



4号火葬遗構

图版30



5号火葬遗構遺物出土状况



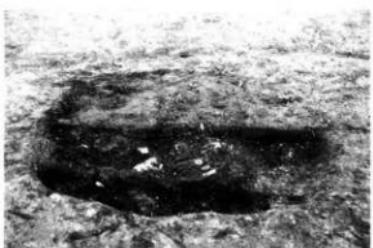
5号火葬遗構遺物出土状况



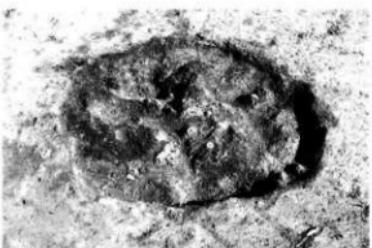
5号火葬遗構遺物出土状况



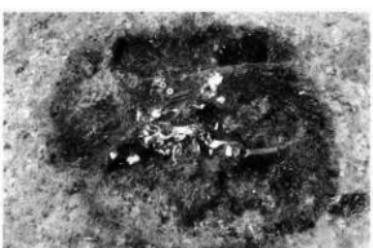
5号火葬遗構



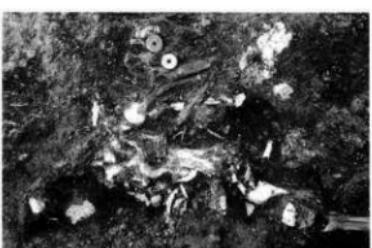
6号火葬遗構遺物出土状况



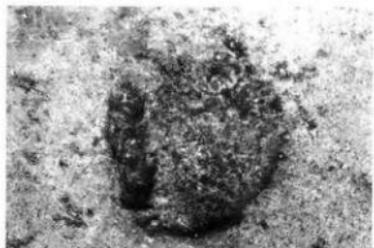
6号火葬遗構遺物出土状况



6号火葬遗構遺物出土状况



6号火葬遗構遺物出土状况



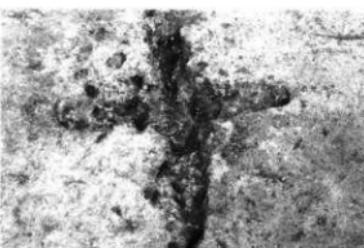
6号火葬遗構



7号火葬遗構土層斷面



7号火葬遗構遺物出土状况



7号火葬遗構



8号火葬遗構棱出状況



8号火葬遗構土層斷面



8号火葬遗構



8号火葬遗構遺物出土状况

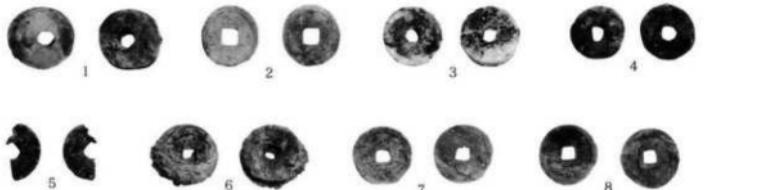
图版32



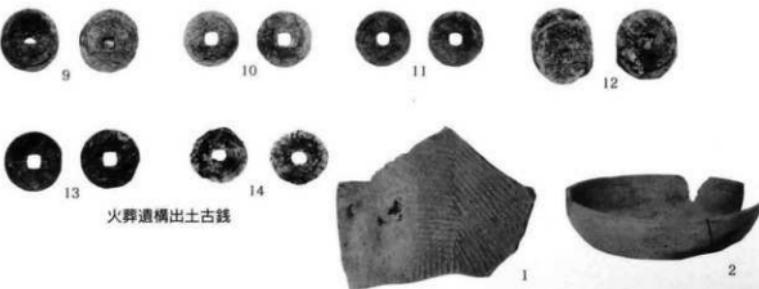
2号土壤墓出土遗物



43号土壤墓出土遗物



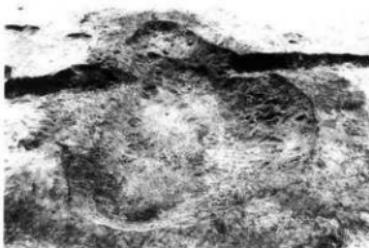
火葬遗构出土古钱



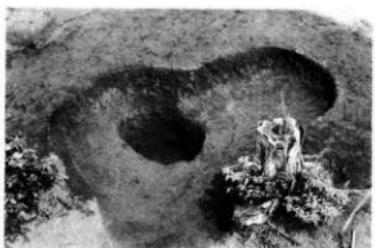
2号粘土探掘坑出土遗物



1号土坑



2号土坑



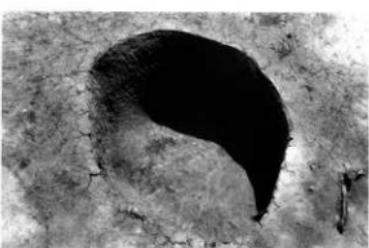
3号土坑



10号、11号土坑



21号土坑



22号土坑

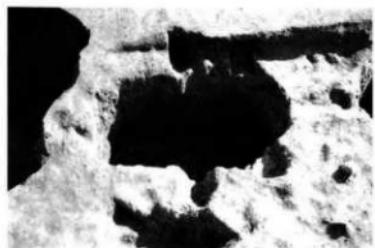


24号土坑



26号土坑

图版34



27号土坑



28号土坑



29号~31号土坑



33号土坑



34号土坑



35号土坑

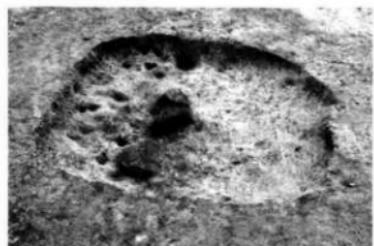


36号土坑



37号土坑

图版35



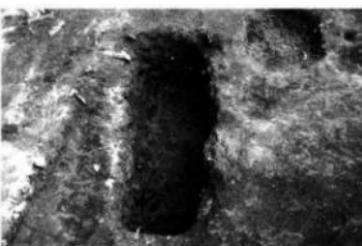
38号土坑



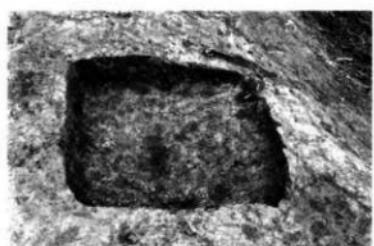
39号土坑



40号土坑



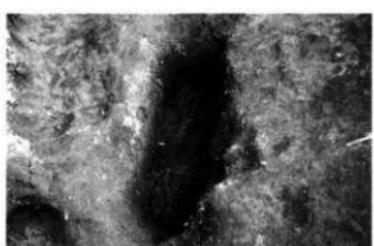
41号土坑



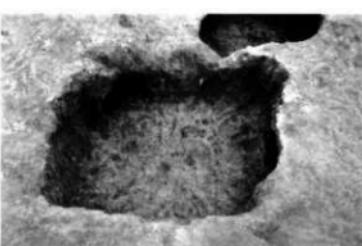
43号土坑



45号土坑



46号土坑

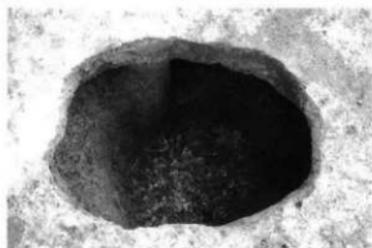


47号土坑

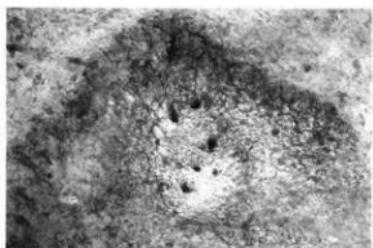
图版36



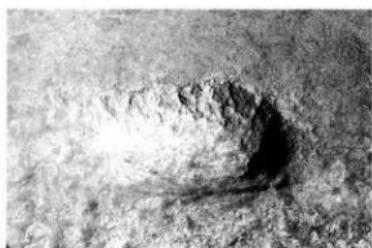
48号土坑



49号土坑



50号土坑



56号土坑



57号土坑



1号土坑出土遗物

図版37



6号、9号～11号、28号、36号～38号、58号土坑出土遺物

21号土坑出土遺物

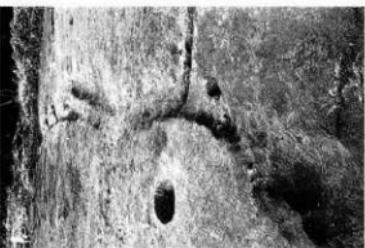
图版38



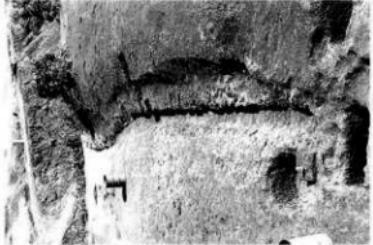
14号溝



42号溝



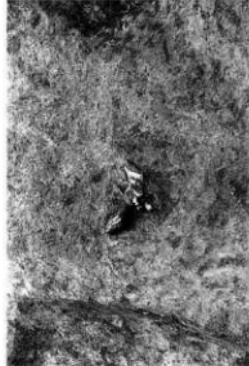
43号溝



28号溝



47号溝



48号溝ウマの出土状況

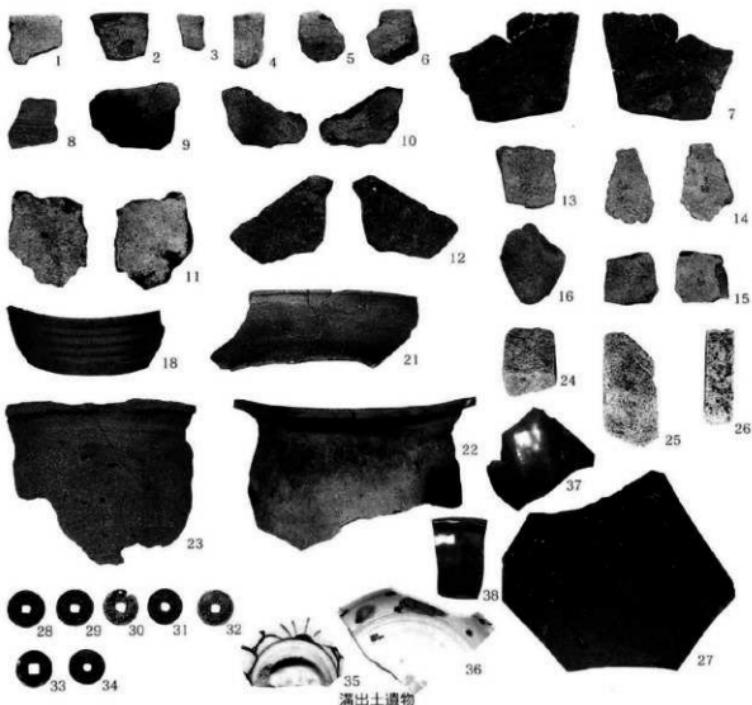


33号溝



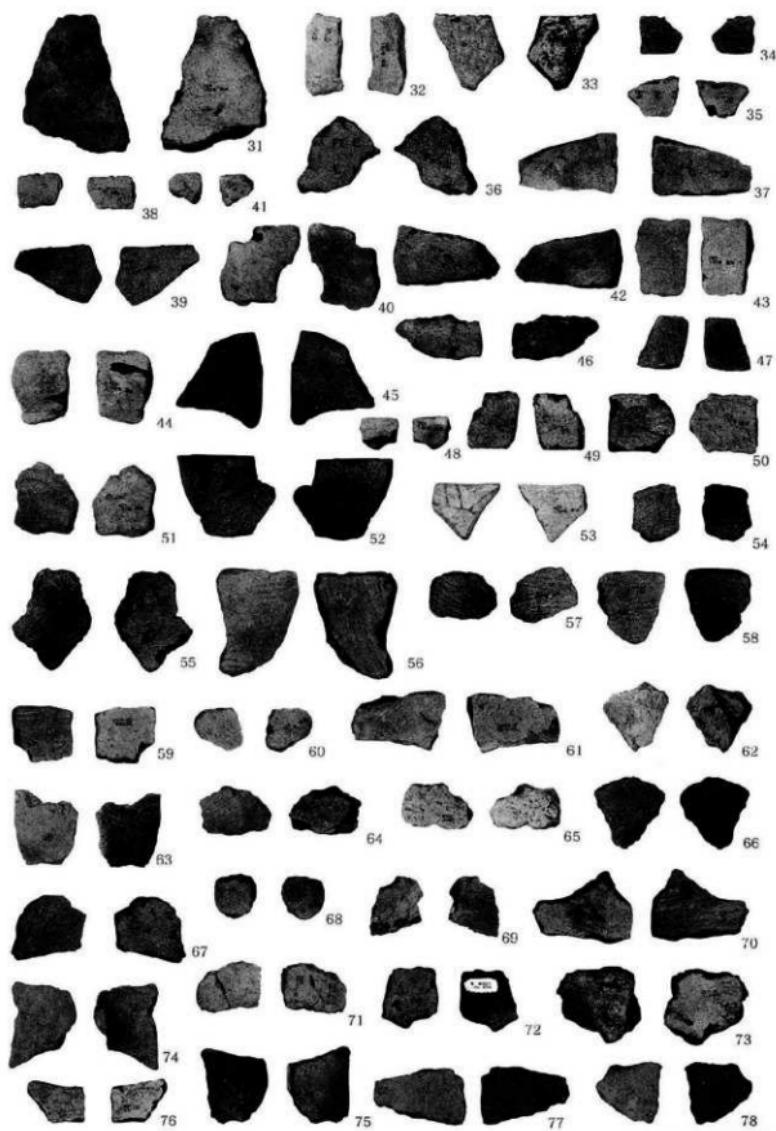
46号溝

図版39



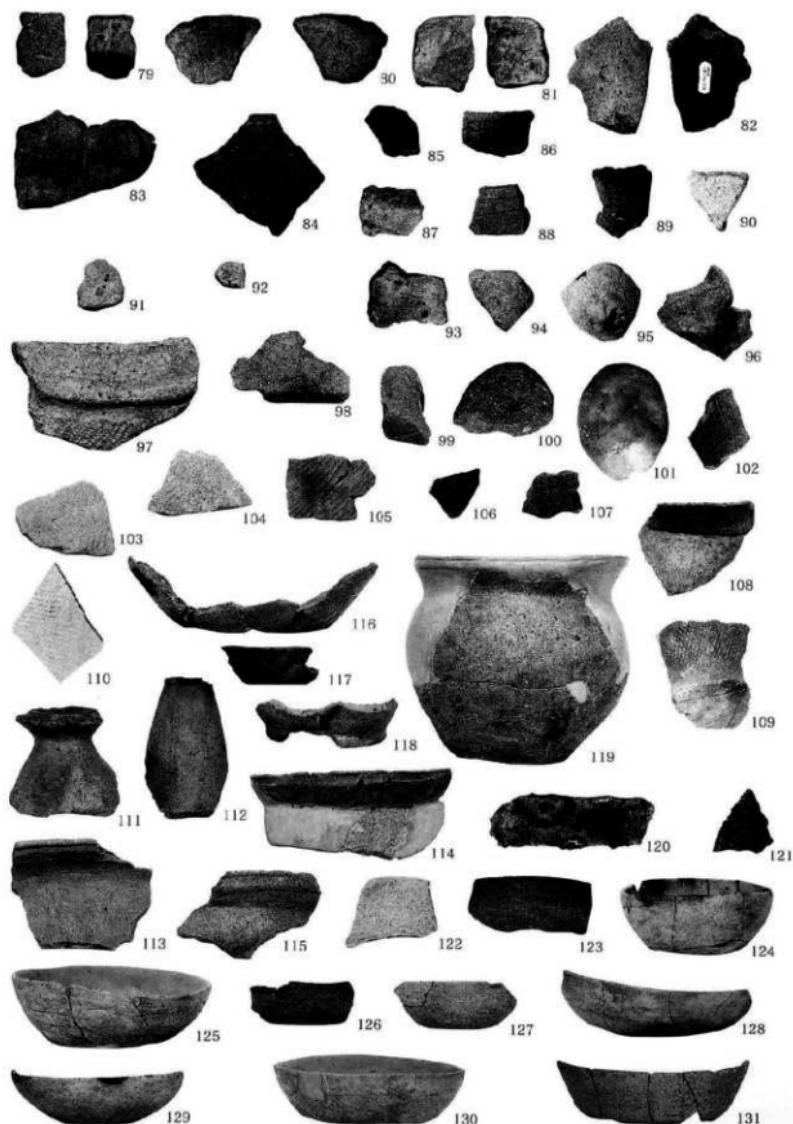
グリッド出土遺物 (1)

図版40



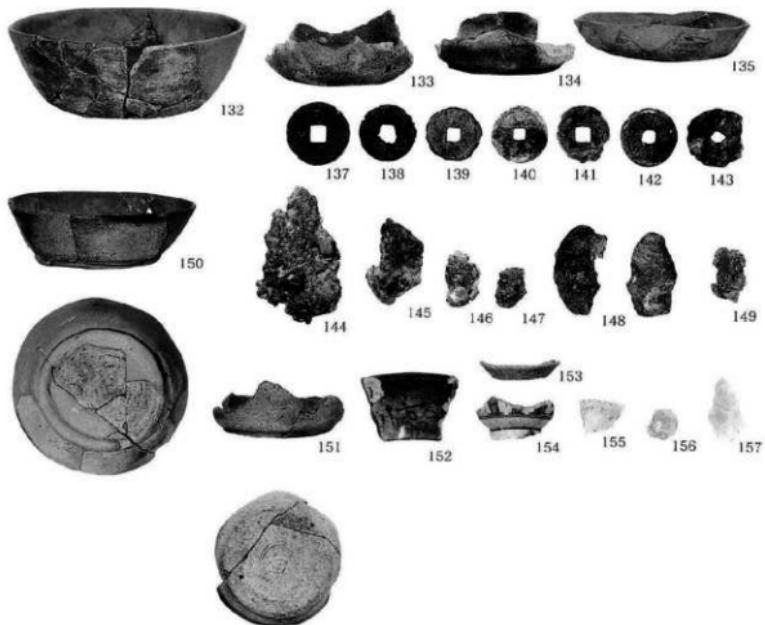
グリッド出土遺物 (2)

図版41



グリッド出土遺物（3）

図版42



グリッド出土遺物 (4)



表採遺物

報告書抄録

ふりがな	ちばけんそうさぐんひかりまちなつだいいせき						
書名	千葉県印旛郡光町夏台遺跡						
副書名	ひかり工業団地理藏文化財調査						
巻次							
シリーズ名	財團法人 東総文化財センター発掘調査報告書						
シリーズ番号	第20集						
編著者名	鈴木 美成						
編集機関	財團法人 東総文化財センター						
所在地	〒289-1727 千葉県印旛郡光町宮川2334番地 TEL 0479-84-3368						
発行年	西暦2000年 3月 31日						
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 ° ° °	東経 ° ° °	調査期間	調査面積	調査原因
夏台遺跡	千葉県印旛郡光町 篠木 字夏台4784番地外	12381	H24	35°29'35" 140°35'42"	1996.5.7~ 1997.3.31	14,670m ²	工業団地 造成
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
夏台遺跡	集落 古墳 墓跡	旧石器時代 绳文時代 弥生時代 古墳時代 奈良時代 平安時代 江戸時代	隙穴・炉穴 竪穴住居跡 古墳 塚 溝 土壙墓 土坑 粘土貼り土坑 火葬遺構 粘土採掘坑	旧石器 绳文土器 弥生土器 土師器 須恵器 鍔・鉄鏃 直刀破片 削芯金貼り銀冠足金具 ガラス玉・切り子玉 勾玉・古錢・燧石 陶磁器	3号古墳埋葬施設から 銅芯金貼り銀冠足金具 を出土した。		

夏台遺跡

—ひかり工業団地理藏文化財調査—

平成12年3月25日 印刷

平成12年3月31日 発行

発行 千葉県企業庁
千葉県千葉市中央区長州1丁目9番1号

編集 財團法人東総文化財センター
千葉県印旛郡光町宮川2334番地

印刷 エリート印刷